第二十三條　各學科目及實習ノ學年評點ハ各學期ノ評點平均ニ依リ之ヲ定ム

第二十四條　各學科目ノ學年評點五十以上學年總數平均點數六十以上ヲ以テ及第トス但シ學年評點五十未滿ノモノ一科目アルモ點數四十以下ナルトキ亦同シ

第二十五條　試驗ニ缺席シタルトキハ其ノ學科目ニ零點ヲ附ス疾病又ハ特別ノ事故ニ依リ缺席シタル者ニ限リ追試驗ヲ受ケシムルコトアルヘシ

第二十六條　生徒ハ第三學年終ニ於テ卒業報文ヲ提出スルモノトス

第二十七條　各學年ノ試驗ニ及第シ卒業報文ニ合格シタル者ハ卒業トス

第二十八條　卒業シタル者ハ其ノ學科ニ從ヒ農學得業士又ハ林學得業士ト稱スルコトヲ得

第六章　特待生

第二十九條　學術優等品行方正ナル者ヲ選ヒテ特待生トス

特待生ハ每學年之ヲ定ム

第三十條　特待生ニハ授業料ヲ免除ス

第三十一條　特待生其ノ資格ヲ損スルトキハ特待生タルコトヲ罷ム

第七章　懲戒

第三十二條　規程命令ニ違背シ風紀ヲ紊亂シ其ノ他生徒タル本分ニ背戻スル者ハ之ヲ懲戒ス

第三十三條　懲戒ハ譴責、停學、除名ノ三種トス

第八章　授業料

第三十四條　授業料ハ一學年金八拾圓トシ左ノ三期ニ分チ下記ノ期間ニ於テ納付スヘシ

第一期　金二十五圓　四月八日ヨリ同月二十日ニ至ル

第二期　金三十圓　九月十一日ヨリ同月二十日ニ至ル

第三期　金二十五圓　一月八日ヨリ同月二十日ニ至ル

第三十五條　授業料納付期限後ニ入學シタル者ハ入學許可ノ日ヨリ十日以內ニ之ヲ納付スルモノトス

第三十六條　授業料ノ納付ヲ怠リ未納三週間ニ及フ者ハ其ノ學籍ヲ除ク

第三十七條　授業料ハ休學停學ノ場合ト雖之ヲ徵收ス但シ兵役ニ服スル爲休學シタル場合ハ之ヲ免ス

退學ノ場合ニ於テハ其ノ納付期ノ授業料ハ之ヲ徵收ス

既納ノ授業料ハ之ヲ還付セス

第九章　服制

第三十八條　生徒ハ別ニ定ムル所ニ依リ規定ノ服裝ヲナスヘシ

第十章　研究生

第三十九條　實科卒業生ニシテ更ニ特殊ノ事項ニ就キ研究セント欲スル者ニハ研究生トシテ在學ヲ許可スルコトアルヘシ

第四十條　研究生ノ在學期間ハ二年以內トス

第四十一條　研究生ハ教官ノ指導ヲ受ク研究ニ從事スルモノトス
第四十二條　研究生ハ在學期ノ終ニ於テ研究報文ヲ作リ指導教官ヲ經テ農學部長ニ提出スルモノトス
其ノ成績佳良ナル者ニハ證明書ヲ付與スルコトアルヘシ
第四十三條　研究生ニハ特ニ規定シタルモノノ外ハ本規程ヲ準用ス

第十一章　雜則

第四十四條　休業日、奬學貸費ニ關シテハ北海道帝國大學通則ニ依ル

附則

本則ハ昭和二年四月一日ヨリ施行ス
第三十四條ハ昭和四年度以降入學ノ生徒ニ對シ之ヲ適用ス

○豫科規則　（昭和四年三月改正）

第一章　目的、修業年限

第一條　北海道帝國大學豫科ハ同大學學部ニ入學セントスル者ニ對シテ高等普通教育ヲ授ケ特ニ國民道德ノ充實ニ努ムルヲ以テ目的トス
第二條　豫科修業年限ヲ三箇年トス

第二章　學年、學期、休業

第三條　學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル
第四條　學年ヲ左ノ三學期ニ分ツ

第一學期　四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル
第二學期　九月一日ヨリ翌年一月七日ニ至ル
第三學期　一月八日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第五條　休業日ハ左ノ如シ

春期休業　四月一日ヨリ四月十日ニ至ル
夏期休業　七月十一日ヨリ八月三十一日ニ至ル
冬期休業　十二月二十五日ヨリ翌年一月七日ニ至ル
日曜日及左ノ祭日祝日

天長節　四月二十九日
秋季皇靈祭　秋分日
神嘗祭　十月十七日
明治節　十一月三日
新嘗祭　十一月二十三日
北海道帝國大學記念日　二月六日
紀元節　二月十一日
春季皇靈祭　春分日

第三章　學科課程

第六條　各學年ノ學科目及每週教授時數左ノ如シ

學科目＼學年	第一學年	第二學年	第三學年
修身	一	一	一
國語及漢文	四	二	
第一外國語	八	六	六
第二外國語	(四)	(四)	(四)
數學	四	四	四(二)
物理		三	實驗三 講義二 五
化學			
植物及動物			
鑛物及地質			
心理		二	
法制及經濟	二	二	
圖畫	二	二	(二)
體操	三	三	三
計	二八(三二)	三八(三二)	二八(三二)

第三學年ノ數學（二）及圖畫（二）ト第三學年ノ植物及動物（講義二、實驗二）トハ生徒ナシテ其ノ一ヲ選擇セシム

第一外國語ハ英語トシ第二外國語ハ獨語トス但シ志望ニヨリ獨語ヲ第一外國語トシ英語ヲ第二外國語トスルコトヲ得

前項ノ場合ハ左ノ教授時數ニ依ル

學科目＼學年	第一學年	第二學年	第三學年
第一外國語	一〇	九	九
第二外國語	(三)	(三)	(三)

第二外國語ハ隨意科トシ之ヲ履修セサル者ニ對シテハ便宜他ノ授業ヲ施スコトアルヘシ

第四章　入學、在學、休學、退學

第七條　入學ハ學年ノ始ニ於テス

第八條　入學資格ハ左ノ各號ノ一ニ該當シ且身體檢查ニ合格シタル者トス

一、中學校第四學年ヲ修了シタル者

二、高等學校尋常科ヲ修了シタル者
三、高等學校高等科入學資格試驗ニ合格シタル者
四、專門學校入學者檢定規程ニ依リ試驗檢定ニ合格シタル者
五、文部大臣ニ於テ高等學校高等科ノ入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者
六、文部大臣ニ於テ一般ノ專門學校ノ入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者

第九條　入學ヲ志望スル者ハ指定ノ書類ニ寫眞及考查料ヲ添ヘ本學豫科ニ差出スヘシ

第十條　考查料ハ金五圓トス
納付シタル考查料ハ還付セサルモノトス

第十一條　入學志願者豫定人員ニ超過スルトキハ學力及人物考查ニヨリテ選拔ス

第十二條　入學ヲ許可セラレタル者ハ指定ノ期日マテニ入學料金三圓ヲ納付スヘシ
入學ノ後出席セスシテ入學ノ取消ヲ許可セラレタル者ニハ之ヲ免除ス但シ既納ノモノハ還付セス

第十三條　生徒ハ入學ノ際父兄保護者又ハ學資供給者ノ宿所氏名ヲ屆出ツヘシ

第十四條　生徒ハ每年四月其ノ宿所ヲ屆出ツヘシ爾後移動ノ際ハ其ノ都度屆出ツルヲ要ス
修學上不適當ト認ムルトキハ轉宿ヲ命スルコトアルヘシ

第十五條　病氣又ハ已ムヲ得サル事故ニヨリ缺席シタル者ハ三日以內ニ其ノ旨屆出ツヘシ
病氣缺席七日以上ニ及フトキハ醫師ノ診斷書ヲ添附スヘシ

第十六條　疾病又ハ特別ノ事故ニヨリ二箇月以上修學スルコト能ハサル者ハ願ニヨリ許可ヲ得テ休學スルコトヲ得
疾病ニヨルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添附スヘシ

第十七條　休學ヲ許可セラレタル者ハ次學年ノ始ヨリ原學年ノ課程ヲ履修スルモノトス

第十八條　兵役ニ服スル者ハ其ノ服役中休學ヲ許可ス
滿期後ハ直ニ原學年ニ復歸スヘシ

第十九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ退學ヲ命ス
一、性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者
二、學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者
三、引續キ一箇年以上缺席シタル者
四、正當ノ事由ナクシテ引續キ一箇月以上缺席シタル者
五、出席常ナラサル者
兵役ニヨリ休學シタル期間ハ前項第三號ノ缺席日數ニ算入セス

第二十條　退學セントスル者ハ其ノ事由ヲ詳記シテ願出テ許可ヲ受クヘシ

第五章　成績考查

第二十一條　學期成績ハ當該學期ニ於ケル平素ノ學業試驗及勤惰ノ狀況ニヨリテ之ヲ考查ス

第二十二條　學期成績ハ科目評點及學期平均點ヲ以テ之ヲ表示シ各一百ヲ以テ最高點トス

第二十三條　各科目ニ就キ各學期評點ノ和ヲ三分シタルモノヲ以テ學年評點トシ各學期平均點ノ和ヲ三分シタルモノヲ以テ總平均點トス

第二十四條　學年總平均點六十以上ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ進級又ハ修了トス
一、學年評點六十未滿ノ科目ナキ者
二、學年評點六十未滿ノ科目四科目以內アルモ其ノ點數一科目四十以上ニシテ他ハ悉ク五十以上ノ者

第二十五條　進級修了又ハ成績ノ判定ニハ平素ノ行狀ヲモ參酌スルコトアルヘシ
第二十六條　試驗ニ缺席シタル者ノ評點ハ當該學年ニ於ケル他學期ノ成績ト當該學期ニ於ケル平素ノ成績及勤惰トヲ參酌シテ之ヲ定ム
懲戒ヲ受ケタルカ爲試驗ニ缺席シタル者ニ對シテハ臨機ノ處置ヲ爲スヘシ
第二十七條　進級又ハ修了セサル者ハ次學年ニ於テ原學年ノ各學科目ヲ再ヒ履修スルモノトス
引續キ二回原級ニ止マル者ハ退學トス

第六章　特待生

第二十八條　學力優等品行方正ナル者ヲ選ヒテ特待生トス
特待生ハ每學年之ヲ定ム
第二十九條　特待生ニハ授業料ヲ免除ス
第三十條　特待生其ノ資格ヲ損スルトキハ之ヲ廢罷ス

第七章　懲戒

第三十一條　規則命令ニ違背シ風紀ヲ紊亂シ其ノ他生徒タル本分ニ背戻スル者ハ之ヲ懲戒ス
第三十二條　懲戒ハ譴責、停學、除名ノ三種トス

第八章　授業料

第三十三條　授業料ハ一年金八十圓トス
左ノ三期ニ分チ下記ノ期間ニ於テ納付スヘシ
第一期　金二十五圓　四月二十一日ヨリ同月三十日ニ至ル
第二期　金三十圓　九月一日ヨリ同月十日ニ至ル
第三期　金二十五圓　一月八日ヨリ同月二十日ニ至ル
第三十四條　授業料納付期限後ニ入學シタル者ハ入學許可ノ日ヨリ十日以內ニ之ヲ納付スルモノトス
第三十五條　指定ノ期間ニ授業料ヲ納付セサル者ハ其ノ未納中授業ヲ受クルコトヲ得サルモノトス
第三十六條　授業料ノ納付ヲ怠リ未納三週間ニ及フ者ハ其ノ學籍ヲ除ク
第三十七條　授業料ハ休學、停學ノ場合ト雖之ヲ徵收ス但シ兵役ニヨル休學中ノ者ニハ次期以後ノ分納ヲ免除ス
退學ノ場合ニ於テハ其ノ期ノ授業料ハ之ヲ徵收ス

第九章　服制

第三十八條　生徒ハ別ニ定ムル所ニヨリ一定ノ服裝ヲナスヘシ

第十章　奬學貸費

第三十九條　奬學貸費ニ關シテハ別ニ定ムル所ニヨル

附則

本則ハ大正八年九月十一日ヨリ施行ス
卒業ヲ修了ト改ムルハ昭和四年三月一日ヨリ之ヲ施行ス
第三十三條ハ昭和四年度以降入學ノ生徒ニ對シ之ヲ適用ス

○附屬土木專門部規則

（昭和四年六月改正）

第一章　目的、定員、修業年限

第一條　土木專門部ハ土木工學ニ關スル高等ノ教育ヲ授クルヲ以テ目的トス

第二條　本專門部生徒ノ定員ハ九十名トス

第三條　本專門部ノ修業年限ハ三個年トス

第二章　學年、學期、休業

第四條　學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第五條　學年ヲ左ノ三學期ニ分ツ

第一學期　四月一日ヨリ七月十日ニ至ル

第二學期　七月十一日ヨリ十二月二十四日ニ至ル

第三學期　十二月二十五日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル

第六條　休業日ハ左ノ如シ

日曜日

大祭祝日

北海道帝國大學祝日　二月六日

春期休業　四月一日ヨリ四月七日ニ至ル

夏期休業　七月十一日ヨリ九月十日ニ至ル

冬期休業　十二月二十五日ヨリ翌年一月七日ニ至ル

第三章　學科課程

第七條　各學年ノ學科目及每週授業時間數左ノ如シ

學科目	第一學年			第二學年			第三學年		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
修身	一	一	一	一	一	一	一	一	一
英語	三	三	三	三	三	三	三	三	三
代數	五								
三角術及解析幾何		五	三						
微積分			五	六					
物理學	三	三	三	三	三	三	三	二	一
地質學	三	二							
化學	三								
力學及圖式力學									

器械及發動學	鐵道	道路	石工	水利工學	鐵筋混凝土	衛生工學	電氣工學	橋梁	造家學	建築材料	土木法令經濟	測量術	畫法	製圖設計
												三	六	
										三		三	六	
										三			四	六
													三	六
												三	二	九
								四				四	三	九
								四				三	三	九
								四				三	三	九
								四				三	三	九
								四				三	三	九

第八條　入學ハ學年ノ始ニ於テス

第九條　入學資格ハ左ノ各號ノ一ニ該當シ且體格檢査ニ合格シタル男子トス

一、中學校ヲ卒業シタル者

二、專門學校入學者檢査規程ニ據ル試驗檢定ニ合格シタル者

三、專門學校入學者檢査規程第八條第一號ノ指定ヲ受ケタル者

第十條　入學ヲ志望スル者ハ入學志願者名票ニ所定ノ事項ヲ記入シ檢定料ニ添ヘ本學ニ差出スヘシ

第十一條　檢定料ハ金五圓トス

納付ノ檢定料ハ還付セサルモノトス

第十二條　入學志願者豫定人員ヲ超過スルトキハ選拔試驗ヲ行ヒ其ノ成績良好ナル者ヨリ順次入學セシム

中學校卒業者ニシテ成績優等ト認ムル者ニ限リ無試驗入學セシムルコトアルヘシ但シ無試驗檢定ハ卒業ノ年及其ノ翌年ニ於テノミ之ヲ行フ

第十三條　選拔試驗ハ中學卒業程度ニヨリ左ノ學科目ニ就キ之ヲ行フ

第四章　入學、在學、休學、退學

測量實習	實驗	兵式體操	計
三		二	三七
		二	三一
六		二	三七
六		二	三八
		二	三五
		二	三七
二		二	三七
二		二	三八
二		二	三二

國語、漢文、英語、數學

前項學科目ノ外理化學動植物學ノ內何レカ一ヲ臨機之ヲ行フ

第十四條　入學ヲ許可セラレタル者ハ指定ノ期日マテニ入學料金三圓ヲ納付スヘシ

入學ノ後出席セスシテ入學取消ヲ許可セラレタル者ニハ之ヲ免除ス但シ既納ノモノハ還付セス

第十五條　生徒ハ入學ノ際札幌市在住ノ保證人連署ノ在學證書ヲ差出スヘシ

正當ノ事由ナクシテ四月末日マテニ前項ノ手續ヲ爲ササル者ハ入學ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

在學證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ旨屆出ツヘシ

第十六條　生徒ノ宿所不適當ナリト認ムルトキハ之ヲ變更セシムルコトアルヘシ

第十七條　病氣又ハ己ムヲ得サル事故ニヨリ缺席シタル者ハ三日以內ニ其ノ旨屆出ツヘシ

病氣缺席七日以上ニ及フトキハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第十八條　疾病又ハ特別ノ事故ニヨリ二箇月以上修學スルコト能ハサル者ハ保證人連署屆出ニヨリ許可ヲ得一箇年間ノ休學ヲ爲スコトヲ得

疾病ニヨルトキニ醫師ノ診斷書ヲ添附スヘシ

第十九條　休學ヲ許可セラレタル者ハ滿期後原學年ニ入リ修學スルモノトス

休學期限內ト雖其ノ事故止ミタルトキハ許可ヲ得テ修學スルコトヲ得

第二十條　兵役ニ服スル者ハ其ノ服役中休學ヲ許可ス

滿期後ハ直ニ原學年ニ復歸スヘシ

第二十一條　生徒ハ許可ヲ受クルニアラサレハ他ノ學校ニ入リ又ハ他學校若ハ官署ニ於ケル各種ノ試驗ニ應スルコトヲ得ス

許可ヲ受ケントスル者ハ其ノ事由ヲ具シ保證人連署ノ上其ノ旨願出ツヘシ

第二十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ退學ヲ命ス

一、性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者

二、學業劣等若ハ身體虛弱ニ依リ成業ノ見込ナシト認メタル者

三、一箇月以上無屆缺席シタル者

四、出席甚タ不規律ナル者

第二十三條　退學セントスル者ハ其ノ事由ヲ詳記シ保證人連署屆出テ許可ヲ受クヘシ

第五章　試驗、卒業、稱號

第二十四條　學業試驗ハ每學期ノ終ニ於テ之ヲ行フ但シ教官ノ見込ニヨリ臨時試驗ヲ行フコトアルヘシ

第二十五條　一學年ノ課程ヲ修了シタル者ニアラサレハ次學年ノ課程ヲ履修スルコトヲ得ス

第二十六條　一學年ノ課程ノ修了ハ學年ノ終ニ於テ各學科目ノ成績ヲ考査シテ之ヲ制定ス

第二十七條　各學科目ノ學期評點ハ學期試驗點數ト平素ノ成績ヲ考査シテ之ヲ定ム

臨時試驗ヲ施行シタル場合ニハ學期試驗點數及臨時試驗評點數トヲ考査シテ之ヲ定ム

第二十八條　每學年ノ各學科目ノ評點ハ各學期ノ評點平均ニヨリテ定ム

第二十九條　試驗ノ成績評點ハ各學科目一百ヲ行テ最高點トス

第三十條　各學科目ノ學期試驗成績評點ニシテ四十點ニ滿タサルトキハ其ノ學期ニ於ケル當該學科ノ授業時間數ノ九割以上出席シタル者ニ限リ特ニ四十點ヲ與フルコトアルヘシ

第三十一條　課程ノ修了ハ左ノ條項ニ該當スル者ニ就キ平素ノ行狀及勤惰ヲ參酌シテ之ヲ定ム

一、各學科目ノ學年評點平均六十以上ヲ得タル者
一、各學科目學年評點各五十以上ヲ得タル者

第三十二條　試驗ニ欠席シタルトキハ其ノ學科目ニ零點ヲ附ス
疾病又ハ止ムヲ得サル事故ニヨリ試驗ヲ受クルコト能ハサルモ其ノ事由明瞭ナル者ニハ該學年中ニ得タル他ノ學期成績ヲ參酌シ其ノ學期中ノ勤惰ヲ考査シテ認定點ヲ附シ該學期成績トナスコトアルヘシ

第三十三條　課程ヲ修了セサル者ハ原級ニ止マリ次學年ニ於テ原學年ノ各學科目ヲ再ヒ履修スルモノトス

第三十四條　引續キ二同原級ニ止マル者ハ退學トス但シ休學シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十五條　第三學年ノ課程ヲ修了シタル者ハ卒業トス
卒業ノ席次ハ各學年ノ平均點數ヲ以テ之ヲ定ム

第三十六條　卒業シタル者ハ工學得業士ト稱スルコトヲ得

第六章　特待生

第三十七條　學力優等品行方正ナル者ヲ選ヒテ特待生トス
特待生ハ每學年之ヲ定ム

第三十八條　特待生ニハ授業料ヲ免除ス

第三十九條　特待生其ノ資格ヲ損スルトキハ之ヲ罷免ス

第七章　懲戒

第四十條　規則命令ニ違背シ風紀ヲ紊亂シ其ノ他生徒タル本分ニ背戻スル者ハ之ヲ懲戒ス
懲戒ハ譴責、停學、除名ノ三種トス

第八章　授業料

第四十一條　授業料ハ一學年金八十圓トス
左ノ三期ニ分チ下記ノ期間ニ於テ納付スヘシ

第一期　金二十五圓　四月八日ヨリ同月二十日ニ至ル
第二期　金三十圓　九月十一日ヨリ同月二十日ニ至ル
第三期　金二十五圓　一月八日ヨリ同月二十日ニ至ル

第四十二條　授業料納付期限後ニ入學シタル者ハ入學許可ノ日ヨリ十日以內ニ之ヲ納付スルモノトス

第四十三條　規定ノ期間ニ納付セサル者ハ其ノ未納中授業ヲ受クルコトヲ得サルモノトス

第四十四條　授業料ノ納付ヲ怠リ未納三週間ニ及フ者ハ其ノ學籍ヲ除ク

第四十五條　授業料ハ休學、停學ノ場合ト雖之ヲ徵收ス但シ兵役ニヨル休學中ノ者ニハ次期以後ノ分納ヲ免除ス
退學ノ場合ニ於テハ其ノ期ノ授業料ハ之ヲ徵收ス

第九章　服制

第四十六條　生徒ハ別ニ定ムル所ニヨリ一定ノ服裝ヲナスヘシ

第十章　奬學貸費

第四十七條　奬學貸費ニ關シテハ別ニ定ムル所ニヨル

附　則

本則ハ大正八年九月十一日ヨリ施行ス

第四十一條ハ昭和四年度以降入學ノ生徒ニ對シ之ヲ適用ス

○附屬水產專門部規則

（昭和四年三月改正）

第一章　目的、學科、定員、修業年限

第一條　水產專門部ハ水產ニ關スル高等教育ヲ授クルヲ以テ目的トス

第二條　本專門部ニ漁撈科、養殖科及製造科ヲ置ク

第三條　本專門部生徒ノ定員ハ各科六十名トス

第四條　各科ノ修業年限ヲ三箇年トス

第二章　學年、學期、休業

第五條　學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第六條　學年ヲ左ノ三學期ニ分ツ

第一學期　四月一日ヨリ七月十日ニ至ル

第二學期　七月十一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル

第三學期　一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第七條　休業日ハ左ノ如シ

日曜日

大祭祝日

北海道帝國大學祝日　二月六日

春期休業　四月一日ヨリ四月七日ニ至ル

夏期休業　七月十一日ヨリ九月十日ニ至ル

冬期休業　十二月二十五日ヨリ翌年一月七日ニ至ル

實驗實習ハ休業日ト雖之ヲ課スルコトアルヘシ

第三章　學科課程

第八條　各學年ノ學科課程左ノ如シ

漁撈科

學科目	第一學年 第一學期	第一學年 第二學期	第一學年 第三學期	第二學年 第一學期	第二學年 第二學期	第二學年 第三學期	第三學年 第一學期	第三學年 第二學期	第三學年 第三學期
修身	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定	二	一
英語	三	三	三	三	三	三		四	四
水產通論	一	一	一						
數學	四	四	四						

水產動物學	水產植物學	浮游生物學	化學原論	物理學	機械學	特殊機械學	氣象學	海洋學	航海術	運用術	漁船論	造船原論	漁撈論 網漁論	漁撈論 釣漁論
三	二		三	四			一	二	二				一	一
三	二		三	四			一	二	二				一	一
三	二		三	四			一	二	二	二			一	
		二			三				四	三	二		二	二
		二			三				四	三	二		二	二
		二			三				四	四	二		二	二
						二							二	二
						二						三	二	二
						二						三	二	二

漁撈論 雜漁論	救急療法	水產養殖論	水產保護論	水產製造論	經濟原論	水產經濟	水產法律	兵式體操	特別講義	計	水產動物學實驗	水產植物學實驗	浮游生物學實驗	化學實驗
								二		二九	三	三		三
								二		二九	三	三		三
								二		三〇	三	三		三
	二	一		一	二			二		二九			三	
	二	一		一	二			二		二九			三	
		一		一	二			二		二八			三	
二						三	三	二	不定	一六				
二			三			三	三	三	不定	二九				
二			三			三	三	三	不定	二八				

學科目		第一學年 第一學期	第一學年 第二學期	第一學年 第三學期	第二學年 第一學期	第二學年 第二學期	第二學年 第三學期	第三學年 第一學期	第三學年 第二學期	第三學年 第三學期
修身		不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定
英語		三	三	三	三	三	三	三	三	三
水產通論		一	一	一						
水產動物學		三	三	三						
水產植物學					二	二	二			
動物發生學										
浮游生物學										
應用菌學										
化學原論					三	三	三			
有機及生物化學										
營養化學										
物理學					四	四	四			
氣象學					一	一	一			
海洋學					二	二	二			
湖沼學										
動物生理學										
遺傳學										
鹹水養殖論										
魚學										
水產植物學					二	二	二			
動物發生學										
浮游生物學										
應用菌學										
化學原論					三	三	三			
有機及生物化學										
營養化學										
物理學					四	四	四			
氣象學					一	一	一			
海洋學					二	二	二			
湖沼學										
動物生理學										
遺傳學										
鹹水養殖論										
氣象及海洋學實驗		不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定
漁具製作實習		一	一	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定
漁法演習					不定	不定	不定	不定	不定	不定
航海運用實習					不定	不定	不定	不定	不定	不定
漁船製圖								不定	不定	不定
漁撈航海運用練習		不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定
水產經濟演習								不定	不定	不定
計		一〇	一〇	九	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇

淡水養殖論						
水產保護論						
漁撈論						
水產製造論						
經濟原論						
水產經濟						
水產法律						
兵式體操	二	二	二	二	二	二
特別講義						
計	二四	二四	二四	二六	二六	二六
水產動物學實驗	三	三	三	四	四	四
魚學實驗						
動物發生學實驗						
水產植物學實驗	三	三	三	四	四	四
動物組織學實驗						

浮游生物學實驗						
應用菌學實驗						
化學實驗	定性三	三	三	三	三	三
養殖實驗						
氣象及海洋學實驗						
水產經濟演習						
計	九	九	九	一三	一三	一三
特別講義中ニ測量術ヲ入ル						
製造科						
學科目	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
修身	不定	不定	不定	不定	不定	不定
英語	三	三	三	三	三	三
水產通論	一	一	一			
數學	四	四	四			

第一學年				第二學年				第三學年			
第一學期	第二學期	第三學期		第一學期	第二學期	第三學期		第一學期	第二學期	第三學期	
不定	不定	不定		不定	不定	不定		定量 五	五	五	
不定	不定	不定		不定	不定	不定		六	六	六	
不定	不定	不定		不定	不定	不定		六	六	六	

水產動物學	三	三	三						
水產植物學	二	二	二						
應用菌學				二	二	二			
化學原論	三	三	三						
有機及生物化學				四	四	四			
營養及食品化學							三	三	三
物理學	四	四	四						
機械學				三	三	三			
特殊機械學							二	二	二
氣象學	一	一	一						
海洋學	二	二	二						
漁撈論				一	一	一			
水產養殖論				一	一	一			
水產工業品製造論	一	一	一	二	二	二	二	二	
水產食用品製造論	二	二	二	三	三	三	四	五	

經濟原論				二	二	二			
水產經濟							三	三	三
水產法律							三	三	三
兵式體操	二	二	二	二	二	二	二	二	二
特別講義							不定	不定	不定
計	二八	二八	二八	二三	二三	二三	二二	二五	一七
水產動物學實驗	三	三	三						
水產植物學實驗	三	三	三						
應用菌學實驗				三	三	三			
化學實驗	三	三	三	九	九	九	九	八	九
水產製造實習			二	三	三	三	不定	不定	不定
機械製圖							六	六	六
水產經濟演習							不定	不定	不定
特別實驗								不定	不定
計	九	九	一一	一五	一五	一五	一五	一四	一五

第四章　入學、在學、休學、退學

第九條　入學ハ學年ノ始ニ於テス

第十條　入學志願者ハ三科ノ中一科ヲ選ヒ出願スヘシ

入學ノ後ハ轉科スルヲ許サス

第十一條　入學資格ハ左ノ各號ノ一ニ該當シ且體格檢査ニ合格シタル者トス

一、中學校ヲ卒業シタル者

二、專門學校入學者檢定規程ニヨリ試驗檢定ニ合格シタル者

三、文部省專門學校入學者檢定規程第八條第一號ニ該當スル者

第十二條　入學ヲ志望スル者ハ入學志願者名票ニ所定ノ事項ヲ記入シ檢定料ヲ添ヘ本學ニ差出スヘシ

第十三條　檢定料ハ金五圓トス

納付シタル檢定料ハ還付セサルモノトス

第十四條　入學志願者豫定人員ヲ超過スルトキハ選拔試驗ヲ行ヒ其ノ成績優良ナル者ヨリ順次入學セシム

第十五條　選拔試驗ハ中學卒業ノ程度ニヨリ左ノ學科目ニ就キ之ヲ行フ但シ時宜ニヨリ變更スルコトアルヘシ

國語、漢文、英語、數學、物理、化學、博物

第十六條　入學ヲ許可セラレタル者ハ指定ノ期日マテニ入學料金三圓ヲ納付スヘシ

入學ノ後出席セスシテ入學ノ取消ヲ許可セラレタル者ニハ之ヲ免除ス但シ既納ノモノハ還付セス

第十七條　生徒ハ入學ノ際札幌市在住ノ保證人連署ノ在學證書ニ戸籍抄本ヲ添ヘ差出スヘシ

正當ノ事由ナクシテ四月末日マテ前項ノ手續ヲ爲ササル者ハ入學ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

在學證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタル時ハ其ノ旨屆出ツヘシ

第十八條　生徒ノ宿所不適當ナリト認ムルトキハ變更セシムルコトアルヘシ

第十九條　病氣又ハ已ムヲ得サル事故ニヨリ缺席シタル者ハ保證人連署ノ上三日以內ニ其ノ旨屆出ツヘシ

病氣缺席七日以上ニ及フトキハ醫師ノ診斷書ヲ添附スヘシ

第二十條　病氣又ハ特別ノ事故ニヨリ二箇月以上修學スルコト能ハサル者ハ保證人連署願出ニヨリ許可ヲ得テ其ノ學年間休學スルコトヲ得

疾病ニヨルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添附スヘシ

第二十一條　休學ヲ許可セラレタル者ハ次學年ノ始ヨリ原學年ノ課程ヲ履修スルモノトス

休學期間內ト雖其ノ事故止ミタルトキハ許可ヲ得テ修學スルコトヲ得

第二十二條　兵役ニ服スル者ハ服役中休學ヲ許可ス

滿期後ハ直ニ原學年ニ復歸スヘシ

第二十三條　威業ノ見込ナシト認メタル者ハ退學セシムルコトアルヘシ

第二十四條　退學セントスル者ハ其ノ事由ヲ詳記シ保證人連署願出テ許可ヲ受クヘシ

第五章　成績考查、卒業、稱號

第二十五條　學期成績ハ其ノ學期ニ於ケル平素ノ學業試驗實驗實習成績及勤怠ノ狀況ニヨリテ之ヲ考查ス

第二十六條　學期成績ハ各科目評點（學期評點）及其ノ平均點ヲ以テ之ヲ表示シ各一百ヲ以テ最高點トス

第二十七條　學年成績ハ各科目各學期評點ノ平均點（學年評點）ト其ノ平均點ヲ以テ之ヲ表示ス

第二十八條　各科目ノ學年評點五十以上其ノ平均點六十以上ヲ得タル者ヲ及第トス

第二十九條　試驗ニ缺席シタルトキハ其ノ學科目ニ零點ヲ附ス
疾病又ハ特別ノ事故ニヨリ缺席シタル者ニ限リ追試驗ヲ受ケシムルコトアルヘシ
第三十條　同學年ニ於テ二回落第シタル者ハ退學トス
第三十一條　卒業ハ在學中ノ成績ヲ考査シテ之ヲ定ム
第三十二條　卒業シタル者ハ水產學得業士ト稱スルコトヲ得

第六章　特待生

第三十三條　學力優等、品行方正ナル者ヲ選ヒテ特待生トスルコトアリ
特待生ハ每學年之ヲ定ム
第三十四條　特待生ニハ授業料ヲ免除ス
第三十五條　特待生其ノ資格ヲ損スルトキハ之ヲ廢罷ス

第七章　懲戒

第三十六條　規則命令ニ違背シ風紀ヲ紊亂シ其ノ他生徒タル本分ニ背戻スル者ハ之ヲ懲戒ス
第三十七條　懲戒ハ譴責、停學、除名ノ三種トス

第八章　授業料

第三十八條　授業料ハ一學年金八十圓トス
左ノ三期ニ分チ下記ノ期間ニ於テ納付スヘシ

第一期　金二十五圓　四月八日ヨリ同月二十五日ニ至ル
第二期　金三十圓　九月十一日ヨリ同月二十日ニ至ル
第三期　金二十五圓　一月八日ヨリ同月二十日ニ至ル
第三十九條　授業料納付期間後ニ入學シタル者ハ入學許可ノ日ヨリ十日以內ニ之ヲ納付スルモノトス
第四十條　授業料納付ヲ怠リ未納三週間ニ及フ者ハ其ノ學籍ヲ除ク
第四十一條　授業料ハ休學、停學ノ場合ト雖之ヲ徵收ス但シ兵役ニヨル休學中ノ者ニハ次期以後ノ分納ヲ免除ス
退學ノ場合ニ於テハ其ノ期ノ授業料ハ之ヲ徵收ス

第九章　服制

第四十二條　生徒ハ別ニ定ムル所ニヨリ一定ノ服裝ヲナスヘシ

第十章　奬學貸費

第四十三條　奬學貸費ニ關シテハ別ニ定ムル所ニヨル

第十一章　研究生

第四十四條　卒業生ニシテ更ニ研究セント欲スル者ニハ研究生トシテ在學ヲ許可スルコトアルヘシ
第四十五條　研究生ノ在學期間ハ二箇年以內トス
第四十六條　研究生ハ教官ノ指導ヲ受ケ研究ニ從事スルモノトス
第四十七條　研究生ハ在學期ノ終リニ於テ研究報告ヲ提出スヘシ

其ノ成績優良ナル者ニハ證明書ヲ付與スルコトアルヘシ
第四十八條　研究生ニハ特ニ規定シタルモノノ外本規則ヲ準用ス

附　則

本則ハ大正八年九月十一日ヨリ施行ス
本則施行ノ際現ニ在學スル生徒ニ課スヘキ學科目及其ノ授業時數ニ關シテハ本則ヲ參酌シ總長別ニ之ヲ定ム
第三十八條ハ昭和四年度以降入學ノ生徒ニ對シ之ヲ適用ス

○學生生徒服制

（昭和五年三月改正）

		上衣		袴	
		地質	製式	地質	製式
大學學生	農學實科生徒	黒羅紗但シ夏ハセル又ハ小倉	立襟一行背廣ニシテ徑六分ノ金紐釦五箇ヲ前部ニ附ス但シ交叉セル櫻花ノ上ニ大ノ字ヲ現ハス	上衣ト同ジ	普通長袴
同上	林學實科生徒	同上	同上徑六分櫻枝葉中ニ星章ヲ附シ金紐釦ニシテ前部ニ五箇ヲ附ス	同上	同上
同上	土木專門部生徒	同上	同上徑六分櫻花形金紐釦ニシテ前部ニ五個ヲ附ス	同上	同上
同上	水產專門部生徒	同上	同上	同上	同上

	帽			外套		雨覆
	製式	帽ノ徽章	襟ノ徽章	地質	製式	地質
大學學生	菱形ニシテ黒色ノ前庇ヲ附シ帽ノ兩側ニ徑五分ノ金紐釦ヲ附ス但シ交叉セル櫻花ノ上ニ大ノ字ヲ現ハス	前章ハ縦八分横六分ノ金具製篆書チ以テ大學ノ文字ヲ現ハス	左襟ニハ農學部ハ金具製四分五厘ノA字チ農學部ハ同上M字チ工學部ハ同上T字チ理學部ハ同上S字チ右襟ニハ同徑ノ星ノ章ヲ附ス	黒羅紗	普通長袴	黒羅紗
同上	圓形ニシテ周圍ニ白テープ（巾凡二分）三條ヲ附ス他ハ同上	前章ハ全徑一寸二分ノ金具製枝葉ノ中ニ星ノ章ヲ附ス	左襟ニハ金具製四分五厘ノP字ヲ附ス	同上	同上	同上
同上	圓形ニシテ周圍ニ黒色巾一寸二分ノ帽帶ヲ附ス他ハ同上	前章ハ縦九分横七分ノ金具篆書チ以テ農學ノ文字ヲ現ハス	左襟ニハ同上製農ノ字ヲ附ス	同上	同上	同上
同上	同上	前章ハ縦九分横七分ノ白色寶北大ノ文字ヲ現ハシ中央ニ縦五分横五分ノ金色林字ヲ附ス	左襟ニハ同上F字ヲ附ス	同上	同上	同上
同上	圓形ニシテ周圍ニ黒リボン一寸二分ノ徽ヲ附ス他ハ同上	前章ハ縦一寸横八分ノ金具製篆書チ以テ工專ノ文字ヲ現ハス上ニ銀星ヲ附ス	左襟ニハ同上製Cノ字ヲ附ス	同上	同上	同上
同上	同上	前章ハ全徑一寸二分ノモール製枝葉ノ中ニ水ノ字ヲ附ス	左襟ニハ同上製水ノ字ヲ附ス	同上	同上	同上

但シ兵式體操ノ時ハ必ズゲートル著用ノ事又選科生ハ此ノ服制ニ準スルモノトス

○附屬圖書館規程

（大正十一年十一月改正）

第一條　本學ニ圖書館ヲ置キ北海道帝國大學ニ於ケル圖書ヲ貯藏ス

第二條　共用ニ供スル圖書ハ冊數及期限ヲ設ケス教室主任及部課長之ヲ借受スルモノトス

第三條　參考用トシテ借受スルコトヲ得ヘキ冊數ハ左ノ如シ但シ增加借受ノ必要アル場合ハ特ニ總長ノ許可ヲ得タル者ニ限リ制限外ニ借受スルコトヲ得

一、敎授、助敎授、講師、屬敎員　十冊

一、書記、雇員　二冊

借受ノ冊數ハ洋裝ノモノニ就キテ之ヲ定メ和漢裝ノモノハ五冊ヲ以テ一冊ニ充テ裝釘セサル逐次刊行ノ書ハ一完冊ヲ爲スモノノ若干號ヲ合シテ一冊ト看做ス

第四條　學生生徒ハ已ムヲ得サル場合ニ限リ館長ノ認可ヲ得テ二冊ヲ限リ借受スルコトヲ得

第五條　敎科書若ハ參考書ニシテ受持敎官ノ指定ニ係ルモノハ學生生徒ノ願ニヨリ貸付スルコトアルヘシ

第六條　圖書ヲ借受セントスル者ハ定式ノ證書用紙ニ番號著者名姓名等ヲ詳載シ捺印ノ上館長ニ差出スヘシ

第七條　貸付シタル圖書ハ他人ニ轉貸スルコトヲ得ス但シ共用ノ爲借受ケタル者ハ敎室內ニ限リ轉貸スルコトヲ得

第八條　貸付シタル圖書ハ一箇月以內ニ返納スヘシ若シ引續キ借受ノ必要アル者ハ更ニ借受ノ手續ヲ爲スヘシ但シ他ニ前願者アルトキハ貸付セサルコトアルヘシ

退職轉任又ハ退學、休學、卒業シタル者ハ貸付期限內ニ拘ラス其ノ當日必ス返納スヘシ

第九條　借受ノ圖書ハ檢查ノ爲貸付期限內ト雖每年六月三十日迄ニ悉ク返納スヘシ共用借受ノ圖書ニ限リ本館吏員出張ノ上點檢スルモノトス

第十條　職員學生生徒及借受ノ特許ヲ得タル者夏期休業中圖書ヲ借受ケント請フ者ニハ二冊ヲ限リ貸付スルコトアルヘシ

第十一條　閱覽室ハ日曜日、大祭祝日ヲ除ク外左ノ時間之ヲ開ク

自九月十一日　午前八時ヨリ午後九時マテ
至十二月二十七日

自一月六日　午前八時ヨリ午後九時マテ
至七月十日

自七月十一日　午前八時ヨリ正午十二時マテ
至九月十日

第十二條　學生生徒閱覽室ニ入場ノ節ハ必ス閱覽票ヲ掛員ニ渡シ退場ノ節之ヲ受クヘシ但シ閱覽票ハ每年館長ヨリ學生生徒ニ交付ス

第十三條　圖書ヲ借覽セントスルトキハ目錄ニ就キ其ノ圖書ヲ檢出シ規定ノ用紙ニ書名番號姓名等ヲ詳記シ掛員ニ差出シ閱覽了レハ直ニ返納スヘシ

第十四條　圖書ハ閱覽室內ニ於テ閱覽スヘシ閱覽室備付ノ參考書及定期刊行物ハ定メタル別席ニテ閱覽スヘシ

第十五條　閱覽室ニ在リテ喫煙、音讀、談論、雜話等ヲ爲スコトヲ得ス

第十六條　圖書筆墨ノ類ヲ除ク外物品ヲ閱覽室內ニ携帶スルコトヲ得ス

第十七條　左ニ揭ク者ニハ特許閱覽票ヲ交付シ圖書ノ借覽ヲ許スコトヲ得

一、舊職員

一、卒業生

一、諸官廳ノ吏員公務ニヨリ其ノ官廳ヨリ照會アル者

一、特別ノ事情アル者

第十八條　閲覽票ハ他人ニ轉貸スルコトヲ得ス

第十九條　閲覽票ヲ遺失シタルトキハ其ノ旨ヲ館長ニ届出テ更ニ交付ヲ請フヘシ

第二十條　左ニ揭クル者ハ書庫内ニ入リ圖書ヲ檢索スルコトヲ得

一、教授、助教授、講師

二、大學本科三年級學生

第二十一條　前條ニ揭ケサル職員ニシテ書庫内ニ入リ圖書ノ檢索ヲ爲スコトヲ要スルトキハ其ノ都度館長ノ許可ヲ經ヘシ

第二十二條　書庫内ニ入リ圖書ヲ檢索シ得タル上ハ直ニ庫外ニ出テ第十三條ノ手續ヲ經テ閲覽スヘシ

第二十三條　圖書ヲ檢索スル者ハ圖書ノ位置ヲ錯亂スルコトヲ得ス

第二十四條　五人以上同時ニ書庫内ニ入リテ圖書ノ檢索ヲ爲スコトヲ得ス

第二十五條　共用ノ爲借受シタル圖書ヲ毀損汚染若ハ紛失シタルトキハ借受者ヨリ書面ヲ以テ館長ヲ經テ總長ニ開申スヘシ

第二十六條　借受シタル圖書ヲ紛失シタル者ハ同一ノ圖書ヲ以テ償ハシム

第二十七條　借受シタル圖書ヲ毀損又ハ汚染シタル者ハ損害ノ多少ニ準シ同一ノ圖書ヲ以テ償ハシメ若ハ之ヲ修繕セシム

第二十八條　圖書返納ノ督促ヲ受ケ三箇月ヲ過クルモ尚返納セサル者ハ紛失シタルモノト看做シ前條ニ準シ處分ス

第二十九條　圖書借用ノ期限ヲ過キ督促ヲ受クルモ尚之ヲ返納セサル者ハ其ノ義務ヲ終ルマテ他ノ圖書ヲ本人ニ貸付スルコトヲ停止ス

第三十條　本規程ニ違背シタル者ハ七月以上一箇年以下圖書ノ貸付及閲覽ヲ停止スルコトアルヘシ

○植物園及博物館縦覽規程

（昭和八年四月改正）

第一條　植物園ハ内外諸國所産ノ植物ヲ栽植シ又博物館ハ主トシテ北海道ノ天産物及人類學ニ關スル標本並ニ博物學ニ關スル内外諸國ノ標本ヲ蒐集陳列シテ本學職員及學生生徒ノ研究ニ資シ併セテ公衆ノ縦覽ニ供スル所トス

第二條　植物園及博物館並ニ溫室ノ一般縦覽日時ヲ左ノ通定ム　但シ臨時ノ開閉ハ其ノ都度門外揭示場ニ之ヲ公示ス

植物園及博物館		
期間	縦覽日	時限
自四月一日至四月三十日	日曜、水曜、土曜及大祭日	自午前八時至午後五時半
自五月一日至九月十五日	毎日	自午前八時至午後五時半
自九月十六日至十月三十一日	毎日	自午前八時至午後四時
自十一月一日至十一月三十日	日曜、水曜、土曜及大祭日	自午前八時至午後四時

溫室		
期間	縦覽日	時限
自四月一日至九月十五日	毎日	自午前八時至午後五時
自九月十六日至十一月三十日	毎日	自午前八時至午後三時半
自十二月一日至三月三十一日	毎日　但シ一月一、二、三日ヲ除ク	自午前九時至午後三時半

第三條　縦覽人ハ縦覽券ヲ携帶スヘシ　但シ植物園及博物館ノ公開期間中ハ縦令溫室ノミヲ縦覽セントスル者ト雖モ「植物園及博物館縦覽券」ヲ併セ携帶スルコトヲ要ス

第四條　縦覽券及其ノ料金ヲ定ムルコト左ノ如シ

植物園及博物館縱覽券　大人一人ニ付　金五錢
同　小人一人ニ付　金二錢
同　二十五回券一冊　金一圓
溫室縱覽券　大人一人ニ付　金五錢
同　小人一人ニ付　金二錢
同　中等學校以上學生　金三錢
同　生徒團體一人ニ付　金一錢
同　小學生團體一人ニ付

但シ團體ハ十人以上、小人ハ六歲以上十二歲未滿トス、六歲ニ滿タサルモノハ縱覽券ヲ要セス

第五條　本學職員及學生々徒ハ縱覽券ヲ要セス但シ學生々徒ハ制服制帽ヲ著用スルヲ要ス

第六條　左ニ揭クル者ハ本學ノ承認ヲ得テ植物園及博物館ヲ無料縱覽スルコトヲ得

一、各種學校學生々徒ニシテ學術研究ノ爲指導教官ノ引率セル者
二、隊伍ヲ編成シ指揮官ノ引率スル陸海軍々人
三、其他本學ニ於テ承認シタル者

但シ本學ニ於テ必要ト認メタル場合ハ植物園、博物館及溫室ヲ無料ニテ縱覽セシムルコトアルヘシ

第七條　縱覽券ヲ所持スル者ト雖モ左記各項ノ一ニ該當スル者ハ入園ヲ拒絕シ若ハ退園ヲ命スルコトアルヘシ

一、癲狂者又ハ泥酔者
二、足駄若ハ薄歯下駄ヲ穿ツ者
三、寄類ヲ牽ク者
四、包物、採集籠、籠、鞄又ハ花卉、果實、種子等ヲ携帶スル者
五、拾歲未滿ノ小兒ニシテ相當ノ保護者ノ伴ハサル者
六、陳列品ニ手ヲ觸レ栽培及自生ノ花卉樹木ヲ毀損スル者
七、飲酒、放歌、吟誦、其ノ他喧噪ノ所爲アル者
八、建築物内ニ於テ喫煙スル者
九、許可ナクシテ構内ニ於テ撮影シ又ハ模寫スル者
十、園内ノ樹木ニ攀チ又ハ鳥獸魚類ヲ捕獲スル者
十一、本規程若ハ揭示事項ニ違背シ又ハ係員ノ指示ニ從ハサル者

第八條　園内及溫室ノ樹木、花卉其ノ他ノ物品並館内陳列品、陳列函、窓硝子等ヲ毀損シタルトキハ現品若ハ相當代價ヲ償ハシムルコトアルヘシ

第九條　縱覽者ニ必要ナル事項ハ隨時揭示場ニ之ヲ公示ス

附　則

本規程ハ昭和八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○家畜病院規程

（明治四十五年六月制定）

第一條　本院ハ學術實驗ニ資センカ爲本學及民間ノ病畜ヲ治療ス
第二條　外來患畜ノ診察ハ休日ヲ除キ毎日午前九時ヨリ午後三時迄トス
第三條　患畜ノ治療ヲ受ケントスル者ハ本院ニ申出テ同時ニ患畜ヲ牽來ルヘシ
第四條　患畜ノ入院ヲ望ム者ハ入院願書ヲ差出シ承認ヲ受クヘシ
第五條　本院ニ於テ患畜ノ入院ヲ承認シタルトキハ入院證ヲ交付ス

第六條　患畜入院中避クヘカラサル災害若ハ施術中死傷等アルモ本院ハ其ノ辨償ノ責ニ任セス

第七條　畜主ニ於テ患畜退院ノ通知ヲ受ケタルトキハ速ニ家畜ヲ引取リ入院證ヲ返付スヘシ

第八條　畜主ニ於テ患畜斃死ノ通知ヲ受ケタルトキハ速ニ其ノ屍體ヲ引取ルヘシ若シ二十四時間以內ニ引取ラサルトキハ本院ニ於テ處分ス

第九條　入院料、施術料、藥價、皮下注射料、灌腸料及處分料ハ別ニ之ヲ定ム

第十條　學術上特ニ必要ノ患畜ニ限リ治療費ノ幾分若ハ全部ヲ免除ス

第十一條　本院ハ往診ノ依頼ニ應ス但シ往診ニ要スル實費ハ畜主之ヲ負擔スヘシ

第十二條　入院料ハ一週間毎ニ又中途退院ノ場合ニハ其ノ際之ヲ納付スヘシ

第十三條　裝蹄ハ休日ヲ除キ毎日午後一時半ヨリ同三時迄施行スルモノトス

（入院願書書式省略）

○醫學部附屬醫院規則

第一條　本院ハ醫學上ノ研究及學術教授ノ目的ヲ以テ患者ノ診療ヲ爲ス所トス

第二條　患者ヲ分チテ外來及入院ノ二種トス

第三條　患者ノ治療ハ官費ヲ主トシ傍ラ私費ノ治療ハ其ノ病症ニ依リ之ヲ許可ス

第四條　私費患者ニハ本院所定ノ料金ヲ納付セシム

第五條　本規則ノ施行細則ハ本學總長之ヲ定ム

○醫學部附屬醫院規則施行細則

第一條　患者ニシテ其ノ病症學術研究上須要ト認ムル者ハ官費患者トシテ治療ス但シ患者ノ希望又ハ本院ノ都合ニ依リ費用ノ一部分ヲ徵收スルコトアルヘシ

第二條　官費患者ハ本人ノ願出ニヨリ該科教授之ヲ許可ス

第三條　外來患者ニハ診察券ヲ交付ス診療請藥ノ際掛員ニ之ヲ提出スヘシ

第四條　入院ハ當該科教授之ヲ許可シ同時ニ入院證ヲ差出サシム但シ官費患者ハ剖檢承諾書ヲ添附スヘシ

第五條　入院患者ハ醫員ノ許可ヲ得スシテ猥ニ退院スルヲ許サス

第六條　官費入院患者死亡シタルトキハ剖檢ニ付スルモノトス但シ祭粢料トシテ患者ノ遺族若ハ身元保證人ニ別ニ定ムル所ノ金額ヲ交付ス

第七條　死體剖檢後ハ遺族若ハ身元保證人ニ於テ遺骸ヲ引取ルヘシ但シ請願ニ依リ官費ヲ以テ葬祭ヲ行フコトアルヘシ

第八條　私費患者ニ對シテハ本院所定ノ藥價入院料其ノ他所要ノ料金ヲ徵收ス

第九條　官費入院患者許可ヲ得スシテ退院シタルトキハ入院當時ニ遡リ本院所定ノ入院料其ノ他ノ料金ヲ徵收ス

第十條　本院ニ於テ診療セサル病症ハ其ノ都度醫院長之ヲ定ム

○醫學講習科規程

第一條　本講習科ハ醫師ニ醫學上ノ新知識ヲ普及スルヲ以テ目的トス

第二條　講習期間ハ五週間以內トシ每年一回之ヲ開ク但シ其ノ時期ハ其ノ都度之ヲ定ム

第三條　講習科目及講師氏名ハ豫メ之ヲ公告ス

第四條　講習志願者ハ醫師及獸醫ノ資格ヲ有スル者ニ限ル

第五條　講習者ノ人員ハ各學科十名以上五十名以下トス但シ設備上ノ都合ニ依リテハ其ノ人員ヲ增減スルコトアルヘシ

第六條　講習者ニハ講習料金拾圓ヲ前納セシム但シ開講セサル場合ノ外既納ノ講習料ハ還付セス

第七條　講習科修了者ニハ證明書ヲ付與ス

○看護法講習科規則

第一條　看護法講習科ハ患者看護ノ方法ヲ教授シ看護婦及看護人ヲ養成スルヲ目的トス

第二條　講習期間ヲ二箇年トシ之ヲ二學年ニ分チ學科及實習ヲ課ス

第三條　前學年ニ於テハ看護ニ必要ナル左記學科ヲ授ケ兼テ實務ヲ練習セシム

一、修身
一、看護婦心得
一、解剖及生理學大意
一、衞生學大意
一、患者運搬法
一、藥物及調劑學大意
一、一般看護法及治療介輔
一、繃帶學

一、救急療法
一、醫科器械學
一、內科看護法
一、外科看護法（外科的消毒法、麻醉法ヲ含ム）
一、整形外科看護法
一、傳染病大意、看護法及一般消毒法
一、產科婦人科看護法
一、耳鼻咽喉科看護法
一、眼科看護法
一、皮膚泌尿器科看護法
一、小兒科看護法
一、精神科看護法
一、齒科看護法
一、實習

前項ノ外課外必修科目トシテ國語、數學、作法（女子）ヲ隨意科目トシテ音樂、外國語、裁縫、割烹、其他必要ナル學問技藝ヲ併セ課ス

第四條　後學年ハ主トシテ看護法ヲ實習セシム

第五條　前學年ノ終リニ於テ學科試驗ヲ行ヒ合格者ヲ進級セシメ後學年ノ終リニ於テ卒業試驗ヲ行ヒ合格者ニ卒業證書ヲ授與ス

第六條　講習生ハ左記各號ノ資格ヲ有シ入學試驗ニ合格シタル者ニ限ル

一、品行方正ナルコト

二、身體健全ナルコト

三、年齡女子ハ滿十五年以上三十年以下男子ハ滿二十一年以上三十年以下ナルコト

四、配偶者ナク且家事ニ係累ナキコト

五、高等小學校卒業者又ハ試驗ヲ行ヒ之ト同等以上ノ學力アリト認メタル者

第七條　入學志願者ハ願書（第一號書式）ニ履歷書及戸籍謄本ヲ添ヘ差出スヘシ但シ第八條但書ニ依ル者ハ卒業證書寫又ハ卒業見込證明書ヲ添付スヘシ

第八條　入學試驗左ノ如シ

一、學科試驗

國　語　高等小學校卒業程度

算　術　同

但中學校、高等女學校又ハ之ト同等以上ノ學校卒業者及入學期マテニ卒業見込ノ者ハ無試驗トナスコトヲ得

二、體格檢査

三、應　問

第九條　入學試驗合格者ト雖更ニ審査ノ上不合格ト認ムル場合ハ入學ヲ取消スコトアルヘシ

第十條　入學ノ許可ヲ得タル者ハ入學ト同時ニ誓約書（第二號書式）ヲ差出スヘシ保證人ハ成年以上ノ家計主ニシテ札幌市内ニ居住シ直接國稅ヲ納メ又ハ不動產ヲ所有スル者タルヲ要ス但シ附屬醫院長ニ於テ適當ト認メタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十一條　保證人死亡シ又ハ前條第二項ノ資格ヲ失ヒタルトキハ直チニ有資格者ヲ以テ之レニ代ヘ更ニ誓約書ヲ差出スヘシ保證人轉籍、轉居又ハ改氏名ノ場合ハ遲滯ナク屆出ヲ爲スヘキモノトス

第十二條　講習生ハ之ヲ給費トシ在學中ハ食糧及日給ヲ給シ制服制帽及寢具ヲ貸與シ寄宿舍ニ入ルヘシ日給ハ忌引賜暇又ハ本院ノ命ニ依ル場合以外ノ外泊ニハ之ヲ給セス

第十三條　講習生ハ諸規則ヲ遵守シ上長ノ指揮命令ニ服從スヘシ

第十四條　講習生傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル時ハ官費ヲ以テ之ヲ治療ス但自己ノ便宜ニ依リ療養セントスル者ハ此限ニ在ラス

第十五條　講習生ニシテ成業ノ見込ミナキ者又ハ學年所定ノ授業時數ノ三分ノ一以上授業ヲ受クルコトヲ得サリシ者ハ之ヲ除名ス

第十六條　講習生ニシテ第十三條ノ規定ニ違背シ其他不都合ノ行爲アルモノハ相當ノ處分ヲナシ其情狀重キ者ハ退學ヲ命ス

第十七條　講習生ハ卒業ノ日ヨリ滿二ケ年間所定ノ給料ヲ受ケ看護婦又ハ看護人トシテ勤務スヘキ義務アルモノトス

第十八條　左記各號ノ一ニ該當スル者ハ講習中支給シタル學資ヲ一時ニ辨償セシム但退學又ハ退職ノ場合特別ノ事情アルモノト認メタルモノハ支給金ノ一部又ハ全部ノ償還ヲ免スルコトアルヘシ

一、中途退學ヲナス者

二、第十六條ニ依リ退學ヲ命セラレタル者

三、第十七條ノ義務ヲ履行セサル者

（第一號及第二號樣式省略）

○産婆養成所規則

第一條　本養成所ハ産婆ニ必要ナル學術ヲ授ケ且實地練習ヲ爲サシムルヲ以テ目的トス

第二條　本養成所ニ本科並補習科ノ二科ヲ置ク

一、本　科

第三條　修業年限ヲ二年トシ之ヲ二學年ニ分ツ前學年ヲ更ニ之ヲ左ノ三期ニ分チテ學科ヲ教授シ兼テ實習ヲ課シ後學年ハ主トシテ實習ニ就カシム

第　一　期

一、修　身
一、解　剖
一、生　理
一、衞　生
一、一般看護法
一、一般消毒法
一、正規姙娠分娩産褥及其取扱法

第　二　期

一、修　身
一、異常姙娠分娩産褥及其取扱法

一、生兒取扱法
一、救急療法
一、模型演習
一、臨床實習

第　三　期

一、修　身
一、婦人科學大意
一、産婆心得
一、模型演習
一、臨床實習

實習中ハ本院看護婦規則ニ從ハシム

第四條　學年ハ五月一日ニ始リ翌年四月三十日ニ終ル

第五條　前學年ノ終リニ於テ學科試驗ヲ行ヒ合格者ヲ進級セシメ後學年ノ終リニ於テ卒業試驗ヲ行ヒ合格者ニ卒業證書ヲ授與ス

第六條　生徒ハ左記各號ノ資格ヲ有スル女子ニシテ入學試驗ニ合格シタル者ニ限ル

一、品行方正ナルコト
二、身體健全ナルコト
三、年齡滿十八歲以上三十五歲以下ナルコト
四、家事ニ係累ナキコト

五、高等小學校卒業者又ハ之ト同等以上ノ學力アリト認メタル者

第七條　入學試驗左ノ如シ

一、學科試驗

國　語　高等小學校卒業程度

算　術　同

但高等女學校又ハ之ト同等以上ノ學校卒業若クハ入學期マテニ卒業見込ノ者ハ無試驗トナスコトヲ得

二、體格檢查

三、應　問

第八條　入學志願者ハ願書（第一號書式）履歷書及戶籍謄本ヲ添ヘ差出スヘシ但第七條第一項但書ニ依ル者ハ卒業證書寫又ハ卒業見込證明書ヲ添付スヘシ

第九條　入學ノ許可ヲ得タル者ハ入學ト同時ニ誓約書（第二號書式）ヲ差出スヘシ

保證人ハ成年以上ノ戶主又ハ家計主ニシテ札幌市內ニ居住スル男子タルヘシ

第十條　生徒ヲ分チテ自費生及給費生トス自費生ト雖制服ヲ貸與ス

第十一條　生徒ハ實習ノ爲院內ニ寄宿セシムルコトアルヘシ

第十二條　自費生寄宿ヲ命セラレタル場合ト雖其ノ食料寢具等ハ自辨トス

第十三條　自費生ハ授業料一ケ月壹圓五拾錢ヲ每月五日迄ニ納付スヘシ

但八月分ハ納付スルニ及ハス一旦納付シタル授業料ハ如何ナル場合ト雖モ還付セス

第十四條　生徒ハ諸規則ヲ遵守シ上長ノ指揮命令ニ服從スヘシ

第十五條　生徒ニシテ成業ノ見込ナシト認メラレタル者又ハ不都合ノ行爲アリタル者ハ退學ヲ命ス

第十六條　給費生ニシテ中途退學シ又ハ退學ヲ命セラレタル者ニハ在學中支給シタル費用ノ全部ヲ償還セシム但シ止ムヲ得サル事情アリト認メタル場合ハ其一部若ハ全部ノ償還ヲ免スルコトアルヘシ

二、補習科

第十七條　修業年限ヲ一年トシ實地ニ必要ナル學理ヲ敎授シ實習ニ就カシム

第十八條　學年ハ五月一日ニ始マリ翌年四月三十日ニ終ル

第十九條　學年ノ終リニ於テ試驗ヲ行ヒ合格者ニ修業證書ヲ授與ス

第二十條　生徒ハ左記各號ノ資格ヲ有スル女子ニシテ入學試驗ニ合格シタル者ニ限ル

一、左ノ諸項中ソノ一ヲ具備スルコト

(イ)(ロ)　地方長官施行ノ產婆試驗ニ合格シタル者

內務大臣ノ指定シタル學校又ハ講習所ヲ卒業シ又ハ外國ニ於テ產婆免許ヲ得タル者ニシテ內務大臣ノ適當ト認メタル者

二、品行方正ナルコト

三、身體健全ナルコト

四、家事ニ係累ナキコト

第二十一條　入學試驗左ノ如シ

一、學科試驗

產　婆　學

二、體格檢查

三、應　　問

第二十二條　入學志願者ハ願書（第一號書式）ニ履歷書及戸籍謄本並ニ產婆免許狀若クハ產婆試驗合格證書又ハ產婆講習所卒業證書等ノ寫ヲ添ヘテ差出スヘシ

第二十三條　第九條乃至第十六條ハ補習科ニ於テモ之ヲ適用ス

（第一號書式及第二號書式省略）

○病的材料檢査科規程

第一條　北海道帝國大學醫學部附屬醫院ニ病的材料檢査科ヲ置ク

第二條　本科ハ醫師其ノ他公衆ノ依賴ニ應シ別項ニ示ス如キ檢査ニ從事ス

第三條　檢査員ハ北海道帝國大學醫學部又ハ同附屬醫院ノ職員ヲ以テ之ニ充ツ

第四條　檢査ヲ依賴セントスル者ハ該材料ニ檢査ノ事項ヲ指定シ所定ノ檢査料ヲ添ヘテ之ヲ持參シ又ハ郵送スヘシ
但シ郵便物包裝規則第十一條ニ該當スル檢査材料ヲ郵送スル場合ニハ同條ノ手續ヲ履ムコトヲ要ス

第五條　一旦提出シタル檢査材料及檢査料ハ何等ノ事故アルモ返却ノ請求ニ應セス但シ檢査材料ノ變化亡失等ニ依リ檢査不能ノ時ハ檢査料ヲ徵收セサルコトアルヘシ

第六條　本科ニ於テ檢査ノ依賴ニ應スヘキ事項及檢査料左ノ如シ

一、喀　　痰　　金壹圓

細菌學的檢査

A　顯微鏡檢査　　金壹圓

檢査依賴細菌ノ有無一種ニ付

寄生蟲卵血液其ノ他指定ノ病的成分有無　　各金壹圓

B　培養檢査

C　動物試驗　　金壹圓五拾錢

二、胃　　液（試驗朝食即チ食パン七十瓦茶一杯約三〇〇瓦チ與ヘ一時間後ニ採取セルモノヲ直ニ送付ノコト）　　金五圓

酸ノ定性定量及病的成分ノ顯微鏡的及化學的檢査

三、糞　　便　　金壹圓

細菌學的檢査

腸窒扶斯及パラチフス菌
赤痢菌
コレラ菌　　各金貳圓

赤痢アメーバ　　金壹圓

顯微鏡的檢査　　金壹圓

寄生蟲卵　　金壹圓

其ノ他病的成分ノ有無　　金壹圓

化學的檢査　　金壹圓

血色素　　金壹圓

四、尿　（成ルヘク新鮮ナルヲ要ス）　　各金五拾錢

化學的及顯微鏡的普通檢査

蛋白糖分血液膽色素ノ定性試驗及圓擠血球病的細胞ノ有無

定量化學的檢査　金壹圓
蛋白糖ノ定量試驗
細菌學的檢査　普通檢査　金壹圓
腸窒扶斯菌及パラチフス菌　動物試驗　金壹圓
結核菌　金五圓
五、血液（患者ヲ來院セシメ又ハ塗布標本ヲ送付ノコト）
赤白血球血色素量
結的血球ノ有無
腸窒扶斯及パラチフス菌ノ膽汁培養檢査　金壹圓
（血液ヲ少量膽汁培養基ニ加ヘテ提出ノコト）　金壹圓
（膽汁培養基ハ本科ニツキ請求セラルヽトキハ提供ス）　金壹圓
マラリヤ原蟲
再歸熱スピロヘーテ
其ノ他血液寄生蟲
六、血清（發泡液ニテモ妨ナシ）　金壹圓
ワッセルマン氏反應
（同時ニザックス・ゲオルギー沈降反應ヲモ行フ）　金壹圓
（一週二回火金曜日ヲ檢査日トス）　金壹圓

腸チフス菌、パラチフス菌凝集反應檢査　金壹圓
（檢査日　火、金曜日）
但シ檢査日以外ノ日ニ申込ミタル分ハ料金倍額トス
七、腰穿刺液
普通檢査
比重蛋白量白血球ノンネ・アペルト氏反應、バンデキー氏反應　金壹圓
細菌血清學的檢査
結核菌、腦脊髓膜炎菌、肺炎菌、其ノ他及ワッセルマン反應　金壹圓五拾錢
入、切除材料及剖見材料
病理組織學的檢査　金參圓

○理學部附屬臨海實驗所實驗室貸付規程

第一條　本所實驗室ハ本學理學部職員、學生生徒ノ實驗研究ニ差支ナキ場合ニ限リ本規程ニ依リ本學理學部以外ノ研究者ノ爲ニ貸付ス

第二條　實驗室ヲ使用セントスル者ハ左ノ手續ヲナスヲ要ス

一、本學職員、學生生徒ハ口頭又ハ書面ヲ以テ本所長ニ申出許可ヲ受クヘシ

二、本學職員、學生生徒ヲ除ク他ノ一般研究者ハ所定ノ願書ヲ理學部經由本所長ニ提出シ許可ヲ受クヘシ

但シ前記第二號ノ該當者ニシテ在學中ノ學生生徒及學校若シクハ官廳奉職者ノ願書ハ學校長又ハ本屬長官ヲ經由スヘシ

第三條　本學職員、學生生徒及本所ニ於テ研究上必要ト認メタル者ヲ除ク外實驗室使用者ハ左ノ使用料ヲ納付スヘシ

一、實驗室座席一個ニ付一日　金五拾錢

二、實驗室一室ニ付　金五圓

第四條　前條ノ使用料ハ本學會計課ニ前納スヘシ

但シ既納ノ使用料ハ如何ナル事由アルモ之ヲ還付セス

第五條　本學理學部以外ノ使用者ノ研究費ハ各自辨ト

○理學部附屬臨海實驗所水族室觀覽規程

第一條　臨海實驗所水族室ハ本學職員、學生生徒ノ實地研究ニ資スルノ外本規程ノ定ムル所ニ據リ一般公衆ノ觀覽ニ供ス

第二條　本水族室公開ノ日時ハ左ノ通トス但シ臨時閉鎖ヲ要スル場合ハ所内ニ之ヲ掲示スヘシ

自五月十六日　至八月三十一日　毎日午前八時ヨリ午後五時半迄

自九月一日　至十月三十一日　毎日午前九時ヨリ午後四時迄

第三條　本學職員、學生生徒ヲ除ク外觀覽者ハ觀覽券ヲ携帶スヘシ

第四條　觀覽券ハ左ノ料金ニ依リ所内ニ於テ販賣ス

一、一般公衆一人ニ付　金五錢

但シ五歳未滿ノ者ハ觀覽券ヲ要セス

二、學生、生徒、兒童一人ニ付　金參錢

三、二十人以上ノ團體（一般公衆一人ニ付　金參錢

學生生徒一人ニ付　金貳錢）

第五條　觀覽券ヲ携帶スル者ト雖モ左記各項ノ一ニ該當スル者ハ入室ヲ拒絶シ又ハ退室ヲ命スルコトアルヘシ

一、癲狂者又ハ泥醉者

二、拾歳未滿ノ小兒ニシテ相當ノ保護者ノ伴ハサル者

三、風俗ヲ害シ秩序ヲ亂ス虞アル者

四、陳列品ニ手ヲ觸レ毀損スル者

五、放歌、吟誦、其他喧噪ノ所爲アル者

六、建築物内ニ於テ喫煙スル者

七、許可ナクシテ室内ニ於テ撮影シ又ハ模寫スル者

八、本規程若ハ揭示事項ニ違背シ又ハ係員ノ指示ニ從ハサル者

第六條　室内ノ物品並陳列品、陳列窓硝子等ヲ毀損シタルトキハ現品若ハ相當代價ヲ償ハシムルコトアルヘシ

第七條　觀覽者ニ必要ナル事項ハ隨時揭示場ニ之ヲ公示ス

附　則

本規程ハ昭和八年五月一日ヨリ施行ス

○寄宿舍規程

第一條　本學寄宿舍ハ豫科生徒ヲ寄宿セシムルモノトス

第二條　入舍セントスル者ハ所定ノ願書ニ學費ノ健康診斷書ヲ添ヘテ學生主事ニ差出スヘシ

第三條　所定ノ手續ヲ經タル後學生主事ニ面會シ學生主事試問ノ上其ノ詮衡ニ合格シタル者ニ入舍ヲ許可ス

第四條　寄宿舍各室ノ人員配置ハ學生主事之ヲ定ム

第五條　轉室ノ場合ハ其ノ旨學生主事ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

第六條　舍生ハ猥ニ退舍スルコトヲ得ス但シ病氣又ハ已ムヲ得サル事由ニ依リ退舍セントスル場合ハ診斷書又ハ事由ヲ具シテ願出テ學生主事ノ許可ヲ受クヘシ

第七條　寄宿料ハ一人一箇月金貳圓五拾錢トシ毎月其ノ月末日マテニ會計課ニ納付スルモノトス但シ十五日以降ニ入舍シタル場合及十五日以前ニ退舍シタル場合ハ其ノ月ノ寄宿料ハ半額トシ閉舍一箇月ニ亘ルトキハ之ヲ徵收セス十五日以上ノ場合ハ半減トス

第八條　寄宿料納付ノ義務ヲ怠リタル者又ハ舍則ニ違背シタル者ニハ退舍ヲ命ス

第九條　中途退舍スル者又ハ中途退舍ヲ命セラレタル者ハ即時寄宿料ヲ納付スヘシ

第十條　既納ノ寄宿料ハ如何ナル理由アルモ之ヲ還付セス

第十一條　寄宿料ハ外泊又ハ旅行等ノ爲在舍セサルコトアルモ之ヲ徵收ス

第十二條　舍内ノ物品ヲ毀損又ハ亡失シルタル者ニハ情狀ニ依リ之ヲ辨償セシメ毀損又ハ亡失シタル者判明セサルトキハ舍生一同ヲシテ辨償セシム

第十三條　舍生ニシテ疾病ニ罹リタルトキハ其ノ種類症狀等ニ依リ期限ヲ附シ退舍又ハ外泊セシムルコトアルヘシ

前項ノ外泊十五日以上ニ及フトキハ寄宿料ヲ減額又ハ免除スルコトヲ得

第十四條　本規程ニ關シ必要ナル細則ハ別ニ之ヲ定ム

附　則

本舍則ハ大正十五年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○概況

農學部附屬農場

農學部附屬農場ハ八箇所ニシテ其名稱、地積並土地使用區分左表ノ如シ

名稱	位置	地積	使用區分						
			(苗圃)耕作地	農耕用貸付地	宅地	公共用貸付地	防風林及未開地	堤塘敷地	道路建物用排水路敷地
第一農場	石狩國札幌市	七三・〇七九	四八・四三〇	—	九五〇・七〇〇	一・一六七	五・三三三	—	八・六四二
第二農場	石狩國札幌市	七九・一九六	六〇・五〇九	—	一三五・八〇〇	・二八九	—	—	一七・〇四〇
第三農場	石狩國札幌郡札幌村字レッレップ	三一五・一二〇	四・四四一	三〇七・六八〇		・三五一	—	—	二・六四八
第四農場	石狩國札幌郡平岸村字簾舞	六四二・二六六	—	四〇七・二七一	一五・八〇〇	八・四五九	二〇七・一四七	—	一九・二三一
第五農場	石狩國夕張郡角田村字ウエンベツ	五〇二・四七八	—	四一一・六〇〇	—	—	六九・五〇六	—	二一・三七二
第六農場	石狩國夕張郡角田村字アノロ	七〇七・五〇一	—	六四三・七八一	二二二・八〇〇	一九・九七二	—	—	四一・五二〇
第八農場	石狩國空知郡富良野町及山部村	三、七六一・六五六	—	三、二五八・七一一	五四四・八〇〇	二二・五七七	三一三・〇三二	五三・一五三	一〇八・七三五
余市果樹園	後志國余市郡余市町大字山田村	三・九七四	三・九七四	—	—	—	—	—	—
計		六、〇八五・二七〇	一一二・七七八	五、〇二九・〇四二	一、八六九・九〇〇	五二・八一五	五九五・〇一八	五三・一五三	二一九・一八八

右農場中第一、第二ノ兩農場及余市果樹園ハ直營農場ニシテ第一農場ハ學生生徒ノ實習各種試驗研究ヲ行フ所ニシテ實驗園圃四三陌七五ヲ充テ次ノ各部門ニ分チテ各種作物ノ栽培家畜ノ飼養ヲナス

實驗園內譯

區分	試驗園	實習畑	試驗水田	飼料作物畑	果樹園	蔬菜園	桑園	計
地積	三・三八六陌	二・四三六陌	四・二四九陌	二五・五一一陌	三・六八七陌	七三三陌	三・七四八陌	四三・七五〇陌

イ、耕作部

本部ハ飼料作物畑ヲ管理シテ家畜飼料ノ生產ヲ主トスルモノニシテ又學生生徒ヲシテ各種ノ農業機械、器具ヲ使用セシメ實地ノ練習ヲ爲サシムルモノナリ

ロ、實習部

本部ハ實習畑ヲ管理シ農學科、農業經濟學科一年目學生及農學實科一、二年級生徒ノ爲メ農業實地概念ヲ與フルモノニシテ馬耕、鋤起、整地、施肥、播種、除草、中耕、培土、收穫、脫實調製等ノ實習ヲ指導スルモノナリ

ハ、作物部

本部ハ試驗圃及試驗水田ヲ管理シ作物ニ關スル各種ノ試驗研究ヲナスト共ニ標本作物ヲ栽培シテ教授上必要ナル資料ヲ得ルト學生生徒ヲシテ各種作物及品種ノ性狀ヲ實物ニ就キ研究修得セシムルニアリ

ニ、園藝部

本部ハ果樹園及蔬菜園ヲ管理シ果樹及蔬菜ニ關スル研究試驗並學生生徒ノ實習ヲ行フ處ナリ

ホ、畜產部

本部ニ於テハ牛、馬、羊、豚、家禽ヲ飼養管理シ畜產物ノ製造ヲ行ヒ以テ學生生徒ヲシテ各專門ニ屬スル實習ヲ爲サシム

ヘ、養蠶部

本部ハ養蠶ニ關スル試驗研究及學生生徒ノ實習ヲ行フ處ニシテ併セテ桑園ノ管理ヲ爲ス

ト、農產製造部

本部ニ於テハ學生生徒ノ農產製造ニ關スル實習ト研究ヲ行フ處ナリ

チ、事務部

本部ニ於テハ庶務並經理ニ關スル事項、農具、收穫物其他物品ノ出納、保管場內ノ土木營繕等ノ業務ヲ擔任ス

第二農場ハ酪農經營ノ研究ヲナスト共ニ畜牛ノ改善及飼育ニ關スル經濟的試驗ヲ行フ所ナリ、余市果樹園ハ果樹園經營ノ研究及果樹ニ關スル各種ノ試驗ヲ行フ所ナリ、第三農場以下第八農場ニ至ル各農場ハ小作農場ニシテ專ラ本學土地貸下規程ニ據リ土地ヲ貸付シ小作制度ノ研究及本道ニ於ケル農業經營ニ關シ各種ノ試驗研究ニ資スルヲ目的トシ同時ニ小作料ヲ徵收シテ本學歲入ノ財源トナス昭和八年三月一日現在契約筆數壹千七百參拾筆、小作戶數八百七戶ナリ

尙明治四十二年以降農場事業報告概要ヲ又昭和四年以降農場特別報告ヲ出版セリ

第一號	作物ノ連作及輪作ニ關スル試驗	農學博士　南　鷹次郎
第二號	乳牛ノ姙娠期間並受胎ニ要スル交配同數ノ生物測定學的研究	農學博士　井口賢三
	北海道ニ於ケルホルスタイン・フリージアン品種ノ分娩季節母體受胎ニヨル牛乳生產ニ及ボス影響ニ就テ	農學士　三田村健太郎

第三號　苹果ニ於ケル果實收量及生產費ニ關スル研究　（農學博士　星野勇三／農學士　島善鄰）

第四號　禾穀類ノ開花觀察　（農學博士　南鷹次郎／農學士　御園生義一）

農學部附屬演習林

農學部附屬演習林ハ教官及學生ノ研究並ニ學生生徒ノ演習ノ用ニ供スルモノニシテ北海道内ニハ苫小牧、雨龍、天鹽第一及天鹽第二ノ四箇所、道外ニハ樺太、朝鮮、臺灣及和歌山縣ニ各一箇所、計八箇所アリ尚附屬トシテ本學構内ニ實驗苗圃、木材强弱試驗室及試驗材料貯藏兼標本室等アリ

一、各演習林概況

（其　一）

種別＼演習林別	苫小牧演習林	雨龍演習林	天鹽第一演習林	天鹽第二演習林
位置	膽振國勇拂郡苫小牧町	石狩國雨龍郡幌加内村	天鹽國中川郡常盤村及中川村	天鹽國天鹽郡幌延村
沿革	明治三十七年一月二二五〇町歩 同　四十年十月一七町四二二七	明治三十四年三月三萬町歩所管換 昭和三年九月乃至同六年三月五、七二七町二八〇三雨龍電力株式會社へ賣却	明治三十五年一月二萬町歩所管換 大正三年ヨリ同十三年迄ノ間ニ數回ニ亙リ三四六町四一〇四六九チ鐵道省ニ讓渡ス	大正元年八月二二、七三八町六七二八所管換 大正十四年二月林外ニ二團地一二町七五二七購入 昭和四年十二月〇町〇八二〇九三寄附地受領 大正十三年三月五町六〇一七チ鐵道省ニ讓渡ス
鑒帳面積（町）	二、二七四・一八二〇	二四、二六六・二三二六八六四	一九、六五三・五八一九五三一	二二、七四五・九二八九三
森林植物帶上ノ位置	温帶ノ北部	温帶ト寒帶トノ境ニ在リ	寒帶ノ南部ニ在リ	寒帶ノ南部ニ在リ
林況	殆ンド闊葉樹純林ナリ	過漸混淆林ニシテ針葉樹ハとどまつ及あかえぞまつ多シ	過漸混淆林ニシテ針葉樹ハとどまつ及えぞまつ多シ	過漸混淆林ニシテあかえぞまつノ分布多シ
施業案	四箇事業區ニ分チ内二箇事業區ヲ施業中ナリ	四箇事業區ニ分チ内二箇事業區ヲ施業中ナリ	四箇事業區ニ分チ内二箇事業區ヲ施業中ナリ	三箇事業區トシテ施業中ナリ
作業種	主トシテ皆伐喬林作業	擇伐喬林作業ニヨリ一小部皆伐	擇伐喬林作業	擇伐喬林作業及皆伐喬林作業
輪伐期及同歸年又ハ整理期	輪伐期　八〇年 整理期　四〇年	擇伐　輪伐期　一二〇—一八〇年　同歸年三〇—六〇年 皆伐　輪伐期　一〇〇年　整理期　四〇年	擇伐　輪伐期　一五〇年 皆伐　同歸年二五—五〇年　輪伐期　一〇〇年　整理期　八〇年	擇伐　輪伐期　一二〇—一八〇年　同歸年三〇—五〇年 皆伐　輪伐期　一〇〇年　整理期　八〇年
施業案實行斫伐方法	官行ニヨリ用材薪材及木炭ヲ生產ス	官行事業ニヨル	同　上	同　上
苗圃面積（町）	二、五〇〇二	四、六七二六	六、二〇一二	八、七九〇七

種別 / 演習林別	樺太演習林	朝鮮演習林	臺灣演習林	和歌山演習林
位置	泊居支廳管内久春内郡三濱村	全羅北道茂朱郡	臺中州能高郡	和歌山縣東牟婁郡七川村
沿革	大正二年六月林地一九、九〇〇町歩所管換	大正二年九月八十箇年ノ契約ニテ無償貸付ヲ受ク	大正五年八月六、八四六町歩同十五年十一月一四六七町假保	大正十四年三月購入
人工造林面積（町）（昭和七年度迄）	四四四・三二			
氣象觀測	六同觀測所ニ準ジ行フ	一日三回觀測、一日一回觀測ノ二箇所ヲ設ク	六同觀測所ニ準ジ行フ	一日一回簡易觀測ヲ行フ
林内殖民（町）	—	六二二・七八二五	三一五・五四一七	一九・〇五〇三
管理所	林内ニ派出所ヲ置ク苦小牧ヲ距ル一里六町	八號殖民地ニ派出所ヲ四號殖民地、三股及母子里ニ各看守所ヲ置ク	上音威子府ニ派出所ヲ磐平ニ看守所ヲ置ク	問寒別ニ派出所ヲ八線ニ看守所ヲ置ク
教官宿泊所及學生生徒寄宿舍	設備アリ	同上	同上	同上
現在職員	助手一名 書記一名 雇員二名	助手一名 書記一名 雇員三名	助手一名 書記一名 雇員二名	助教授一名 書記一名 雇員二名

（其二）

種別 / 演習林別	樺太演習林	朝鮮演習林	臺灣演習林	和歌山演習林
位置	泊居支廳管内久春内郡三濱村	全羅北道茂朱郡	臺中州能高郡	和歌山縣東牟婁郡七川村
沿革	大正二年六月林地一九、九〇〇町歩所管換	大正二年九月八十箇年ノ契約ニテ無償貸付ヲ受ク	大正五年八月六、八四六町歩同十五年十一月一四六七町假保	大正十四年三月購入
人工造林面積（町）（昭和七年度迄）	二、四三四・六八	—	二三六・〇三	五九・一三
苗圃面積（町）	七・〇二八	—	二・〇七〇六	〇・八七〇三
施業案實行斫伐方法	年期契約ニ依ル立木竇拂ナリ	—	—	—
輪伐期及同歸年又ハ整理期	輪伐期一五〇年同歸年五〇年	擇伐林ハ輪伐期一二〇年同歸年一三〇年	擇伐林ハ輪伐期一五〇年同歸年五〇年	輪伐期五〇年整理期三〇年
作業種	擇伐禿林作業	成林地擇伐禿林作業未立木地皆伐禿林作業	成林地擇伐禿林作業未立木地皆伐禿林作業	皆伐禿林作業
施業案	二箇事業區トシテ施業中ナリ	三箇事業區トシテ施業中ナリ	假施業案ヲ編成セシモ都合上其ノ實行ニヨル斫伐ハ見合セ中ナリ	一事業區トシテ施業中ナリ
林況	主林木ハえぞまつ・とどまつニシテからまつ及濶葉樹少シ	濶葉樹林ナルガ人工又ハ天然ニヨリ造林スベキ荒廢地多シ	主トシテ常綠濶葉樹林ナリ	概シテ矮少ナルかしひ・くす等ノ常綠濶葉樹多シ
森林植物帶上ノ位置	寒帶ニ在リ	温帶ニ在リ	亞熱帶ニ位スルモ垂直的ニ暖帶温帶ヲ有ス	暖帶ノ北部ニ在リ
臺帳面積（町）	一九、九〇七・四四二六	林外購入地一・六九一七	林外購入地一・二六〇四八六	四三一・三九一八
借用林地	一六五四・八七〇〇			
假保管轉換林地		六九九二・七〇〇〇		
管轉換ヲ受ク	尚林外ニ購入地一町			
尚林外ニ購入地	二六〇			
四八六購入地アリ	六九一七アリ			

氣象觀測	六回觀測所ニ準ジ行フ	六回觀測所ニ準ジ行フ	一日一回觀測ヲ二箇所ニテ行フ	一日一回簡易觀測ヲ行フ
林内殖民（町）	—	—	—	—
管理所	珍内ニ派出所ヲ置ク	茂朱面邑内里ニ派出所ヲ深谷里及竹川里ニ看守所、所川里ニ作業所ヲ置ク	埔里街水頭ニ派出所ヲ置ク	七川村字平井ニ派出所ヲ置ク
教官宿泊所及學生生徒寄宿舍	設備アリ	教官宿泊ノ設備アリ	同上	設備アリ
現在職員	助手 一名 囑託 一名 雇 一名	助手 二名 雇 四名	助手 一名 書記 一名	助手 一名

二、實驗苗圃

本學構内ニ在リ總面積四町二反二畝八歩ニシテ内施業面積二町四反八畝二七歩ナリ内外諸國ノ有用樹種ニツキ之カ育成ノ方法ヲ學生生徒ニ實習セシメ或ハ教官ノ研究及學生ノ卒業論文材料等ノ資料ニ供シ其用濟苗ハ道内演習林ニ造林シツヽアリ

三、木材强弱試驗室

本建物ハ本學構内ニ在リ大正四年度ノ設置ニシテ演習林ニ産スル木林及内外諸種ノ木材及内外諸種ノ木材ニ就キ其工藝的性質ニ關スル試驗研究ヲ行ヒ兼テ學生生徒ノ實驗ニ供シツヽアリ

四、試驗材料貯藏並標本陳列室

本建物ハ林學講堂ニ隣接シ演習林及内外諸國ヨリ蒐集セル各種試驗材料ヲ貯藏スルト同時ニ各種ノ標本ヲ陳列スル

所ニシテ大正十一年建設セシモノナリ

五、演習林研究報告

大正四年以來演習林研究報告ヲ出版シテ演習林ニ於ケル研究事項ヲ順次發表セリ

第一卷第一號　苫小牧地方蝦夷松收額表
- 林學博士　小出房吉
- 林學士　中島廣吉
- 林學士　佐藤義夫

第一卷第二號　(一)木材形質商ノ曲線ニ就キテ
- 林學博士　小出房吉
- 林學士　佐藤義夫

(二)薪炭材ノ層積ト實積トノ關係ニ就キテ
- 林學博士　小出房吉
- 林學士　中島廣吉

第一卷第三號　形數速算ノ新法
- 理學士　工藤祐舜
- 林學得業士　吉見辰三郎

第一卷第四號　苫小牧演習林野生植物調査報告
- 林學博士　新島善直
- 林學士　楠菊夫
- 林學得業士　富本豐

第一卷第五號　こがねむしノ被害及驅除ニ關スル研究報告（第一回）
- 林學博士　小出房吉
- 林學士　中島廣吉

第一卷第六號　(一)杣角材積ノ新速算法

(二)樹幹橫斷面積算出法ニ就キテ(第一回)　林學博士　小出房吉
第一卷第七號　(一)樹幹橫斷面積算出法ニ就キテ(第二回)　林學士　石尾和作
(二)樹幹折解ノ際各齡階所屬樹高算定ノ新法(第一回)　林學博士　小出房吉
第一卷第八號　(一)野幌地方椴松木材收額表　林學士　中村琢磨
(二)北海道產樺木科樹種ノ材ノ解剖學的研究　林學士　中島廣吉
第一卷第九號　(一)同齡林分中ノ各直徑階ニ對スル本數配分關係ノ統計的研究(第一回)　林學博士　小出房吉
林學士　石尾和作
林學博士　小出房吉
(二)北海道ニ於ケル桐樹ノ生長ニ就キテ(第一回)　林學士　佐藤義夫
第二卷第一號　(一)樹幹折解ノ際各齡階所屬樹高算定ノ新法(第二回)　林學士　野崎清
林學士　中島廣吉
(二)凍結針葉樹材ノ抗折強ニ就テ　林學博士　宮井健吉
第二卷第二號　こがれむしニ關スル研究報告(第二回)　林學士　大澤正之
林學博士　新島善直
林學士　木下榮次郎

第二卷第三號　林木ノ生長ト陽光ノ強度トニ關スル數理的研究(第一回)　林學士　影山純介
第二卷第四號　林木ノ生長ト陽光ノ強度トニ關スル數理的研究(第二回)　林學士　影山純介
第三卷第一號　北海道產木材ノ彈性及強度ニ關スル研究　林學博士　宮井健吉
林學士　大澤正之
第三卷第二號　林木ノ生長ト陽光ノ強度トニ關スル數理的研究(改訂)　林學博士　影山純介
第四卷　(一)こがれむしニ關スル研究(第三回)　林學博士　小出房吉
林學士　佐藤義夫
(二)阿寒植物景觀(第一報)　林學博士　新島善直
(三)苫小牧演習林ニ於ケル氣象觀測成績　林學士　木下榮次郎
第五卷　(一)天鹽演習林植物目錄(第一報)　農學士　館脇操
(二)日高檜似アポイヌプリ植物　林學博士　中島廣吉
(三)同齡林分中ノ各直徑階ニ對スル本數配分關係ノ統計的研究(第二回)　農學士　館脇操
(四)野鼠ノ森林保護學的研究　林學士　石尾和作
第六卷　蝦夷松天然更新上ノ基礎要件ト其適用　林學士　木下榮次郎
第七卷　(一)北海道產濶葉樹材四種(楢、樺、櫸、栓)ノ強度　林學博士　佐藤義夫
(二)人工植栽落葉松材ノ強度　林學博士　大澤正之
林學博士　大澤正之

(三)雨龍演習林植物調査(第一報)　農學士　館脇　操
(四)和歌山演習林植物目錄(第一報)　農學士　館脇　操
(五)天鹽演習林植物目錄(第二報)　農學士　館脇　操
(六)あかえぞまつ及ピくろえぞまつノ苗樹ニ寄生スル線蟲ニ就テ　農學士　山口捨雄
(七)雨龍演習林内勞働及植民ニ關スル調査(第一報)　農學士　渡邊侃
　　農學得業士　南原信夫
(八)火田ト火田民ニ就テ　主トシテ朝鮮演習林ニ於ケル火田　林學得業士　渡邊義郎
(九)天鹽演習林八線澤産白金砂ノ研究(第一報)　理學士　柴田善一
　　理學士　寺崎義男

農學部附屬植物園及博物館

植物園ハ札幌市北五條ヨリ北二條ニ跨リ四八丁目ヨリ十一丁目ニ亙リ面積三萬六千五百餘坪ヲ有ス本園ハ本道所産ノ植物及内外ノ種類ヲ汎ク蒐集栽培シ其ノ分類所屬ヲ明カニシ植物學實地教授用竝研究ノ材料ニ供スルノミナラス本道ノ風土ニ適スルヤ否ヤヲ試驗シ以テ本道ノ園藝及造林上ニ裨益セントスルニ在リ

園内ヲ自然分科園、樹木園、灌木園、試驗園及温室附屬園ノ五區ニ分割シ培養ノ植物種類約六千種ヲ有ス温室ハ專ラ暖國産ノ植物ヲ培養シ冬期間植物學研究ノ材料ニ供シ又植物生理ノ實驗場トス

本園ハ札幌市内最モ幽邃閑雅ノ地ニ在リ衆庶競ヲテ縱覽シ恰モ一ノ教育的公園タルノ觀アリ今植物園及博物館縱覽規程ニ依リ昭和七年六月一日ヨリ昭和八年五月三十一日ニ至ル開園日數ヲ擧クレハ二百二十九日ニシテ入園人員ハ十一萬三千三十人ニシテ又同附屬温室ハ昭和八年四月一日ヨリ公開セルカ五月三十一日迄ノ公開日數六十一日ニシテ觀覽者數ハ六千七百七十二人ニ及ヘリ

博物館ハ植物園内ニ在リ本館ハ元開拓使ニ於テ明治四年中道内ニ産スル天産及人工ノ物品ヲ札幌市北七條西四丁目偕樂園内ニ蒐集シ開場ノ日ヲ定メテ衆庶ノ縱覽ニ供シタルニ權輿シ同十四年中東京芝山内開拓使假博物場ノ陳列物ノ一部ヲ收容シ場内狹隘ヲ告クルニ至レルヲ以テ現在ノ場所ニ移轉新築シ同十六年中竣工セル木造二階建ナリ是レヨリ先キ十五年七月開拓使ヨリ農商務省博物局ノ所管ニ移サレテ札幌博物場ト稱シ物品陳列ノ目的ヲ更ヘ專ラ拓殖上ニ裨益スル勸業方面ノ物品ト其ノ製造ニ用ヒラルヽ器具類トヲ陳列スルコトヽセリ然ルニ十六年七月又北海道事業管理ニ移リ十七年七月始メテ札幌農學校ノ所屬ニ歸スルニ及ヒ同校博物場ニ藏セル標本ヲモ合併シテ陳列ヲ再ヒ純博物館的ニ復シ以テ今日ニ至レリ而シテ本館ノ陳列品ハ學生生徒研究上ノ用ニ供スルヲ以テ目的トスト雖又本道産ノ概況ヲ窺知セシメンカ爲ニ日時ヲ限リ衆庶ノ縱覽ヲ許セリ今昭和七年五月末現在貯藏標本數ヲ合計スルトキハ一萬四千五百點ナリ之ヲ大別シテ天産部、勸業部、史傳部及圖書寫眞ノ四門トス尙昭和七年六月一日ヨリ昭和八年五月三十一日ニ至ル開館日數ハ二百二十九日ニシテ參觀人ハ十一萬三千三十人ナリ

醫學部附屬醫院

本學醫學部附屬醫院ハ大正十年十一月一日ヨリ開院シ醫學上ノ研究及授業ノ目的ヲ以テ外來及入院ノ患者ヲ診療スル所ニシテ外來患者ノ診察ハ日曜日及祭日、祝日ヲ除キ毎日之ヲ施行シ又入院患者ハ施療ヲ主トシ其ノ病症學術研究上須要ト認ムル者ニ限リ入院ヲ許シ私費患者ニ在リテモ亦其ノ病症ニ依リテ入院セシム

昭和八年二月一日ヨリ急患者ノ爲時間外急患者診療所ヲ開設シ外來患者受付時間外ニ於テ診療ヲ行フ

本院ノ看護婦タラント欲スル者ヲ養成スル爲看護法講習科ヲ設ケ患者ヲ看護スルノ方法ヲ授ク其ノ講習期間ハ二箇年ナリ又別ニ産婆養成所ヲ設ケ一般産婆ニ必要ナル學術ヲ授ケ且實地練習ヲ爲サシム本所ニハ本科竝補習科ヲ置キ

其ノ修業年限ヲ本科二箇年補習科一箇年トス

大正十三年四月一日ヨリ又病的材料檢査科ヲ置キ醫師其他公衆ノ依頼ニ應シ喀痰、糞尿、胃液、血液、血清、膿穿刺液、切除材料及剖見材料等ニ就キテ各種醫學的檢査ヲ行フ

理學部附屬臨海實驗所

本學理學部附屬臨海實驗所ハ昭和六年九月二十七日厚岸灣外寒流地帶ニ設置セラレ北方ニ於ケル海洋生物ノ綜合的並ニ徹底的研究ヲ期スル爲同地方ニ於ケル海流床ノ研究並ニ魚介類ノ生態特ニ魚介類ノ移行ノ現象ヲ明ニシ又寒流中ニ於ケル海產植物ノ分布、繁殖、發育ノ研究ニ依リ有用海藻類ノ人工的育成ヲ計リ更ニ又厚岸湖ノ鰊ノ生棲現象牡蠣ノ繁殖狀態ヲ研究シ之ニ依テ其ノ應用科學タル水產學上ニ有用ナル資料ヲ提供シ引イテハ本道水產業ノ發達ト富源ノ開發ニ資セントスルモノナリ依テ汎ク一般學術研究者ニ之ヲ公開シ研究ノ資料トスルモノトス

理學部附屬海藻研究所

本研究所ハ昭和八年四月室蘭市舟見町ニ設置セラレ同五月二十七日開所式ヲ擧ケ研究ヲ開始セリ元來室蘭ノ地ハ寒海並ニ暖海性ノ海藻ヲ併セ產シ且ツ研究所附近ニハ岩礁多クシテ著生セル海產植物豐富ナリ本研究所ニ於テハ主トシテ海產藻類ノ分類學的、生態學的、發生學的、生理學的研究等ヲ行フモノニシテ研究室ト簡單ナル宿舍トヲ併セ有シ研究者ノ用ニ供ス

附屬圖書館

本館ハ明治三十五年工ヲ起シ同年竣工ス館内ハ職員閱覽室、學生生徒閱覽室、圖書貸渡室、事務室等ノ數室ニ分ツ學生生徒閱覽室ハ百餘人ヲ容ルルヲ得圖書目錄檢索席、參考圖書閱覽席ヲ備フ更ニ大正十四年九月新聞雜誌閱覽室及事務室ノ一棟ヲ增築シ昭和四年十一月新タニ製本室鐵筋コンクリート建一棟ヲ增築ス書庫ハ在來二層ノ煉瓦造一棟ノ外大正十一年十二月更ニ鐵筋コンクリート三階一棟ヲ增築シ新舊兩棟ヲ合シ九萬冊ノ圖書ヲ容ルルニ足ル現今所藏ノ圖書ハ昭和八年五月末日ノ調査ニ依レハ和漢書九萬九千七百五十冊、洋書十五萬三千五百八十冊、圖類四千八百三十五枚アリ圖書分類ハ十進法ニ依リ之ニ多少ノ修正ヲ加ヘタリ

又記念ノ爲他ヨリ寄贈アリタル文庫ヲ揭クレハ左ノ如シ但シ其ノ員數ハ前揭中ニ包含セリ

記念文庫名	寄贈者	種類	員數	年月
石井小太郎	南鷹次郎其ノ他	洋書	二十冊	明治三十五年
橋口文藏	札幌同窓會	洋書	二十二冊	同三十七年
坂井菊松	松村松年其ノ他	洋書	八冊	同三十八年九月
平山八十五郎	山田玄太郎其ノ他	洋書	四冊	同三十八年九月
苅宿幸次郎	長嶺林三郎其ノ他	洋書	六冊	同三十九年三月
二宮尊德	かめら會	和書	六十冊	同三十九年六月
大竹溫厚	大竹本民	和洋書	百九冊四十六冊	同四十二年十一月
中村令	中村和義	和書	百三十三冊	同四十三年十二月
藤井莊三郎	藤井定二郎	洋書	十五冊	同四十四年五月

阿部恭夫	阿部宇之八	和洋	書	一冊	大正元年九月
桑山茂	桑山貞常	洋	書	十三冊	同元年十月
大瀧圭之助	大瀧丈夫	洋	書	百十六冊	同二年二月
鈴木重禮	鈴木重一	和洋圖	書類	六百二十七枚	同二年五月
村上又二郎	二宮德其ノ他	洋	書	十二冊	同二年七月
三浦慶太郎	三浦慶雄 宮部金吾其ノ他	和洋	書	二十七冊 十二冊	同三年五月
瀧臣弼	牛澤洵其ノ他	洋	書	十一冊	同四年十月
畑治作	東海林力藏其ノ他	洋	書	二十冊	同四年十月
宮部金吾	宮部金吾	和洋	書	一十七冊	同四年十月
南鷹次郎	南鷹次郎	洋	書	三百九十一冊	同四年十月
小川運平	小川夫丈	和洋	書	十三冊	同五年十一月
	小川丈夫	洋	書	二十冊	同十五年二月
小川運平	作田玄太郎其ノ他	洋	書	四十九冊	同六年九月
村田庄次郎	入田三郎其ノ他	洋	書	三冊	同七年二月
新波戸稻造	新波戸稻造	和洋	漢書	四十四冊 百九十九冊	同七年十二月
新波戸稻造	新波戸稻造	和洋	書	二十六冊 六百六十五冊	同十四年六月
辻重忠	湯地定彥其ノ他	洋	書	八冊	同八年十一月
松井精一	田中イク	洋	書	七冊	同八年十一月
吉井豐造	大島金太郎其ノ他	和洋	漢書	三百九十九冊 百八十六冊	同九年十二月
關谷喜一郎	關谷善吉	洋	書	十二冊	同十二年十二月
三木準	三木龍哉	和洋	書	二十四一冊	同十四年十二月
菅原治作	山村ヤス	和洋	書	百二十五冊	同十五年三月
東海林力藏	故東海林博士記念資金募集發記人總代星野勇三	和洋	書	六十七冊	同十五年十一月
村井義一	シルバ會代表者中島廣吉	和洋	書	二十六冊	昭和二年三月
池田福海	池田清子	和洋	書	十八冊	同三年五月
高木泰藏	高木甚藏	和洋	書	二十冊	同三年六月

又獎學資金寄贈者ノ指定ニヨリ設クタル文庫左ノ如シ（昭和七年五月現在）

文庫名	種類	數員
穗積文庫	和漢書	百五十二冊
	洋書	三十二冊

佐藤文庫	和洋圖	漢書	四百九冊
		洋書	九十三冊
		類	一枚
橋本文庫	洋	漢書	四十九冊
高岡文庫	和洋	漢書	十八冊
		書	百六十二冊
廣井文庫	洋	書	百二十四冊

寄宿舍

寄宿舍ハ元本學ノ中央ニアリタルモノヲ昭和六年現在ノ地ニ移轉改築シ同年十二月ヨリ生徒ヲ收容セルモノナリ舊舍屋ハ明治三十六年木造二階建二棟延五百五十二坪及附屬平家二百四十一坪五合石造三十坪ヲ建築シ三十六室ヲ設ケ內三十一室ニ每室四人ヲ收容スルコトヽシ他ノ五室ハ自炊制度ノ委員室、集會室及娛樂室等ニ充テ三十八年四月ヨリ舍生ヲ收容セルヲ初メトシ爾後學部增設ノ準備トシテ附屬大學豫科生ノ定員亦增加スルニ至リ大正八年九月木造二階建一棟延二百二十坪十四室ヲ增築シ更ニ十一年四月ニ至リ木造二階建一棟延三百七十二坪二十四室及食堂木造平家三十坪炊事場石造平家十六坪等ヲ增築セルモノナリ昭和六年之カ移轉改築ヲナスニ當リテハ過去多年ノ經驗ニ徵シ利便及結搆等ニ就キ大ニ考慮改善セルモ其坪數等ニ至リテハ舊舍屋ト殆ント異ル所ナシ

今其ノ設備ノ大要ヲ擧クレハ主ナル舍屋ハ木造二階建四棟ニシテ延坪合計千四十八坪アリ之ヲ四寮六十六室ニ分チ內六十室ヲ舍生室ニ充テ寢臺、卓子及雜品棚二個ヲ備付ケタル外洗面器ヲ取付ケ湯水ヲ送ル設備ヲナスシ且鏡ヲ置キテ整容ニ備ヘ他ノ六室ハ之ヲ圖書室、理髮室、娛樂室、卓球室等ニ使用シ居レリ

右ノ外玄關及事務所、宿直室、巡視室、小使室、湯呑室等ヨリナル

木造平家一棟	約四十七坪
講堂其他木造二階一棟	延九十六坪
食堂及配膳室木造平家一棟	百〇八坪
炊事場石造平家一棟	四十坪
浴室、洗濯室等木造一棟	二十六坪
汽罐室木造一棟	四十二坪
炊夫室及物置	約二十七坪
便所、渡廊下	約百二十六坪

等アリテ總計延坪千五百六十坪ニ及ヘリ

從來本寄宿舍ハ大學寄宿舍トシテ學生生徒ヲ併セ收容シ來リ殊ニ學年初ニ於テハ豫科新入生ノ希望サヘ之ヲ滿ス能ハサル狀況ナルヲ以テ大正十三年度ヨリ豫科生ノミヲ取容スルコトヽシ建物ヲ豫科ニ移管スルニ至レリ

大正十五年四月勉學上弊害アルヲ認メ一室ノ收容人員四人ヲ二人ニ改メタルモ新入生等ニシテ適當ナル宿所ヲ得難ク入舍ヲ希望スル者多キヲ以テ未タ右改正定員ヲ勵行スルニ至ラス

本年五月三十一日現在舍生數左ノ如シ

第三學年	四四	第二學年	八七
第一學年	一〇六	計	二三七

水產專門部臨海實驗所及練習船

本學附屬水產專門部ノ臨海實驗所ハ後志國忍路郡忍路村ニ在リ地積一千二百二十二坪漁船漁具等ヲ備ヘ附屬水產專門部生徒ヲシテ水產製造ノ實習水產動植物ノ實驗航海運用ノ練習及浮游生物ノ實驗等ヲ行ハシム

練習船おしよろ丸ハ昭和二年五月ノ建造ニ係リ補助機關付遠洋第一級漁船ニシテ長百三十五呎、巾三十呎、深十五呎六吋、總噸數四百七十一噸七六ナリ昭和五年度ニ於テハ本船ニトロール漁業裝置ヲ施スコトトナリ播磨造船所ニ於テ該工事ヲ施行セリ

本船ハ生徒ヲシテ遠洋漁業ノ實習、航海運用術ノ實地練習及外洋ニ於ケル海洋學的研究ヲ爲サシムルノ用ニ供ス又實習船第二鵡丸ハ大正十一年八月ノ建造ニ係リ十九噸三十馬力ノ鐵船ケッチ型發動機船ニシテ毎年六月下旬ヨリ九月上旬ニ亙リ本道南沿岸ニ於ケル鮪、鮫、秋刀魚及烏賊ノ漁業實習ニ充ツ

土地建物及船舶

一、土　地

所用	所在	地積	價格
本部敷地	札幌市北八條西五丁目	三四、三〇六・九一六坪	三三九、六三八・四五八円
農學部敷地	同　北八條西六丁目	四四、三五一・七〇五	三五四、八一三・六四〇
醫學部敷地	同　北八條西六丁目	五一、一三五・三六〇	五一、三五三・六〇〇
工學部敷地	同　北八條西五丁目	二〇、〇七五・四三〇	一〇〇、三七七・一五〇
理學部敷地	同　北八條西六丁目	六、五六八・三九五	五二、五四七・一六〇
寄宿舍敷地	同　北八條西六丁目	五、二七〇・〇〇〇	一五、八一〇・〇〇〇
職員官舍敷地	同　北八條西五、六丁目 同　北十一條西三丁目	四、三九六・七八〇	四六、六〇五・八六八
植物園敷地	同　北二、三、四條西八、九丁目	三六、五〇六・七四二	七三〇、一三四・八四〇
水產專門部附屬臨海實驗所敷地	後志國忍路郡鹽谷村字忍路	一、二二二・〇〇〇	一、七一〇・八〇〇
第一農場敷地	札幌市北八條西六丁目	一八九、四〇六・五一三	三七八、八一三・〇二六
第二農場敷地	同　北八條西五丁目	二七、〇四四・六五四	二八二、一五八・〇五〇
第三農場敷地	札幌郡札幌村字レクレップ	九五三、二四二・〇〇〇	九五、三二四・二〇〇
第四農場敷地	札幌郡豐平町大字平岸村字簾舞	一、九四二、八四二・〇〇〇	二七一、九九七・八八〇
第五農場敷地	夕張郡角田村字ウエンペツ	一、五二〇、〇〇〇・〇〇〇	二一二、八〇〇・〇〇〇
第六農場敷地	夕張郡角田村字アノロ	二、一四三、〇四三・二五〇	五三五、七三二・三八〇
第八農場敷地	空知郡富良野町及山部村	一、三七三、二三七・八六九	一、三六四、七八八・五四四
余市果樹園敷地	後志國余市郡余市町大字山田村	一二、〇二一・五五五	九〇一六・一六六
理學部附屬臨海實驗所敷地	釧路國厚岸郡厚岸	五、六七九・〇〇〇	五六七九〇〇
理學部附屬臨海實驗所艇庫敷地	同	三〇〇・三〇〇	六〇〇・六〇〇

區別	種類	建物坪數	價格
理學部附屬臨海實驗所敷地	釧路國厚岸郡厚岸	三九二・〇〇〇	三九二・〇〇〇
雨龍演習林敷地	雨龍郡幌加内村	七二、七九八、一六・一六四	七二九、九八七・一七一
苫小牧演習林敷地	勇拂郡苫小牧町	六、八二二、五六〇・〇〇〇	五四、五八〇・四八〇
天鹽第一演習林敷地	中川郡常盤村、中川村	五八、九六〇、七五九・五三一	四一二、七二五・三一六
天鹽第二演習林敷地並同苗圃地	天鹽郡幌延村	六八、二三七、七五八・九三〇	四七八、一六一・九一三
樺太演習林敷地	久春内郡三濱村	五九、七二二、三四六・〇〇〇	三〇〇、八四八・五〇〇
朝鮮演習林敷地	全羅北道茂朱郡	四九、六六一、二六七・〇〇〇	二、二三六・八五八
臺灣演習林敷地	臺中州能高郡	二〇、九八一、八八四・八六〇	三、七八四・八六〇
和歌山演習林敷地	東牟婁郡七川村	一、二九四、一八八・〇〇〇	二六、九〇四・三〇〇
附屬地	札幌市自北一條至北十五條自西一丁目至西十三丁目	六二、六六四・〇〇七	五七六、五〇八、八六四
計		二八六、四六八、九〇六・九六〇	七、八八八、九二〇、五二四

備考　朝鮮演習林敷地ハ朝鮮總督府ヨリ國有林四九、六五六、一八〇坪借入
臺灣演習林敷地ハ臺灣總督府ヨリ國有林二〇、九七八、一〇〇坪借入

二、建物

本部	事務所建	二、九〇八、二二二	三七九、二〇五、八六一
	倉庫建	二八・〇〇〇	三、六九〇・四五〇
	雜屋建	八〇・〇〇〇	一二、四六一・九四六
	工場建	一、〇九六・六〇一	一一三、九一六・〇四八
農學部	事務所建	五、五五九・七三五	六三四、八七〇・三八九
	倉庫建	二一五・二五〇	五四、七四八・四八九
	工場建	二四〇・七〇〇	四二、〇一五・三五一
	雜屋建	一、七四一・九五〇	一七四、〇六三・七五五
醫學部	事務所建	一二、五六八・一一六	二、五六〇、六六四・七四四
	倉庫建	二三〇・七五〇	四三、一一六・八九五
	工場建	三四四・三三三	八八、九二八・八三〇
	雜屋建	二、四〇五・二五三	三八七、〇三九・三七八
工學部	事務所建	四、三四〇・六〇四	一、〇五九、六四五・八四〇
	倉庫建	一三五・〇〇〇	二七、一五二・六五〇
	雜屋建	四七八・六八五	七三、六二三・四六〇

理學部	事務所建	三、二九三・二二四	八五六、六二六・八九〇
	工場建	八四・〇〇〇	二八、三七〇・〇〇〇
	雜屋建	四五二・四七一	九六、三一八・六七〇
官舍	住宅建	八八六・三五五	七三、九六一・四〇七
	雜屋建	六六・九四四	二、〇九八・二六七
寄宿舍	事務所建	一八二・八八八	五、四四四・一七七
	雜屋建	八三・六五二	八三六・二七四
植物園	工場建	一五・〇〇〇	一二七・〇三三
	雜屋建	三六三・五一七	四九、六〇三・九〇七
	倉庫建	一一・五〇〇	三、〇九七・三七〇
忍路臨海實驗所	住宅建	一、一六六・七五〇	五八、八六一・七六〇
	事務所建	三九二・五〇〇	二六、八〇六・九六〇
	雜屋建	一〇四・〇〇〇	一三、三七七・一〇〇
	事務所建	五一・七五〇	八八〇・三四〇
	雜屋建	二五一・〇三九	七二、六二六・五二〇

厚岸臨海實驗所	工場建	一〇・〇〇〇	三四三・一二〇
	住宅建	四二・一六六	六〇一九・〇六〇
果樹園	雜屋建	八三・五〇〇	五、九二四・四六〇
農場	住宅建	二四八・五〇〇	一九、三三三・四五七
	雜屋建	一三〇・三五〇	五、三一六・九三〇
	工場建	六・〇〇〇	三七六・〇七五
演習林	住宅建	二、六二六・六〇一	一五三、三四九・二一〇
	事務所建	六八四・三八九	八六、七一三・五三五
	雜屋建	二六〇・四八一	三三、一四三・一六〇
	倉庫建	二三・六六〇	二、四八六・一五〇
計		四四、六一三・〇七八	七、三六七、八五三・〇三二

名稱	構造	數量	價格
三、船舶			

練習船おしよろ丸	船質鋼、帆装三檣バーケンタイン補助機關附五〇〇純馬力登簿噸數二一九噸六九	一	二九〇、一二〇・〇〇〇
同第二鷗丸	鋼鐵造補助機關附帆船一九噸七五	一	一四、六〇〇・〇〇〇
傳馬船	木造	六	四一四・五九〇
漁船	木造（三反形）	一	二五〇・〇〇〇
磯船	木造	一	三〇・〇〇〇
端艇	同	二	四三七・〇〇〇
同	同	一	二〇〇・〇〇〇
磯船	同	一	七七・八〇〇
トロール用端艇	モーター付	一	二、九五〇・〇〇〇
自動艇	木造グレー式二〇馬力發動機付	一	四、三六六・〇〇〇
計		一六	三一三、四四五・三九〇

○奬學資金

高松宮御寄附奬學賞金授與規則（昭和二年四月八日設定）

第一條　高松宮殿下ヨリ下賜セラレタル金五千圓ヲ資金トシ之ヨリ生スル利子ヲ以テ賞金トス

第二條　賞ハ北海道ノ資源開發ニ緊切ナル研究ニシテ其ノ成績卓絶ナルモノニ對シ之ヲ授ク

第三條　賞ハ賞記及賞金トス

第四條　賞ヲ授クルハ推薦又ハ募集ニ依ル

推薦又ハ募集ニ關スル事項ハ委員會ニ於テ之ヲ定ム

第五條　委員會ハ委員長、委員及幹事ヲ以テ組織シ委員長ニハ總長、委員ニハ評議員、幹事ニハ事務官ヲ以テ之ニ充ツ

第六條　推薦又ハ募集アリタルトキハ委員會ニ於テ審査委員若干名ヲ定ム

第七條　審査委員ハ審査ノ經過及結果ヲ委員會ニ報告スルモノトス

第八條　受賞者ハ委員及審査員總會ニ於テ之ヲ決定シ發表スルモノトス

第九條　本規則改正ノ必要ヲ認メタルトキハ總長之ヲ評議會ノ議ニ付シテ定ム

奬學資金寄贈者表

本學設置以來奬學資金トシテ寄贈セシ者ヲ掲クレハ左ノ如シ

寄贈金名義	寄贈ノ目的	寄贈年月	金額	寄贈者
故穗積貞三奬學資金	學生生徒賞與金及圖書機械購入ノ爲	明治四十三年七月	千百圓	穗積陳重
佐藤博士就職二十五年記念奬學資金	學生生徒ニ貸與又ハ給與ノ爲	明治四十五年六月	五分利公債證書二千圓	佐藤博士就職二十五年記念祝賀會委員長 南鷹次郎 外千百三十四名
同上	農業經濟學圖書購入ノ爲	大正元年八月	五分利公債證書千圓	同上

同	上	學生生徒ニ貸與又ハ給與ノ爲	大正二年三月	四分利公債證書五百圓
故森源三獎學資金	同	上	明治四十五年六月	四分利公債證書千圓
吉井博士開講二十五年記念獎學資金	農藝化學圖書購入ノ爲		大正二年十月	特別五分利公債證書六百圓
鈴木武夏就職二十五年記念獎學資金	農學圖書購入ノ爲		大正四年七月	四分利公債證書三百圓
橋本博士在職二十五年記念獎學資金	斎産學圖書購入ノ爲		大正六年一月	勸業債券千圓
佐藤博士獎學資金	學生生徒ニ貸與及給與又農業經濟學圖書購入ノ爲		大正七年十二月	五分利公債證書萬圓
内村鑑三謝恩記念獎學資金	學生生徒ノ入學奬勵金充用ノ爲		大正八年六月	五分利公債證書千圓
故野村龍吉獎學資金	斎産學ニ關スル圖書購入ノ爲		大正八年九月	勸業債券百圓
故吉井博士記念獎學資金	圖書ノ購入シ故吉井博士記念文庫增補ノ爲		大正九年二月	五分利公債證書百圓
大島博士獎學資金	農藝化學研究ノ爲		大正十一年一月	四分利公債證書五百圓

故森源三獎學資金募集委員
宮部金吾　南鷹次郎　外百三十名

吉井博士開講二十五年記念祝賀會委員長
大島金太郎　外四百七十八名

故森源三獎學資金募集委員
宮部金吾　南鷹次郎　外百三十名

故有島ヤス子記念獎學資金	學力可良品行方正ナル學生生徒貸與ノ爲		大正十一年一月	四千五百圓
廣井博士還曆記念獎學資金	土木工學科ニ於テ學術研究及奬勵ノ使途ニ充ツル爲		大正十一年十二月	五分利公債證書三千圓
高岡博士在職二十五年記念獎學資金	農業經濟ニ關スル雜誌ノ發行若ハ同學ニ關スル學術研究費ノ爲		大正十二年三月	五分利公債證書三千八百圓
鈴木武夏獎學資金	學生生徒ニ貸與又ハ給與ノ爲		大正十三年一月	五分利公債證書五百圓
片岡殖結婚記念獎學資金	農藝化學ニ關係アル圖書購入ノ爲		大正十三年十月	五分利公債證書千圓
故田所ミキ子記念北大生物化學賞資金	本學内生物化學研究者ノ表彰ノ爲		昭和二年七月	北海道拓殖債券二千圓
故山田陽清博士記念獎學資金	工學部指定ノ圖書購入ノ爲		昭和六年七月	五分利公債證書千圓
ゲオルグ、グラッセル獎學資金	本學學生生徒ノ獎學ノ爲		昭和七年二月	五圓
故井伊谷春平教授記念獎學資金	工學部指定ノ圖書購入ノ爲		昭和七年七月	五分利公債證書一千五百圓
男爵佐藤昌介記念獎學資金	學資ニ窮スル有爲ノ學生生徒ニ給與又ハ貸與ノ爲		昭和七年十一月十五日	五分利公債證書一萬六千六百五十圓

故有島武郎

片岡唯一郎　同都喜

鈴木武夏

高岡熊雄

廣井勇

田所哲太郎

故山田陽清博士記念事業會
吉町太郎一　外二百七十六名

ゲオルグ、グラッセル

故井伊谷春平教授記念事業實行委員長
大賀悳二　外四百三十二名

佐藤前總長記念實行委員長

出　版

明治三十六年以降出版シタル紀要目錄左ノ如シ

○札幌農學校紀要　第二卷　第一號

不常牛乳ノ灰ノ成分ニ就テ	農學士	橋本左五郎
日本產泡吹蟲科昆蟲誌	農學士	松村松年
同　第二號　附圖二版		
日本產水棲半翅類ニ就テ	理學博士	松村松年
スコリチニ（小蠹蟲科ノ一部）日本種ニ就テ	林學士	新島善直
日本產蠶蝦昆蟲誌	理學博士 農學士	松村松年 素木得一
同　第三號　附圖一版		
燈心ノ成分ニ就テ	農學士	大島金太郎
日本產纖形科植物ニ寄生スル「アクシニア」ニ就テ	農學士	三宅勉
同　第四號		
世界ノ蠶業競爭ト日本蠶業	農學士	伊藤清藏

○東北帝國大學農科大學紀要　第三卷　第一號　附圖二版

日本產螽斯科昆蟲誌	理學博士 農學士	松村松年 素木得一
幼齡やつめノ血管系ノ發生及風期ニ就テノ批評	農學士	入田三郎
同　第二號　附圖十版		
北海道產小蠹蟲及其ノ森林被害關係	林學士	新島善直
日本產禾本科植物ニ寄生スル銹菌ニ就テ	農學士	伊藤誠哉
同　第四卷　第一號　附圖二版		
樺太產昆蟲研究（第一）	理學博士	松村松年
同　第二號　附圖七版		
絹絲蟲ノ解剖及生理ニ關スル研究	農學士	田中義麿
一、家蠶ニ於ケル絹絲ノ生成及絹絲腺ノ構造		
同　第三號　附圖四版		
麥類及其ノ雜種ニ於ケル花粉母細胞ノ核分裂ニ關スル細胞學上ノ研究	農學士	仲尾政太郎
同　第四號　附圖五版		
日本ニ於ケル牛族ノ頭骨ニ關スル研究	農學士	井口賢三
同　第五號　附圖五版		
鰥節ノ黴ニ關スル研究	農學士	半澤洵

同　第六號

薯蕷ノ「ムチン」ニ關スル研究　農學博士　大島金太郎
　　農學士　田所哲太郎

れまがりたけ筍ノ炭水化物ニ關スル研究　農學士　三宅康次
　　農學士　田所哲太郎

れまがりたけ筍ノ非蛋白質窒素化合物ニ關スル研究　農學士　三宅康次

鱈卵膜ノ化學的性質ニ就テ　農學士　三宅康次
　　農學士　田所哲太郎

同　第七號

日本產「ピストスピテン」及「アコセフアリンネン」ノ研究（浮塵子ノ種類）　理學博士　松村松年

同　第八號

大豆及菜豆ノ發芽期ニ於ケル「ベントーザン」及「メチールベントーザン」ノ消長ニ就テ　農學士　三宅康次

「ガラクタン」定量法ノ改良ニ就テ　農學士　三宅康次

同　第五卷　第一號　附圖五版

朝鮮、對馬及鳥取產牛ノ骨頭ニ關スル研究　農學士　井口賢三

同　第二號

亞麻莖浸水ニ關スル研究　農學士　田所哲太郎

生食品ノ酵素的作用ニ就テ　農學士　田所哲太郎

同　第三號　附圖二版

臺灣ニ於ケル貝殼蟲寄生菌ニ就テ　理學博士　宮部金吾
　　澤田兼吉

同　第四號　附圖一版

家蠶ニ於ケル遺傳質ノ考究　農學士　田中義麿

同　第五號　附圖一版

家蠶ニ於ケル遺傳質ノ「カツプリング」及「レバルシヨン」ニ就テ　農學士　田中義麿

同　第六號　附圖一版

日本產「カハトンボ」科ノ蜻蛉ニ就テ　農學士　小熊捍

同　第七號

日本產浮塵子亞科及或さじよこばい亞科ノ新種　理學博士　松村松年

同　第八號

アルカリー土壤中ニ普通ナル鹽類カ水稻ノ生育ニ及ボス影響　農學士　三宅康次

同　第九號　附圖八版

加殼乳ノ結晶ニ關スル研究　農學士　里正義

同　第六卷　第一號

更ニ蠶ニ於ケル「レヂユープリケーシヨン」ニ就テ　農學士　田中義麿

同　第二號

豆類種實中「クレアチニン」ノ存在ニ就テ　（農學博士）大島金太郎
本邦ニ於ケル酸性土壤ノ膠質性ニ就テ　（農學士）有泉方松
同　（農學士）田所哲太郎
第三號
日本產草蟐蛉科ニ就テ　農學士　岡本半次郎
同
第四號　附圖三版
蠶鳥脚ノ研究　理學士　佐々木望
同
第五號
「ヒバツノマタ」ノ成分ニ就テ　農學士　高橋榮治
本邦ニ於ケル酸性土壤ノ膠質性ニ就テ（其ノ二）　農學士　田所哲太郎
同
第六號　附圖一版
相模灣ヨリ獲タル開眼頭足類ニ關スル三新種　理學士　佐々木望
同
第七號　附圖三版
馴鹿ノ喉嚢ニ關スル知見　（獸醫學博士）小倉卯太郎
所謂內寄生性苔蘚ニ就テ　（農學士）山根甚信
「エイアシヤイア」牛種ニ於ケル耳ノ畸形ノ遺傳ニ就テ　（獸醫學博士）小倉卯太郎
同　（農學士）市川厚一
第八號　附圖五版　農學士　山根甚信

馬族ノ「エルゴット」ニ就テ　農學士　吉田新七郎
孵卵期ニ於ケル鳩ノ嗉嚢ニ就テ　農學士　吉田新七郎
鼠及兎ノ胃線ニ就テ　農學士　吉田新七郎
同
第九號　附圖五版
豌豆及稻ニ於ケル開花時ノ遺傳ニ就テ　農學士　星野勇三
同
第十號
たらばがに及たこノ窒素化合物ニ就テ　農學士　高橋榮治
二三ノ海產動物中ベたいん存在ニ就テ　農學士　高橋榮治
同　第七卷　第一號
我國私有林業ノ改良ニ就テ　林學士　宍戸乙熊
同
第二號
穀實ノ物理學的性質問ニ於ケル相關現象及其ノ實用的意義　農學士　明峰正夫
同
第三號　附圖六版
蠶ニ於ケル遺傳的研究　農學士　田中義麿
同
第四號　附圖四版
「ばるさ、ちあぼにか」ノ寄生ニ因ル染井吉野櫻、梅竝其ノ他ノ櫻屬樹ノ一新病害ニ就テ　農學士　逸見武雄
同
第五號　附圖五版
岡山、山形及硫球產牛ノ頭骨ニ關スル研究　農學士　井口賢三

同　第六號　附圖二版
日本蚜蟲科ノ研究　理學博士　松村松年
同　第七號
北海道國有林ノ管理ニ就テ　林學博士　宍戸乙熊

○北海道帝國大學農科大學紀要　第八卷　第一號　附圖一版
日本有用食用蚜蠅科ノ新類ニ就テ　理學博士　松村松年
同　第二號
日本產食用薯塊類ノ炭水化物ニ關スル研究　農學士　逸見文雄
同　第三號　附圖三版
赤楊ニ寄生スル一新介殼蟲ニ就テ特ニ其ノ變態ト解剖ヲ論ス　農學士　小熊捍

○北海道帝國大學農學部紀要　第八卷　第四號　附圖三版
爪哇鼩鼱（ジヤバヒミズ）其ノ他ノ哺乳類ノ姙娠子宮並成齡哺乳類ノ骨髓ニ於ケル血液生成ニ就テノ研究　エ・ヘ・デフロート
同　第五號
植物細胞ニ關スル膠質化學的研究　農學士　田所哲太郎
同　第六號
紅藻類ノ粘質物ニ關スル研究　農學博士　高橋榮治
同　第九卷　第一號　附圖三版

本邦產植物炭疽病菌ニ關スル知見　農學博士　逸見武雄
同　第二號　附圖二版
馬ノ精液ノ理化學的性狀特ニ精蟲ノ生理ニ就テノ研究　農學博士　山根甚信
同　第三號　附圖一版
馬ノ大腸ノ一畸形ニ就テ　農學博士　山根甚信
同　第四號
蓮種中「ラフイノース」ノ存在ニ就テ　農學博士　逸見文雄
同　第五號　附圖六版
日本ニ於ケル牛族ノ研究　農學博士　井口賢三
同　第六號　附圖一版
植物炭疽病菌ニ關スル知見補充　農學博士　逸見武雄
同　第十卷　第一號
蟷螂ノ特殊染色體　農學博士　小熊捍
同　第二號
北海產材料ノ「タンニン」含有量　ドクトル・オヴ・フイロソフイー（ベンシルヴアニヤ大學）　ロイド・ボールダーストン
同　第三號　附圖九版
紫外分光機ニヨル「有機膠質ニ對スル鹽類頡頏現象」ノ研究
「メチールフルフロール」及「オキシメチール・フルフロールフロロクルシツド」ノ「スペクトル」反應ニ就テ　農學博士　田所哲太郎

同		第四號	附圖三版
家蠶ニ於ケル絹絲分泌ノ形態學的研究	山内源登	第五號	附圖二版
同			
發生中ノ卵ノ實驗的研究			
一、兩棲類ニ於ケル年齡ト外界			
同		第六號	附圖六版
生物化學上ニ於ケル呈色反應ノ「スペクトル」ニ就テ	農學博士　犬飼哲男		
同		第七號	附圖二版
日本粘液胞子蟲類ノ研究	農學博士　田所哲太郎		
同		第十一卷	第一號
苹果ノ若キ果實ノ早落現象ニ就テ	農學士　藤田經信		
同			
幌蓆島植物誌	農學士　並河功	第二號	
同			
「プラズモパラ・ヘルステデイ」ニ關スル研究	理學士　工藤祐舜	第三號	附圖六版
同			
本邦產單房銹菌屬	西村眞琴	第四號	附圖三版
同			
	農學博士　伊藤誠哉	第十二卷	第一號
北樺太植物研究（第一報）	附圖十二版		
	理學博士　工藤祐舜		

同		第二號	附圖十四版
氣象要素ノ樹木生長ニ及ボス影響ニ就テ	林學博士　中島廣吉		
同		第三號	附圖四版
本邦ニ於ケル芋樹腐爛病ト其ノ病原菌ナル「パルサ・マリ」ニ關スル研究	農學士　富樫浩吾		
同		第十三卷	第一號	附圖三版
糯米粳米澱粉ニ於ケル膠質性ノ差異ニ就テ	農學博士　田所哲太郎 農學士　佐藤正一		
同		第二號	
特ニ議會討議ノ上ヨリ觀タル米國土地問題ノ經過	農學博士　中島九郎		
同		第三號	附圖一版
天南星ニ於ケル性ノ轉移現象ニ就テ	農學博士　前川德次郎		
同		第十四卷	第一號
麥芽根ノ化學的組成特ニ「ホルデニン」ニ就テ	農學博士　橋谷義孝		
玉蜀ノ「ヘミセルロース」ニ就テ		第二號	
同			
特ニ榮養液ノ緩衝能ヲ考察シタルくろかびノ培養ニ就テ	理學博士　坂村徹		
同		第三號	
米蛋白質「オリセニン」ノ糯粳ニヨル理化學性ノ差異ニ就テ	農學博士　田所哲太郎 農學士　中村幸彦		

	同		第四號	渡邊修吉
亞麻ノ立枯病菌竝炭疽病菌ノ生理ニ關スル比較研究		農學博士		栃内吉彦
「アルホロートル」類似ノ「クツタラウシ」湖産山椒魚ニ就テ	同	理學博士	第十五卷　第一號　附圖三版	佐々木望
有尾兩棲類ノ泌尿生殖器系統	同	農學士	第二號　附圖四版	山極三郎
樺太産蝶蛾類ノ列擧ト其ノ新種及亞種ノ記載	同	理學博士 農學博士	第三號　附圖四版	松村松年
臺灣ノナガキクヒムシニ就テ	同	林學士	第四號　附圖四版	村山醸造
日本産カマキリモドキ科ニ就テ特ニ其ノ形態學的特質	同	農學得業士	補　遺 第五號　附圖四版	桑山覺
きむのすべらんぎうむやまでーノ寄生ニ起因スル桑樹赤星病ニ關スル研究		農學士	第十六卷　第一號	福士貞吉
「メチルペントーザン」ノ定性法ニ就テ	同	農學博士		大島金太郎
「ペントーザン」及「メチルペントーザン」ノ定量法ニ關スル研究		農學博士	第二號	近藤金助

米ノ品種ニヨル蛋白質「オリセニン」ノ理化學的特異性ニ就テ		農學博士	田所哲太郎
糯粳米間ニ於ケル澱粉理化學性ノ差異ニ就テ（二）		農學士	中村幸彦
	同		渡邊修吉
爬蟲類發生ノ研究		農學博士	田所哲太郎
一、トカゲノ最初期發生情狀ニ就テ		第三號　附圖十四版	
	同	農學博士	犬飼哲男
爬蟲型類ノ染色體ノ研究		第四號　附圖二版	
一、鳩ノ染色體ノ性的相異		農學博士	小熊捍
	同	第五號　附圖一版	
日本産粘液胞子蟲ノ研究		理學博士	藤田經信
	同	第十七卷　第一號　附圖五版	
「プラズモパラ・ハルステデイ」ノ研究（二）			西村眞琴
	同	第二號	
花器ノ脫離及剝落ニ關スル知見		農學士	並河功
	同	第三號	
小麥ペンタプロイドパスタードニ於ケル形態的性質及染色體數ト		農學博士	栃内吉彦
小麥赤銹病ニ對スル抵抗性トノ關係ニ關スル研究		理學博士	木原均

蒟蒻マンナンノ化學的竝物理化學的研究	同	第四號	農學博士　三宅捷
五種ノ松蛞蝓ト其ノ寄生蟲竝食肉性昆蟲ニ就テ	同	第十八卷　第一號	理學博士　松村松年 農學博士
日本產姬蜂科ノ研究（第一報）	同	第二號　附圖五版	農學士　内田登一
植物種子ノ各種蛋白質間ニ於ケル理化學性ノ差異ニ就テ（第一報）等電點ヲ異ニスル米ノ各種蛋白質間ニ於ケル理化學性差異	同	第三號	農學博士　田所哲太郎 農學士　伊藤半右衞門 渡邊修吉
北海道ノ牛馬ニ寄生スル蠅蛹	同	第四號　附圖五版	獸醫學得業士　小倉喜佐次郎 水產學得業士　高田幸二
「ダフリカカラマツ」ノ天然更新ニ關スル研究	同	第五號	農學士　後藤收藏
日本領土產新種及新亞種ノ蛾ノ記載	同	第十九卷　第一號　附圖五版	理學博士　松村松年 農學博士

植物種子ノ各種蛋白質間ニ於ケル理化學性ノ差異ニ就テ（第二報）	同	第二十卷　第一號　附圖四版	農學博士　田所哲太郎 農學士　辻　太郎
動物種族ニアル血精及筋肉ノ化學的特異性ニ就テ（第一報）	同		農學博士　渡邊修吉 農學博士　田所哲太郎 農學士　安倍慎 渡邊修吉
動植物性別ノ蛋白質化學的研究（第一報）	同		農學博士　田所哲太郎 農學士　安倍慎 渡邊修吉
麴菌ノ蛋白質分解酵素及澱粉質分解酵素ニ就テ	同	第三號	農學博士　大島幸吉
稻ノ發生學的研究	同	第四號	農學士　寺田慎一
大豆莢蟲蟲ニ關スル研究	同	第五號	農學得業士　桑山覺 林學士　村山釀造
臺灣ノナガキクヒムシニ就テ　補遺其二	同	第二十卷　第一號　附圖四版	農學博士　倉重四郎
家兎ニ於ケル黃體ノ由來ニ就テ	同	第二號	

沈澱數ニ及ボス還元劑ノ影響ニ就テ	同	ドクトル・フイロソフイー	ゲオルグ・グラッセル
稻ニ於ケル不稔性ノ遺傳研究	同	農學士	澤山智
タンニンクロム複合鞣製ニ於ケル化學作用ニ就キテ	第三號	農學博士	石川潤一
米ノ成熟及早熟種ニ關スル化學的研究	第四號	ドクトル・フイロソフイー	ゲオルグ・グラッセル
植物種子ノ各種蛋白質ニ於ケル理化學性ノ差異ニ就テ（第三報）	第五號	農學士	廣瀨國康
日本及近海ニ於ケル二鰓頭足類圖譜	同	農學博士	田所哲太郎
本邦産メランプソラ科ノ研究	特別號	農學博士	田所哲太郎
稃大麥ノアルコール溶解性蛋白質ニ就テ	同	農學士	吉村克二
	第二十一卷 第一號	理學博士	佐々木望
	同	農學士	平塚直秀
	第二號	農學博士	高橋榮治
	同	農學士	白濱潔
	第三號		

バクシニアストラム屬分類誌資料	第四號 附圖二版	農學士	平塚直秀
日本産苞蛾亞科ニ就テ	同		
日本産縞螟蛾亞科ノ分類學的研究	第五號	農學士	澁谷甚七
日本産姬蜂科ノ研究（第二報）	同	農學士	内田登一
臺灣産螟蛾科及分類學的研究	第二十二卷 第一號 附圖九版		澁谷甚七
氣象要素ノ樹木生長ニ及ボス影響ニ就テ	第二號 附圖六版	林學博士	中島廣吉
動植物性別ノ蛋白質化學的研究（第二報）	第二十三卷 第一號	農學博士	田所哲太郎
同　（第三報）		理學博士	安倍愼
釀造用大麥ニ關スル化學的研究	第二號	農學士	渡邊修吉
同		農學士	中村幸彥
釋製化學教室（第四報）	第三號		

一、酒精ヲ溶媒トスル各種鞣製劑ノ鞣皮性　ドクトル・フイロソフイー　ゲオルグ・グラッセル
二、「クロム」鹽ノ化學的研究　農學士　中四洋

第四號

同　ドクトル・フイロソフイー　ゲオルグ・グラッセル
鞣製化學教室（第五報）　宋濤

第五號

同　ドクトル・フイロソフイー　ゲオルグ・グラッセル
「スルフイトセルローゼ」ノ化學的成分ニ關スル新研究　農學士　市瀨正毅
複鹽ノ成生、鹽基度ノ上昇、逆鞣製並ニ再鞣製等ノ耐熱性ニ及ボス影響　ドクトル・フイロソフイー　ゲオルグ・グラッセル
「セラチン」及ビ生皮ノ各種鹽類ニヨリ受クル影響ト同時ニ鞣製劑ノ作用　農學士　大木洋
各種鞣製劑トソノ鞣製的效果ニ就キテ（第一報、第二報）　農學士　平川好文

第六號

同　ドクトル・フイロソフイー　ゲオルグ・グラッセル
鞣製化學教室（第六報）　農學士　廣瀨國康
人工鞣製劑ノ合成（第二報）　ドクトル・フイロソフイー　ゲオルグ・グラッセル
同　農學士　大木洋

皮ニ關スル化學的研究
一、酸及ビ「アルカリ」ニ依ル加水分解　ドクトル・フイロソフイー　ゲオルグ・グラッセル
皮ニ關スル化學的研究　農學士　田口鎭雄
二、石灰漬及ビ脫灰漬ノ皮ノ化學的組成ニ及ボス影響　宋濤
「メチレン・アナフトール」ノ鞣皮性　ドクトル・フイロソフイー　ゲオルグ・グラッセル
鹽基性「クロム」鹽調製ニ際シテ重「クロム」酸鹽ノ還元作用　農學士　中四洋

第二號

同　ドクトル・フイロソフイー　ゲオルグ・グラッセル
乳牛ニ及ボス紫外光線ノ影響ニ就テ　農學士　廣瀨國康

第三號

鞣製化學教室（第三報）　農學博士　井口賢三
南日本産「タンニン」ニ就テ　農學士　三田村健太郎
鞣成劑ノ合成（第一報）　ドクトル・フイロソフイー　ゲオルグ・グラッセル
「オキシベンゾール」族「クロム」革ニ生ズル白斑ノ定性ニ關スル研究　ドクトル・フイロソフイー　ゲオルグ・グラッセル
原料皮ノ研究

同　　第四號
「パパイン」ニ依ル「カゼイン」分解作用ニ關スル理化學的研究補遺特ニ該酵素作用ノ基礎的性質　農學士　佐藤正一
並ニ該酵素作用ニ及ボスシアン化水素ノ促進作用ノ機構ニ就テ　第五號　附圖三版
日本產短吻象鼻虫類　同　農學士　河野廣道
日本產姬蜂科ノ研究（第三報）　第二十五卷　第一號　附圖三版
同　農學士　内田登一
變性蛋白質ノ化學的研究（第一報）　第二號
同　（第二報）　（農學博士　田所哲太郎　理學博士）　農學士　吉村克己　（農學博士　理學博士）　田所哲太郎
同　渡邊修吉　第三號
日本產野蠶蛾亞科（鱗翅目）ノ既知並ニ未記錄種ニ就テ　遠谷甚七　第四號　附圖三版
同　農學士　内田登一
日本產姬蜂科ノ研究（第四報）　第二十六卷　第一號　附圖三版
同　（第五報）
同　（總論）

北海道樺太植物誌Ⅰ羊齒類植物及裸子植物　理學博士　宮部金吾
同　第二十七卷　第一號　理學博士　工藤祐舜
椴松竝蝦夷松材ノ品質殊ニ彈性及强度ニ關スル比較研究　林學博士　大澤正之
同　第二號
動物性蛋白質ノ析出　ドクトル・フイロソフイー　ゲオルグ・グラッセル
各種鞣製劑トソノ評價
動物皮ニ關スル研究
動物皮ト「セラチン」ニ關スル研究　ドクトル・フイロソフイー　ゲオルグ・グラッセル
金屬鹽類ノ「セラチン」沈澱作用ニ及ボス中性鹽ノ影響　農學士　大木洋
クロム酸還元ニ關スル屈折率（光線）ノ研究　ドクトル・フイロソフイー　ゲオルグ・グラッセル
クロム鹽類ノ鞣製化學的研究　農學士　市瀨正毅
「セラチン」並ニ動物皮ニ對スル複合鞣製劑ノ作用ニ就キテ　第三號
複合鞣製ニ關スル化學的試驗報告　（農學博士　理學博士）　田所哲太郎
同　（農學博士　理學博士）　農學士　安倍愼
米ノ成熟ニ關スル化學的研究　同　第二十八卷　第一號　附圖四版
くものすかび屬智識ニ對スル一貢獻（第一報）　農學士　山本義彦

同　第二號　農學士　山本義彦
くものすかび屬ノ智識ニ關スル一考察（第二報）
同　第三號　農學士　中島顯三
酵素ノ化學力學ニ於ケルシユツツ氏法則及類似反應式ヲ否定ス
同　第二十九卷　第一號　附圖四版・
「チヨツキリ」亞科「アシナガオトシブミ」及ビ「オトシブミ」亞科ノ生活史ノ研究
農學士　河野廣道
同　第二號　附圖二版
日本產「オトシブミ」亞科ノ研究
農學士　河野廣道
同　第三號　附圖三版
本邦產禾本科植物寄生葉枯病菌子嚢時代
農學博士　伊藤誠哉
農學士　栗林數衛
同　第四號　附圖十版
中部千島植物群落概說
農學士　館脇操
同　第五號　附圖七版
中部千島ノ植物地理學的研究
農學士　館脇操
同　第三十卷　第一號　附圖一版
培養液ノ濃度及ビ實在酸性度ニ關シ玉蜀黍幼植物ノ根ニヨル「アムモニア」及ビ硝酸鹽ノ吸收ニ就テノ研究
農學博士　羅宗洛

同　第二號
貯藏及發芽ニ於ケル大麥蛋白質ノ移動ニ就テ
農學博士　高橋榮治
農學士　白濱潔
同　第三號
臺灣產尖姬蜂亞科ニ關スル知見
農學博士　內田登一
同　第四號
臺灣產長小蠹蟲科ノ研究（追補其ノ三）
林學博士　村山釀造
同　第五號
麴ヂアスターゼノ本質ニ關スル研究
農學博士　伊藤光治
日本產鬚瓢蟲科ノ研究
農學士　太田勇愛
同　第三十一卷　第一號
「ヒツケル」ノ作用ニ關スル研究
農學博士　澤山智
同　第二號
クロム鞣製ニ關スル物理化學的研究
農學博士　澤山智
同　第三號
大豆ノ蛋白質及脂肪ニ就テ
農學士　中島顯三
同　第三十二卷　第一號
本邦產水生菌科ノ研究
農學士　永井政次
同　第二號

水生菌ニヨル稻苗腐敗病ニ就テ　（農學博士　伊藤誠哉／農學士　永井政次）
同
二三寄生菌ノ發育ニ及ボス脂肪溶性「ビタミン」ノ影響ニ關スル研究　（農學博士　栃内吉彦／農學士　照井陸奥生）
同　第三十三卷　第一號
稻泥貧蟲ノ形態並ニ生態ニ關スル研究併テ分類學上ノ見解ヲ論ズ　（農學博士　桑山覺）
同　第二號
ヴウテル氏ノ臺灣昆蟲採集品（姬蜂科）ニ就テ　（農學博士　内田登一）
同　第三十四卷　第一號　附圖八版
オクラ、黃蜀葵ノ種間雜種ニ就テ實驗遺傳學的並ニ細胞學的研究　（農學博士　手島寅雄）

○北海道帝國大學工學部紀要　第一冊　第一號

完全拘束桁ノ兩端ニ於ケル「モーメント」竝軸張力ノ研究　（工學博士　鷹部屋福平）
彎曲桁ノ振動　（工學博士　山田陽清）
同　第二號
建築架構ノ靜力學的研究　（工學博士　鷹部屋福平）
兩端ニ於テ廻轉變位完全ニ可能ナル場合ノ拘束桁ノ軸張力ニ就テ　（工學博士　鷹部屋福平）
熱源ガ一樣ニ分布セル媒質中ニ於ケル熱ノ傳導ニ就テ　（理學士　池田芳郎）

同
媒電板上ノ圓形火花放電　（理學博士　池田芳郎／理學士　伊藤直）
同
更ニ圓形火花放電ニ就テ　（工學士　兒島茂／理學士　伊藤直）
同
中空圓柱ノ熱ニ依ル歪力ニ就テ　（理學博士　池田芳郎／工學博士　加藤鉞郎）
同
機械的作表法ニ依ル建築矩形架構ノ解法　（工學博士　鷹部屋福平）

第三號

第四號

「ボルテラー」ノ積分方程式ノ解ニ就テ　（理學博士　池田芳郎）
同
完全拘束ノ「ガラス」薄板ノ一樣ナル壓力ニ依ル破壞裂目ニ就テ　（理學博士　池田芳郎／加藤鉞郎）

第五號

同
再ビ機械的作表法ニ依ル建築矩形架構ノ解法ニ就テ　（工學博士　鷹部屋福平／理學士　伊藤直）
低壓瓦斯中媒電板上ノ放射形放電　（工學士　淺見義弘）
同
高周波電源ニ對スル低壓瓦斯放電　（工學士　鳥山四男）
同
放電ノ研究

第二冊　第一號

第二號

表面電荷圖ノ應用　工學士　鳥山四男
同　工學士　篠原卯吉

第三號

高電壓ニ於ケル電壓電流ノ瞬間値ノキネマトグラフ　理學博士　池田芳郎
高壓用變壓器內ノ電氣振動　工學士　加藤鉞郎
變壓器內ノ電氣衝撃ノ傳播ニツイテノ實驗的研究　工學博士　森元吉

同　理學博士　池田芳郎
高層建築矩形架構ノ解法ト荷重影響ノコンターライン表示法ニ就テ　工學博士　工學士　森元吉
等剛比ヲ有スル高層架構ノ垂直竝ニ水平荷重ニ因ル應力ノ研究　工學博士　理學博士　池田芳郎
同　工學士　森元吉

第四號

電流ニ依ル導體ノ溫度上昇　工學博士　鷹部屋福平
「フユーズ」ノ熔解ニ關スル實驗式ノ數學的考察　工學博士　鷹部屋福平
液體絕緣物中ニ於ケル電荷圖　理學博士　池田芳郎
同　工學士　米田勝彥

第五號

砂ノ內的崩壞運動ニ關スル實驗的研究　理學博士　池田芳郎
不齊一ナル電場內ノ放電　工學士　米田勝彥
同　理學博士　池田芳郎

第六號

壓力測定ニ應用シタル光彈性效果ニ就テ　工學博士　鷹部屋福平
一般轉鏡儀ノ橫叉線ノ「トレーシー」整正法ニ於テ從來誤解セラレタル整正値ノ正解並ニ新整正法　工學博士　鷹部屋福平
同　工學士　新鄕高一

第二號

高層摩天閣架構ニ於ケル風壓計算ノ新解法ニ就テ　工學博士　鷹部屋福平
乾燥砂ノ崩壞面ニ關スル實驗的研究　工學博士　鷹部屋福平
三次元ノ問題トシテ取扱ヘル砂ノ內的崩壞運動ニ就テ　工學博士　鷹部屋福平

○北海道帝國大學理學部紀要

數學

第一卷　第一號

三次空間ニ於ケル二次曲線ノ射影微分幾何學ニ就テ　理學士　河口商次

第二號

二ノ線型微分方程式ニヨリ構成サレル線型積分方程式ニ就テ　理學博士　池田芳郎
射影微分幾何學ニ就テ其六、三次元空間ニ於ケル曲面論及ピソレトフヒニノ理論トノ關係

同			理學士　河口商次
或ル羃級數ノ單葉性ニ就テ		第三號	
一實變數ノ函數族ニ就テ			理學士　能代清
	物理學		理學士　福原滿洲雄
同期電機ノ單相知絡		第一卷　第一號	理學博士　池田芳郎
「週期的函數ヲ係數トシ且小ナルパラメーター有スル微分方程式ノ積分ニ關スル問題トシテノ同期電機ノ單相短絡現象」			工學士　森元吉
オツシログラフニヨル線條放電ノ研究			理學士　伊藤直
リヒテンベルクノ模樣ト之ヲ生ゼシメタル火花ト二三ノ相關ニ就テ		第二號	理學士　中谷宇吉郎
同			理學博士　伊藤直
線條放電圖ノ研究續報		第三號	
同			工學士　米田勝彥
伊藤氏線條放電ニツイテノ實驗的研究（第一報、第二報）			工學士　米田勝彥
平面網ニヨル液滴ノ廻折		第一卷　第一報	
	化學	第一卷　第一輯）	農學博士　田所哲太郎
生物化學上ニ於ケル雌雄兩性間ノ差異ニ就テ（第一輯）			理學博士　田所哲太郎
硫黃ノ折出狀態ニ對テ		第二號	理學博士　富永齊
同			

生物化學的見地ヨリ觀タル性的差異			農學博士　田所哲太郎
數種ノ稀土類鹽ノ吸收帶ノヅレ		第一卷　第一號	理學博士　男爵　太秦康光
	地質學鑛物學		
九州天草島ノ白堊紀層化石ニ就テ			理學博士　長尾巧
四國ニ於ケル結晶片岩系ノ岩石學的研究		第二號	理學博士　鈴木醇
同			
撫順石油頁岩鑛床ノ研究			理學士　上床國夫
北海道上部白堊紀甲殼類二種			理學博士　長尾巧
北海道上部白堊紀層ヨリ發見セルアナプチクス及アプチクスニ就テ		第三、四號	理學士　大石三郎
信濃國北小谷產中生代植物化石			理學士　大石三郎
同			
岡山縣成羽地方レーチック植物化學石油頁岩ノ高壓力ニ因ル石油ノ生成			理學士　大石三郎
			理學博士　上床國夫
同		第二卷　第一號	
京都府舞鶴炭坑ジュラ紀植物化學			理學士　大石三郎
北海道產第三紀及白堊紀甲殼類化石			理學博士　長尾巧
南樺太及北海道產白堊紀軟體動物化石			理學博士　長尾巧
山口縣產レーチック植物化石			理學士　大石三郎
	植物學	第一卷　第一號	

麹菌ニ於ケル泡狀細胞ノ實驗的研究　理學博士　坂村　徹
邦産藻類考察（第一報）　理學士　山田幸男
無菌培養ニ於ケル玉蜀黍幼植物ニヨル尿素ノ吸收　林學得業士　山口千之助
同　第二號
邦産スゲ屬新種　理學士　秋山茂雄
邦産藻類考察（第二報）　理學士　山田幸男
からすむぎ屬ノ遺傳分析ニ關スルモノグラフ　理學士　松浦一
同　第三號
ほんだわら屬及じようもく屬植物ノ胚發生學的研究　理學士　猪野俊平
同　第四號
邦産藻類考察（第三報）　理學博士　山田幸男
同　第二卷　第一號
邦産すげ屬植物要說　理學士　秋山茂雄
同　第二號
邦産藻類考察（第四、五報）　理學博士　山田幸男
動物學　第一卷　第一號
蜻蛉ノ近似種間ニ於ケル精母細胞染色體ノ比較研究　農學博士　小熊捍
カナヘビノ繁殖習性ニ就テ　農學博士　犬飼哲男
同　第二號

エゾサンセウウヲ成體ニ於ケル精原細胞ノ起原及其ノ行動ニツイテ　理學士　牧野佐二郎
ラナ・スフエノセフアラ、ラナ・ブラウストリス、ラナ・ヒヒエンス、ラナ・クラミタンス及ラナ・カテスベイアナノ動脈幹ニ就テ尙歐洲産ラナ屬トノ比較ニ及ブ　マスター・オヴ・アーツ　メチラー・オヴ・アーツ　マイルス・エル・ピール
ラナ屬ノ動脈幹研究補遺　同　第三號
第四大動脈（肺動脈弧）及其ノ腑弓ヲ除去セル Hynobius 幼生ノ變態ニ就テ　理學士　市川純彥
日本あまがへるノ産卵性ノ研究　農學博士　犬飼哲男
若鳩ニ寄生スル「トリコモーナス」ノ一種ニ就テ　農學博士　落合盛吉
同　第四號
蜻蛉染色體ニ關スル知見追補竝ニ脉翅類ニ於ケル x·y 染色ノ存在ニ就テ　理學博士　內田亨
Hynobius　幼生ノ第二動脈弧（即チ永留大動脈弧）ノ除去ニヨル第三動脈弧ノ永存ニ就テ　農學博士　小熊捍
日本産無尾類四種ノ動脈幹ノ構造ニ就テ　理學士　市川純彥　マスター・オヴ・アーツ　メチラー・オヴ・アーツ　マイルス・エル・ピール
頭骨ノ構造ヲ基礎トセル日本北部産山椒魚ノ種類ニ就テ　農學博士　犬飼哲男
同　第二卷　第一號
カンタンノ特殊染色體　農學士　牧野佐二郎

オホツク海及其附近ノテインテイノイネア「ヒルミンズ」類ノ一新屬新種ノ記載　農學士　羽田眞禾

分布上著名ナルイソギンチヤクノ一種デイアドウメネ、ルキエノ日本ニ產スルコト　農學士　山口英二

南千島產蜘蛛類一報　エトロフ產蜘蛛類　理學博士　內田亨

北日本產山椒魚數種ノ染色體　農學士　齋藤三郎（マスター・オヴ・アーツ　メヂラー・オヴ・アーツ）

○學位授與

學位令第二條ニ依リ本學ニ於テ學位ヲ授與セシ者左ノ如シ

農學博士　マイルス・エル・ピール　農學士　牧野佐二郎

學位授與年月日	論文題目	族籍氏名
大正十一年九月二十一日	特ニ議會討議ノ上ヨリ見タル米國土地問題ノ經過	北海道　申島九郎
大正十一年九月二十日	養蠶勞働問題	群馬縣　早川直瀨
大正十二年五月三十一日	家蠶ニ於ケル絹絲分泌ノ形態學的研究	長野縣　山內源登

大正十二年五月三十一日	蜜蜂殊ニ日本ノ蜜蜂殊ニ關スル研究	鳥取縣　德田義信
大正十三年二月十二日	「リソクトニアソラニー」ノ生理學的研究	東京府　松本巍
大正十三年三月十三日	「テンナンセウ」ニ於ケル性ノ轉移現象ニ就テ	香川縣　前川德次郎
大正十三年三月十七日	一、鼠「スピロヘーテ」ノ研究 二、鼠咬症「スピロヘーテ」ト鼠「スピロヘーテ」トノ異同	岩手縣　葛西勝彌
大正十三年五月十九日	麥芽根ノ化學的成分殊ニ「ホルデニン」誘導體ニ就テ	鳥取縣　橋谷義孝
大正十四年七月二十五日	亞麻ノ立枯病菌及炭疽病菌ノ生理ニ關スル比較研究	岩手縣　栃內吉彥
大正十四年十二月四日	「カゼイン」ニ關スル研究	福井縣　近藤金助
大正十五年十二月四日	花器脫離及剝落ニ關スル知見	北海道　並河功
大正十五年一月六日	蒟蒻ノ「マンナン」ノ物理化學的研究	北海道　三宅捷
大正十五年十二月二十五日	爬蟲類發生學ヘノ貢獻第一「もりかなへび」ノ夙期發生現象	長野縣　犬飼哲男
昭和二年一月一日	東亞細亞大陸ニ於ケル家畜牛ノ系統的研究	廣島縣　望月瀧三

昭和二年二月二十二日	細菌ニ依ル蠶ノ敗血症ニ就テ	福島縣	佐藤利一	
昭和二年四月十二日	有尾類ノ尿生殖器系統	東京府	山極三郎	
昭和二年四月十二日	麹菌ノ蛋白質分解酵素竝澱粉分解酵素ニ就テ	北海道	大島幸吉	
昭和二年七月五日	稻ノ不稔性ノ遺傳ニ關スル研究	山形縣	石川潤一	
昭和二年七月二十五日	家兎ニ於ケル黃體生成ニ就テ	福岡縣	倉重四郎	
昭和三年八月二十五日	臺灣稻ノ育種學的研究	廣島縣	磯永吉	
昭和三年十月三十一日	臺灣ニ於ケル赤色土ノ化學研究	北海道	澁谷紀三郎	
昭和四年五月三日	「リゾープス」屬菌類ノ智識ニ對スル一貢獻	京都府	山本義彥	
昭和五年三月十一日	蟲癭生成蚜蟲類及其等ノ蟲癭ノ研究	岩手縣	門前弘多	
昭和五年五月二十五日	日本產漆ノ酸化酵素「ラクカーゼ」ニ就テ	東京府	角倉邦彥	
昭和五年八月二十一日	特ニ禾本科植物花粉ノ人工發芽ニ關スル花粉ノ生理學的研究	岐阜縣	後藤一郎	

昭和五年四月四日	クロム鋼製ニ關スル物理學的研究	廣島縣	澤山智	
昭和五年九月四日	高等植物根系ニヨル「アムモニヤ」及硝酸ノ吸收ニ就テ	中華民國	羅宗洛	
昭和五年九月四日	臺灣產蜈蚣科ノ分類學的研究	青森縣	澁谷甚七	
昭和五年九月四日	日本產姬蜂ノ研究報告	埼玉縣	內田登一	
昭和五年十二月九日	オランダイチゴ屬ノ遺傳ニ關スル研究	山形縣	市島吉太郎	
昭和六年四月十日	桃樹癌腫病一名枝枯病	山形縣	富樫浩吾	
昭和七年一月二十八日	薯蕷ノ根塊ノ粘質物ニ就テ	北海道	高橋悌藏	
昭和七年一月二十八日	麹ヂヤスターゼノ本質ニ關スル研究	北海道	伊藤光治	
昭和七年二月十五日	日本產象鼻蟲科ノ研究	長野縣	河野廣道	
昭和七年二月十五日	泥貧蟲ノ形態並ニ生態ニ關スル研究　併セテ分類學上ノ研究ヲ論ズ	北海道	桑山覺	
昭和七年三月三十一日	蒙古脂肪尾羊ト「ラムブイエー・メリノー」種トノ交配試驗特ニ毛質及ビ毛量ノ遺傳ニ就テ	兵庫縣	香村傚二	

昭和七年三月三十一日	印度カンクレージ肩峰牛ニ關スル研究	香川縣	柳川秀興
昭和七年三月三十一日	合成鞣劑ニ關スル研究	東京府	大木洋
昭和七年四月十八日	酵母カタラーゼニ關スル研究	長野縣	松山茂勳
昭和七年四月十八日	大豆蛋白質及大豆油ニ關スル研究	香川縣	中島顯三
昭和七年九月十六日	オクラ、黄蜀葵ノ種間雜種ニ就テ實驗遺傳學的並ニ細胞學的研究	北海道	手島寅雄
昭和八年二月十七日	煙草生體ヨリ揮發スル鹽基物ノ化學的研究並ニ其物質ガ蠶兒ニ及ボス中毒現象	靜岡縣	長谷川浩
昭和八年三月三日	鮭卵ノ生化學的及膠質化學的研究	三重縣	高田幸二
昭和八年四月十三日	高等植物ニ於ケル再生現象知見寄與	和歌山縣	掛下謹次郎
昭和八年四月二十一日	本邦在來麥ニ關スル研究	鹿兒島縣	森周六
昭和八年八月八日	中部千島植物	神奈川縣	氣賀脇操
昭和八年八月八日	採鐵用亞麻ニ對スル施肥問題ノ解決ト其理論的考察	秋田縣	大貫吉之助

林學博士

大正十二年七月十三日	氣象要素ノ樹木生長ニ及ボス影響ニ就テ	北海道	中島廣吉
大正十四年三月十九日	林木ノ生長ト陽光ノ强度トニ關スル數理的研究	山口縣	影山純介
大正十五年七月一日	修羅運材ニ於ケル合理的制動法ノ研究	石川縣	三浦第二郎
昭和二年八月三日	だふりかからまつノ天然更新ニ關スル研究	大阪府	後藤收藏
昭和三年十月三十一日	えぞまつ天然更新上ノ基礎要件ト其適用	北海道	佐藤義夫
昭和五年三月十一日	とどまつ及えぞまつ材ノ品質殊ニ彈性及强度ニ關スル比較研究	岐阜縣	大澤正之
昭和五年三月十一日	朝鮮半島ノ苗圃ニ發生スル或種「コガネムシ」幼蟲ノ形態學及分類學的研究ヘノ貢獻	新潟縣	村山釀造
昭和五年九月十一日	溢流堰ノ提冠及表法面ニ於テ流下スル水ノタメニ生ズル靜水壓ノ大サ竝ニ分布ニ關スル研究	東京府	蓮見道太郎
昭和六年十二月二十八日	堰堤ニ於ケル水及流送物ノ落下ニ就テ	島根縣	西力造
昭和七年二月十五日	砂丘造林ニ關スル研究	岐阜縣	原勝

昭和八年八月二十八日	日本産天牛科ノ知見	北海道	松下眞幸
	獸醫學博士		
大正十一年九月二十日	炭疽菌ノ「カプセル」竝各種動物ノ炭疽菌ニ對スル感受性ニ就テノ研究附生理的食鹽水中ニ於ケル炭疽菌ノ運命	福岡縣	右田百太郎
大正十三年三月四日	酸菌ノ凝集反應ニ於テノ研究	東京府	田川鎌吉
昭和十三年七月十三日	健康家畜ニ於ケル血液ノ外貌學的比較研究	北海道	小華和忠士
昭和四年一月十一日	馬ノすくれろすとーむむ、ぶるがーれ蟲ニヨル病理學的知見	岩手縣	菊地賢次郎
昭和四年三月十九日	臺灣牛ノ出血性膀胱炎	山形縣	宮本曉誕
昭和四年六月二十四日	馬ノ早期妊娠鑑定ニ對スル膣檢査殊ニ膣粘液ノ顯微鏡的檢査價値ニ就テ	茨城縣	黒澤亮助
昭和六年四月六日	腺疫連鎖狀球菌竝ニ其ノ特異性ニ就テ	鳥取縣	小倉喜佐次郎
昭和七年八月十六日	天然痘ト及羊痘トノ原因學的關係並ニ羊痘豫防接種ニ關スル研究	東京府	笠井久雄
	醫學博士		

大正十二年四月二十七日	大腦皮質中有髓神經纖維出現ニ關スル研究	岐阜縣	平光吾一
大正十二年十二月二十四日	小腦發育障害ニ關スル研究	北海道	久保喜代二
大正十三年二月九日	黄疸出血性「スピロヘーター」病ニ於ケル急性循環機能不全ニ關スル實驗的研究	三重縣	小田俊郎
大正十三年七月二十九日	組織血液間ニ於ケル水分及食鹽代謝ニ關スル實驗的研究	長野縣	百瀨宗
大正十三年七月二十九日	表皮細胞毒「エピデルモトキシン」ノ病理學的研究	東京府	河合五郎
大正十四年二月二十三日	實驗的肝創ニ移植セル生活組織ノ運命竝宿地ノ蒙ル影響ヲ叙シテ生活「タムポン」止血機轉ノ解說ニ及ブ	青森縣	神竹之助
大正十四年二月二十七日	胃ニ到ル神經ト胃潰瘍治癒トノ關係	大分縣	熊埜御堂進
大正十四年六月三日	赤外線ノ前房水及血清透過ニ就テ	新潟縣	雜波剛平
大正十四年六月十九日	外科的領域ニ於ケル赤血球沈降速度竝其ノ本態的研究	東京府	清水亮
大正十四年十月七日	「レントゲン」線的分折法ニ依ル生物組織ノ原子的構造ニ關スル實驗的研究	千葉縣	廣瀨奥
大正十四年十月七日	眼諸組織ノ特異性ニ關スル病理學的研究	東京府	佐藤達彌

大正十五年一月二十八日	「グリコエル」溶液ノ水素電極ニ對スル電位ニ及ボス中性鹽ノ作用	東京府	川井左京
大正十五年一月二十八日	一、水「アルコール」混合溶液內ニ於ケル弱電解質ノ解離ニ就テ 二、酸及「アルカリ」ノ化學的構造ト敏度トノ關係 三、二個ノ酸ニ於ケル化學的構造ト「アルコール」敏度トノ關係 四、「メチルアルコール」內ニ於ケル弱電解質ノ解離	愛知縣	水谷通治
大正十五年三月十九日	蛋白質ノ物理化學的性狀ヲ決定スル「ファクター」ニ就テ	北海道	箱崎孝平
大正十五年四月二十日	下水ニ於ケル「バクテリオファーヂ」ノ出現竝之ノ下水ニ對スル態度ニ就テ	山口縣	中島高一
大正十五年七月一日	無齒縫蟲ノ發育ニ關スル研究	千葉縣	磯部美知
大正十五年七月二十一日	最近ノ「バクテリオファーゲン」結合ニ關スル實驗的研究	北海道	木村眞之助
大正十五年七月二十二日	硬固結締織ノ「クロモトローピー」ニ就テ	東京府	藤井保
大正十五年十二月二十五日	腦下垂體ノ分泌ニ關スル組織化學的研究	北海道	高橋皓
昭和二年一月六日	一、等張溶液中ニ於ケル食鹽ノ吸收ニ就テ 二、高張性竝張低性溶液ニ於ケル水分ノ腸內吸收ニ就テ	佐賀縣	大島康夫
昭和二年一月六日	一、白鼠ニ於ケル癌腫ノ內分泌臟器竝生殖腺ニ及ボス影響ニ就テ 二、膽石症ニ關スル實驗的研究 三、類上皮細胞及巨態細胞形式ニ對スルくろまとふおーれんノ意義 四、癌白鼠ニ於ケル腎臟ノ病理組織學的變化ニ就テ	北海道	鳥海照雄

昭和二年一月十二日	臟器浸出液ノ血液及造血臟器ニ及ボス影響ニ關スル實驗的研究	愛知縣	田中一雄
昭和二年二月十七日	膠質水酸化鐵ノ種々ノ電解質ニヨル沈澱ニ關シテ	北海道	高松泰三
昭和二年二月十七日	「バクテリオファーヂ」ノ紫外線ニ依ル影響竝其ノ理化學的性狀ニ關スル研究	栃木縣	水野薫
昭和二年二月十七日	膠質不則性沈ノ攻究	北海道	眞柳英馬
昭和二年三月七日	眼內液體及腦脊髓液ノ血管ノ藥理學的性質	茨城縣	松岡喬
昭和二年三月二十三日	白鼠腎臟出血後ノ增殖殊ニ絲毬體ノ數及大サニ就テ	北海道	兗瀧實
昭和二年四月十二日	水素「イオン」濃度ト電氣的二重層トノ關係ニ就テ	大阪府	山取瀧三
昭和二年四月十二日	去勢ノコーペル氏腺ニ及ボス影響	東京府	中島鎌太郎
昭和二年七月二十五日	腦下垂前葉腺細胞ノ核分割ニ就テ	東京府	馬島廣
昭和二年七月二十五日	同種血球凝集現象ヨリ觀タル人體諸腺分泌液ノ個人性ニ就テ	千葉縣	白井三郎
昭和二年八月三日	動物體內ニ於ケル「アルコール」成生	山形縣	青木惠盛

昭和二年十一月一日	腸管ノ葡萄糖及水分ノ吸收機轉ニ就テ	北海道	松本剛太郎
昭和二年十一月二日	種痘免疫ニ關スル實驗的研究	神奈川縣	重田常清
昭和二年十一月十四日	痘瘡並ニ牛痘「ウイールス」ニヨル家兎睾丸ノ病理組織的變化ニ就テ	福島縣	大藤熊吉
昭和二年十一月十四日	腎臟血管ノ藥理	東京府	尾崎正道
昭和二年二月六日	內分泌腺越幾斯亜「ヒスタミン」ノ膵臟外分泌ニ對スル作用ノ實驗的研究	北海道	小野純一
昭和二年一月二十七日	頸髓ノ前角細胞ノ分野ニ就テ並橫隔神經起始核細胞ノ分野ニ就テ	東京府	矢ケ崎勘七
昭和三年三月八日	諸種藥物ノ腎臟瓦斯代謝ニ及ボス影響	長野縣	城下貞平
昭和三年三月八日	子宮粘液ノ週期性水素「イオン」波動	岩手縣	阿部愼吾
昭和三年四月四日	デレル氏現象ト細菌ノ窒素代謝トノ關係ニ就テ	兵庫縣	岡本詰次
昭和三年四月四日	蛋白質ノ狀態化學	靜岡縣	安中清次郎
昭和二年四月十七日	腸管吸收機轉ト其酸素消長ニ就テ	東京府	鮫島龍水

昭和三年五月十七日	「スピロヘーテ」ニ對スル生體內剖地トシテノ睾丸ノ價値「スピロヘーテ」ニヨル睾丸ノ變化並ニ睾丸內ニ於ケル「スピロヘーテ」ノ分布種々ナル「スピロヘーテ」ノ「アレルギー」現象ニ就テ	群馬縣	新井俊雄
昭和三年六月十三日	人血淸內ニ存在セル同種血球凝集原ニ就テ	宮城縣	大內出
昭和三年六月十三日	所謂「アポフキヂスス・カルカネイ」ニ就テ	秋田縣	松野朝造
昭和三年七月十三日	副鼻腔蓄膿症（特ニ其膿汁）ノ消化作用ニ及ボス影響	千葉縣	淺岡惠太郎
昭和三年七月十三日	多核肝細胞ノ意義　附大單核肝細胞ノ意義	北海道	齋藤節
昭和三年七月十三日	網膜發生學上ノ一特種現象ニ就テ	新潟縣	阿部英世
昭和三年八月十六日	網膜像ニ就テ	東京府	肥田野行
昭和三年十月十八日	呼吸道ニ於ケル抵抗ノ呼吸ニ及ボス影響	和歌山縣	木下貞順
昭和三年十月二十三日	蛋白質ノ定性的反應ニ關スル攻究	北海道	尾形桑
昭和三年十月二十三日	實驗的貧血恢復期ニ於ケル着色系數及ビ「カタラーゼ」系數ノ觀測並ニ其意義ニ就テ	島根縣	越智躬澄

昭和三年十一月五日	乳腺ノ發育及ビ退縮殊ニ乳汁分泌ノ生理ニ就テ	宮城縣	平田勇吉
昭和三年十一月五日	膽汁內尿素排泄ニ關スル實驗的研究	廣島縣	倉木周三
昭和三年十一月五日	家兎（レープス・クニクルス）ノ毛樣神經節細胞ニ就テ	山口縣	纖新
昭和三年十二月十七日	骨端化骨現象及骨組織再生作用ニ及ボス血管外鞘交感神經切除ノ影響	千葉縣	伊藤金三郎
昭和三年十二月十七日	腦血管ノ藥理	京都府	兵藤寵二
昭和三年十二月八日	蜘蛛膜下腔ノ異物排除機轉ニ關スル實驗的並ニ解剖學及組織學的研究	宮城縣	小山重正
昭和四年一月十一日	一、痘毒免疫性血清ニヨル局所的被動性免疫ノ研究 二、天然痘ニ對スル眼疾患豫防ノ實驗的研究	長野縣	鎌倉政市
昭和四年三月十九日	異種赤血球ノ靜脈內注射ニヨレル免疫ニ際シテ起ル家兎急性死ノ原因的檢索	東京府	森重靜夫
昭和四年三月十九日	創傷治療ノ物理化學的知見補遺	北海道	竹森弘
昭和四年三月十九日	ゴルジ裝置ニ立脚セル甲狀腺ノ實驗的研究	鹿兒島縣	山下秀之助
昭和三年十九日	角膜種痘免疫ノ成立ニ對スル新知見	新潟縣	野村男也

昭和四年四月二十三日	肝臟ノ門脈單位ニ就テ	熊本縣	中林重實
昭和四年五月三日	兩性電解質「アムポリーテ」ノ狀態化學	北海道	柴藤貞一郎
昭和四年六月三日	南瓜ノ「カロチノーゼ」ノ本態ニ就テ	北海道	安齋眞篤
昭和四年六月三日	一、正常家兎血清ノ非特異性補體結合反應並ニ其ノ溶血防止作用ニ就テ 二、再ビ正常家兎血清ノ非特異性補體結合反應ニ就テ	熊本縣	金子吉文
昭和四年六月三日	「リポイード」可溶性物質ノ腸管吸收機轉ニ就テ	愛媛縣	多々良卓一
昭和四年六月三日	鳥卵ニ關スル研究	三重縣	水谷喜次郎
昭和四年六月六日	肝臟機能ニ就テ（第一同報告） 「ビリルビン」ノ新定量法及ビフアンデンベルグ氏法ノ批判	栃木縣	粂川秀武
昭和四年六月十八日	腦組織チ宿地トスル正常組織ノ移植實驗	靜岡縣	平野子平
昭和四年七月十六日	猩紅熱連鎖狀球菌ノ研究	東京府	森脇襄治
昭和四年七月十六日	副甲狀腺「ホルモン」ノ血液諸成分ニ及ボス影響ニ就テ	福島縣	大島四郎
昭和四年七月三十一日	子宮血管ニ於ケル「クロモトロピー」ノ研究 附「クロモトロピー」ヨリ觀タル實驗的動脈硬變症ノ本態ニ就テ	山形縣	栗本春吉

昭和四年八月八日	先天黴毒性角膜實質炎ノ血液學的研究	栃木縣	茂木宣
昭和四年八月八日	血液ニ關スル實驗的研究	石川縣	小原憲一
昭和四年八月八日	沃度代謝ニ就テ	栃木縣	石川九
昭和四年十一月九日	胃機能ニ及ボス「インシュリン」作用ノ研究	和歌山縣	瀧本庄藏
昭和五年二月三日	神經節細胞ノ銀反能ニ就テ	東京府	鹽谷壽
昭和五年二月二十六日	發熱ト「カタラーゼ」及肝臟トノ關係	朝鮮京城道	任明宰
昭和五年二月二十六日	實驗黴毒ニ於ケル免疫ノ發展ニ對スル初期硬結ノ意義	長野縣	氣賀澤猛保
昭和五年二月二十六日	「ヘモアグルチノイド」ノ「アヴイデイテート」ニ就テ	東京府	吉田義雄
昭和五年三月二十七日	體液ノ表面張方ニ關スル知見補遺	新潟縣	權平豐三郎
昭和五年四月十一日	骨折時ニ於ケル假骨形成ノ組織發生竝ニ假骨ノ軟骨組織ニ關スル實驗的研究	東京府	橫正一男
昭和五年四月十二日	腸管ニ於ケル葡萄糖吸收曲線ニ就テ	山形縣	濱田貞一郎

昭和五年四月十二日	肺結核患者ノ基礎新陳代謝竝ニ二三藥物ノ之ニ及ボス影響	秋田縣	菊地清一
昭和五年七月十九日	所謂種痘後腦脊髓炎ニ關スル實驗的研究	青森縣	松田操
昭和五年七月十九日	生體內吸收試驗ニヨリ檢シタル臟器蛋白ノ血清學特異性ニ就テ	秋田縣	佐藤眞藏
昭和五年八月六日	肋膜腔內水力吸收機轉ニ就テ	北海道	植田潔
昭和五年八月十八日	急性中耳炎ニ關スル「アンチイールス」ノ局所治療的價值竝ニ其ノ局所免疫作用及特異性ニ對スル實驗的批判	山形縣	隱明寺盛善
昭和五年八月十八日	銀反應ニ依ル腎臟ノ研究	福井縣	關健藏
昭和五年八月二十一日	ゴルヂー氏內網裝置ニ就テ	東京府	前田順平
昭和五年九月二十五日	黴毒患者血精ノ異種血球凝集反應ニ就テ	青森縣	五井陽
昭和六年一月九日	諸臟器內尿素組織化學的研究	北海道	柿田俊光
昭和六年一月九日	血球凝集阻止帶現象發現機轉研究補遺	北海道	小原正生
昭和六年一月二十八日	鳩痘免疫血精中ニ含マレタル滅殺素ノ鳩痘免疫ニ於ケル價值竝ニ其ノ新證明法ニ就テ	岐阜縣	淺井幸

昭和六年一月二十八日	家兎血清中ノ「ワッセルマン」氏反應物質ニ關スル研究補遺	北海道	高橋了造
昭和六年二月十四日	副腎皮質ノ銀反應ニ就テ	北海道	園田千榮
昭和六年三月二日	膵汁酸ヨリ見タル膵汁分泌ノ實驗的研究	山梨縣	坂本勇
昭和六年三月二日	膵汁ノ反應調節作用ニ就テ	北海道	小川信一
昭和六年三月二日	癩ニ於ケル皮膚反應	北海道	林文雄
昭和六年三月二日	膠質ノ安定度ニ關スル研究	北海道	河邨百合人
昭和六年四月六日	非特異性凝集反應ノ本態ニ就テノ研究	新潟縣	梅田芳次郎
昭和六年四月六日	免疫血清ニ於ケル抗體ノ作用ト抗體作用阻止	鳥取縣	景山直
昭和六年四月十五日	新陳代謝異常ト甲狀腺機能	山形縣	須賀井正謙
昭和六年四月十五日	「コレステリン」新陳代謝ト腦下垂體ノ關係ヲ論ジテ之ト他種內分泌腺トノ相互關係ニ及ブ	北海道	武田勝男
昭和六年四月三十日	膵管ノ葡萄糖吸收ニ及ボス「アルコホル」ノ影響	三重縣	片山總太郎

昭和六年四月三十日	「コレラ」菌培養ニ於ケル「メヂウム」ノ反應變化ノ機轉ニ關スル研究	青森縣	木村正一
昭和六年四月三十日	赤血球膠着現象竝ニ此レニ隨伴スル特異溶血ノ本態ニ關スル研究	新潟縣	宮川知平
昭和六年四月三十日	笈狀骨緻密質ノ構造ニ就テ	岩手縣	横川貞夫
昭和六年四月三十日	網狀織內被細胞系統塡塞ト膵汁酸分泌トノ關係	山梨縣	三神壽
昭和六年四月三十日	氣管支喘息患者ノ瓦斯代謝竝ニ其ノ頸部交感神經節狀索切除術ニ依ル瓦斯代謝ノ變遷ニ就テ	北海道	三宅演
昭和六年九月六日	「トラホーム」性組織ニ於ケル微生物ノ培養ニ就テ	北海道	野上倘志
昭和六年九月九日	炭肺ト肺結核（炭鑛ノ肺結核）	新潟縣	白川玖治
昭和六年五月十日	血精結核補體結合反應ニ關スル研究	秋田縣	山科清三
昭和六年三月三十日	前房水、血清、尿及腦脊髓液ノ紫外線吸收ニ就テ	長野縣	田村茂美
昭和六年三月三十日	靜脈性空氣栓塞死ノ實驗的研究	新潟縣	山本修吾
昭和六年三月三十日	創傷治療ニ關スル研究	富山縣	奥田義正

昭和六年八月二十六日	人工氣胸ト組織反應ニ關スル研究	秋田縣	木村亮藏
昭和六年九月四日	赤血球注射ニヨル家兎急性死ニ際シテ起ル各徴候ニ就テ	茨城縣	直江六三郎
昭和六年九月四日	動物ノ油脂ニ關スル研究	福島縣	根本六郎
昭和六年九月四日	植物性機能檢査ニ對スル灌流實驗ノ可否	岡山縣	服部光平
昭和六年九月十六日	我ガ國ニ於ケル工業性鉛中毒ニ就テ	京都府	櫻田儀七
昭和六年九月十六日	一新寒性溶血毒ノ研究	宮城縣	豐島勝男
昭和六年九月二十八日	鷄ノ動脈硬變症ニ就テ	新潟縣	田村要太郎
昭和六年十一月十七日	腎臟結核ノ病理發生ニ關スル實驗的研究	青森縣	窪田歷三郎
昭和七年一月二十八日	血清ノ酸結合ト蛋白誤差	北海道	吉川弘一
昭和七年一月二十八日	豚大腦表面形態發育ノ研究	青森縣	中澤晉吉
昭和七年一月二十八日	蛙皮ノ電氣分極容量ニ對スル麻醉藥ノ作用ニ關スル研究	宮城縣	佐々木清暉
昭和七年二月十日	窒息血ニ關スル研究	宮城縣	佐々布武
昭和七年二月十日	肝膽道疾患ニ於ケル膽汁酸分泌ニ就テ	北海道	藤川芳三郎
昭和七年二月十五日	食品蛋白質ニ關スル研究	栃木縣	石原亮平
昭和七年二月十五日	皮膜ヲ通シテノ電解質擴散速度ニ及ボス「カチオン」並ニ非電解質ノ影響ニ就テ	東京府	清野信昌
昭和七年二月十五日	外科的結核ニ於ケル牛型結核菌ノ感染ニ就テ	山形縣	松澤靖介
昭和七年二月二十六日	蛙皮ノ電氣分極量ト興奮トノ關係	埼玉縣	齋藤省三
昭和七年二月二十六日	Magnesiumnotiumphosphat ノ結晶生成ニ關スル研究	北海道	鮎川武一郎
昭和七年二月二十六日	家兎胃ノ葡萄糖吸收ニ就テ	北海道	神保恒春
昭和七年三月一日	營養素ノ扁桃腺ニ及ボス影響ニ就テ	東京府	猿渡二郎
昭和七年三月一日	細菌性「カゼイナーゼ」及ビ抗「カゼイナーゼ」ノ種屬特異性ニ就テ	福島縣	大庭榮雄
昭和七年三月一日	血液血管作用並ニ子宮作用ニ及ボス發熱ノ影響ニ就テ	北海道	大村喜作

昭和七年三月三十一日	胎兒毒並ニ胎兒浸出液ノ分娩發表ニ及ボス影響	北海道	三井孝夫
昭和七年四月十二日	家兎腸管ニ於ケル Amino 酸ノ吸收ニ就テ	栃木縣	石川房吉
昭和七年四月十二日	筋纖維ト腱纖維トノ連接ニ就テ	大分縣	中臺元治
昭和七年五月十日	胃液分泌機能ト血液「クロール」及ビ「ナトリウム」トノ相互關係ニ就テ	千葉縣	村松正雄
昭和七年六月一日	結核ニ於ケル血液脂肪並ニ類脂肪量特ニ人工氣胸ノ及ボス影響ニ就テ	靜岡縣	宮澤孝
昭和七年六月二十三日	「インヅクカルミン」ノ腎臟排泄ノ組織學的研究	富山縣	宮林陞介
昭和七年八月一日	「モルフインヽスコポラミン」痲酔ト酸鹽基平衡	三重縣	澤田平十郎
昭和七年八月十六日	循環血量ニ對スル肝臟ノ意義	北海道	安保壽
昭和七年九月二十六日	白血球像ヨリ觀タル蟲樣突起炎	埼玉縣	根岸喜代助
昭和七年九月二十六日	組織固定液反應ノ差異ト組織色素嗜染性トノ關係ニ就テ	北海道	加藤康吉
昭和七年九月二十六日	蛙皮ノ電氣分極容量ト溫度關係	滋賀縣	辻茂三

昭和七年九月二十八日	牛痘「ヴイールス」ノ培養ニ關スル基礎的研究	北海道	角江重雄
昭和七年十二月十二日	痘毒沈降反應ノ本態ニ關スル研究	北海道	不破秀三
昭和七年十二月十二日	虛脫肺ニ於ケル血管ノ「L」線學的研究	新潟縣	平澤有路
昭和七年十二月二十六日	イオンノ濃度ニ關スル生化學的攻究	兵庫縣	難波董
昭和七年十二月二十六日	婦人子宮頸管分泌液ヨリ培養セル濾過性微生物 Microorganism filtrans ノ研究	長崎縣	松本茂雄
昭和八年一月十日	腦毒ノ研究	神奈川縣	町田三郎
昭和八年一月十日	產婦人科領域ノ資料ニ依ル各種液體ノ紫外線吸收「スペクトル」ニ關スル研究	新潟縣	廣田戶七郎
昭和八年一月二十八日	沃度代謝ト消化器トノ關係	青森縣	高杉年雄
昭和八年一月二十八日	「グアニヂン」ノ生體ニ及ボス影響	和歌山縣	華岡雄太郎
昭和八年二月十七日	氣管枝喘息ノ外科	東京府	玉眞俊雄
昭和八年二月十七日	副腎皮質柚出液注射ノ生體ニ及ボス影響	山梨縣	小野修

昭和八年二月十八日	血清ノ所謂乾物質ニツキテノ研究	北海道	西島龍
昭和八年三月三日	死胎兒稽留ニ關スル實驗的研究	新潟縣	田村吉之助
昭和八年三月三日	動物試驗ニ依ル結核菌早期證明法ニ關スル一考察	北海道	水島宣
昭和八年三月三日	人腦ノ Claustrum ノ形態學的研究	北海道	福島正義
昭和八年三月三日	腎臟ノ酸素消費量ト其ノ流血量	樺太	和田文治郎
昭和八年四月一日	小腸ニ於ケル尿素吸收ニ關スル研究	東京府	大木文雄
昭和八年四月十三日	兒童營養指數ノ研究	岩手縣	南浦邦夫
昭和八年四月十三日	大腦嗅結節ニ存在スル顆粒細胞群ニ就テ	宮城縣	鎌田嚴
昭和八年四月二十日	イオンノ活動性ニ對スル電解質ノ作用ニ就テ	岡山縣	川島淳
昭和八年五月十三日	實驗的腸閉塞論	青森縣	竹村文祥
昭和八年五月十三日	組織球性細胞ニ於ケル銀反應ノ消長ニ就テ	北海道	渡邊金次郎

昭和八年五月十三日	痘毒免疫血清ノ滅殺素ノ作用ニハ補體ヲ必要トスルコトノ證明	北海道	飯田博
昭和八年五月二十二日	異種菌間ノ經口免疫ニ關スル基礎的研究	石川縣	綠田治作
昭和八年六月八日	血壓ノ膵液分泌ニ及ホス影響ニ就テ	北海道	四村榮吉
昭和八年七月一日	釀母ヲ以テセル血清學的研究	福島縣	黒澤俊祐
昭和八年七月二十七日	遊離骨膜移植ニ關スル實驗的研究	石川縣	篠原一幸
昭和八年八月一日	「アンチヒリン」ノ藥理學的知見補遺	北海道	佐藤幸吉
昭和八年八月八日	「トラホーム」ニ於ケル喰菌現象ト血糖ニ就テ	熊本縣	德永守威
昭和八年八月八日	唾液腺ノ機能ト其流血量トノ關係	北海道	泉恒雄
昭和八年八月八日	炭鑛夫ノ基礎新陳代謝ニ關スル研究	青森縣	武内太三郎
昭和八年九月一日	感受性臟器ト病原體增殖ニ關スル原因的研究	岩手縣	本多末雄
昭和八年九月一日	蓄電器放電及充電法ニヨル運動神經興奮傳導速度測定法並蛙坐骨神經ニ於ケル其實驗結果ニ就テ	青森縣	中村勉

昭和八年九月十八日	Chroldepot トシテノ組織特ニ皮膚ノ意義ニ就テ	栃木縣	田谷利男
昭和八年九月十八日	Corpus Luysi ノ比較解剖學的研究	新潟縣	小野昌信
昭和八年九月十八日	實驗的腎炎ニ於ケル特種鹽素排泄關ニ關スル研究	北海道	重松保彦
昭和八年九月十八日	痘毒ニ對スル臟器組織ノ親和性ニ就テノ研究	北海道	田中壽
昭和八年九月十八日	紫外線照射血輸血ノ研究	熊本縣	深水助人

○學生及生徒姓名

第一　大學院學生

農學部ニ屬スル學科ヲ修ムル者

農業微生物ノ研究	（昭五、六、二入學）	農學士	吉村貞彦　北海道
食品化學	（昭五、一〇、二一入學）	農學士	林浩植　朝鮮
昆蟲學	（昭六、五、四入學）	農學士	渡邊千尙　鬱陵島
微生物學一般	（昭六、五、四入學）	農學士	渡部威三　北海道
農政學	（昭六、五、四入學）	農學士	伊藤俊夫　北海道
農產製造學	（昭六、五、一八入學）	農學士	宮川浩平　新潟
農產製造學	（昭六、五、一八入學）	農學士	劉伯文　中華
土壤學	（昭七、六、二入學）	農學士	戶倉清太郎　北海道

醫學部ニ屬スル學科ヲ修ムル者

外科學	（昭六、九、一九入學）	醫學士	原勇　北海道
醫化學	（昭六、九、一九入學）	醫學士	豐福豐　北海道
衛生學	（昭六、九、一九入學）	醫學士	吉原啓市　埼玉
小兒科學	（昭七、二、二三入學）	醫學士	小野茂三郎　山形
外科學	（昭七、二、二三入學）	醫學士	小野茂三郎　山形
衛生學	（昭七、四、二五入學）	醫學士	小野茂三郎　山形
病理學一般	（昭七、一〇、五入學）	醫學士	前川昌三　兵庫
法醫學	（昭七、一〇、五入學）	醫學士	前川昌三　兵庫
生理學	（昭七、一〇、五入學）	醫學士	前川昌三　兵庫

病理學、內科學（昭八、二、八入學）　醫學士　折津時雄　宮崎
法醫學、外科學（昭八、二、八入學）　醫學士　山中幸次　北海道
精神病學、解剖學（昭八、六、二三入學）　醫學士　秋元波留夫　東京

理學部ニ屬スル學科ヲ修ムル者

幾何學（昭八、五、一六入學）　理學士　堰内義和　東京
有機化學（昭八、二六入學）　理學士　牛澤道郎　北海道
有機化學（昭八、六、二六入學）　理學士　梅澤純夫　熊本

第二農學部學生

農學科

第三年目

大正十三年入學

原泰五郎　大分　昭和五年入學　中山一郎　新潟　野村修巳　東京　沖誠而　福岡
青森幸吉　長野　昭和六年入學　伊達宗文　東京　濵夫　北海道　原正雄　東京　林文平　兵庫
安宅健二　石川　池田孝介　東京　加賀高朗　東京　加藤勇太郎　東京　許錬　朝鮮　松本元治郎　京都

中島邦雄　北海道　中山林三郎　長野　奥田亨　愛知　大限肇　北海道　大沼正夫　宮城
太田恒夫　和歌山　進藤貞三　大阪　高橋隆平　京都　高杉成道　青森　高頭明丸　東京
立見尚俊　三重　田村貫　新潟　吉田博　北海道　関慶植　朝鮮

第二年目

昭和七年入學

建相旭　朝鮮　出崎邦吾　大阪　原宗男　東京　久富鐵四郎　福岡　木下孝三　和歌山
北敏太郎　北海道　黒住久彌　岡山　桑原武司　樺太　水島信一　新潟　向井四郎　北海道
長澤祐嘉　北海道　内藤孝三郎　新潟　小野藤雄　大分　大谷庄太　山形　澤田吉忠　北海道
清水信太郎　東京　高田祐　大阪　垂井昌明　佐賀　寺田初夫　富山　時任正夫　北海道
鳥居三郎　愛知　豊蔵二三雄　千葉　和田美雄　静岡　北三郎　北海道

第一年目

昭和八年入學

安孫子孝一　北海道　安藤千代藏　北海道　藤森和夫　長野　橋本敏一　大阪　久光衛　北海道
石川忠彦　秋田　片山廣　京都　加藤慶治　北海道　菊地幸永次郎　秋田　小立文彦　東京
森田弘　静岡　村井東助　静岡　南郷茂里　東京　中江孝男　東京　小野美雄　山梨
佐野清　東京　曾我滿義　愛知　富本誠　北海道　宇田川德雄　千葉　和田忠雄　北海道
山口輝武　新潟　横田廉一　滋賀　庄間四郎　千葉　王忠彦　福岡

農業經濟學科

第三年目
昭和五年入學

猪野田　一　北海道

昭和六年入學

堀越美雄　北海道　五十嵐實　北海道　飯倉薫　石川
龜田信三　富山　加藤俊次郎　北海道　金昌河　朝鮮
須田政美　樺太　武内嘉一郎　北海道　矢尾清孝　北海道

第二年目
昭和七年入學

阿部善太郎　山形　有路政保　宮城　石井磐根　栃木
岸稔　兵庫　今敬二　東京　長澤武　北海道
大川信夫　山形　佐々木芳丁　石川　瀬野周治　廣島
山崎實文　青森

第一年目
昭和八年入學

足羽進三郎　北海道　稻盛茂　鹿兒島　吉見一郎　宮城
眞木日出光　岡山　望月信威　北海道　村田學　鹿兒島
瀧本久雄　北海道　田下健治　北海道　塚島眞治　北海道

池田善長　靜岡　伊藤信康　北海道
四川利通三　重　貫井清治郎　兵庫
矢島武　北海道

金澤政雄　北海道　笠島彌一　北海道
中澤芳郎　新潟　野間敬　廣島
清水長英　石川　鈴木政　北海道

菊池健作　岩手　前田健二　北海道
下川重義　長野　住田純三　北海道
渡邊一美　福岡　渡部哲男　北海道

農業生物學科

第三年目
昭和六年入學

鐙谷大節　北海道　三浦修　大阪　村山大記　北海道
矢部俊夫　埼玉　四尾新六　兵庫　竹江五郎　北海道

第二年目
昭和七年入學

星野好博　大阪　池田眞次郎　東京　岸田光太郎　岡山　齊藤和彦　北海道　清水恒久　宮城
山下次郎　宮城　米澤二夫　京都　選本間精夫　山形

第一年目
昭和八年入學

岩田健一　北海道　成田武四　大分　岡田四五郎　東京　坂口精　鳥取　澤本孝久　東京
選張際中　支那

農藝化學科

第三年目
昭和五年入學

安藝稔一　神奈川　古川四郎　福島　三井光次　栃木　望月武雄　長野　佐藤亮八　新潟

昭和六年入學

飛鳥　吉久　北海道
蛯子　昌　北海道
藤田彦次郎　福井
服部見吾　東京
廣瀨角治　大阪
金井義彦　靜岡
川久保健生　長野
神田俊一　北海道
木村昇　大分
國澤陸郎　東京
村津俊太郎　兵庫
佐々三郎　北海道
佐藤力之助　秋田
駿河義雄　新潟
鈴木昇　北海道
高橋正三　靜岡
武田周平　秋田
田中照夫　長野
尾形義直　東京

第二年目

昭和七年入學

淺野義光　富山
藤原博　兵庫
福田騰　千葉
玄地實　山形
橋本靖彦　福井
廣森壽一　千葉
井深英夫　北海道
五十嵐久尙　北海道
石平左工門　茨城
城生朝來　北海道
川原田博　福岡
栗岩治雄　長野
河村高雄　北海道
小林忠弘　佐賀
松下五郎　兵庫
中本泰夫　鳥取
大橋德司　福島
友田五郎　北海道
塚本正一郎　秋田
山安健夫　鹿
依田心一　山梨

第一年目

昭和八年入學

渥美喜代治　千葉
畑生道雄　福岡
宇澤啓二　北海道
堀俊郎　新潟
飯塚英夫　長野
岩崎厚貊　三重
笠原秀夫　北海道
加藤長策　大阪
川上成多　神奈川
喜多村治　東京
永井肇造　東京
內藤正一　北海道
仁保一男　新潟
丹羽勝　東京
奧田敎廣　新潟
清水光一　東京
高木一夫　山口
脇田代子郎　岐阜
山田實　北海道
山本決埼玉
横井一　愛知

林學科

第三年目

昭和五年入學

濱田正太郎　兵庫
長野忠一　北海道

昭和六年入學

遠藤嘉數　新潟
茅野一男　山梨
後藤春利　大阪
五十嵐勝藏　青森
市川藤七郎　北海道
伊藤喜一郎　宮城
岡本堯　神奈川
大立田謙宜　宮城
佐藤友吉　秋田
志垣智晴　熊本
杉山榮之助　愛知
鈴木甚太郎　秋田
內田映　島根
渡邊博　北海道
田中順三　北海道

第二年目

昭和七年入學

有田學　北海道
萬濃健一郎　三重
村山林治郎　東京
生田目敬二　秋田
櫻田亮正　秋田
柴田與太郎　秋田
岡田啓　愛媛
內田弘志　北海道

第一年目

昭和八年入學

曳地政雄　北海道
片岡正二郎　北海道
小松正光　秋田
水谷光雄　北海道
長倉六郎　靜岡
大味新興　北海道
大城豐彥　長野
松山望　東京
高橋四郎　北海道
澤田博　北海道
杉山茂　宮城
土田喜久藏　北海道

畜產學科第一部

第三年目

昭和四年入學

柳田敬三 大阪

昭和五年入學

川崎武平 兵庫　吉田稔 東京選　李根台 朝鮮

昭和六年入學

天野信男 北海道　有村徹 東京　波多野喜一 新潟　熊谷逮夫 北海道　三島洋平 東京

森田修 愛媛　小平俊平 栃木　鹽谷正作 栃木　曹台元 朝鮮　都築俊吉 東京

高橋敏郎 北海道　山口壽男 福島

第二年目

昭和七年入學

穴釜雄三 北海道　青木忠三 長野　石塚寛典 新潟　增原恒 島根　大條方義 宮城

折原佐智夫 北海道　大津俊次郎 京都　千田英二 滋賀　田中清一 山形　高田五郎 東京

德永正雄 福岡　都築善作 東京　植村勘一 新潟

第一年目

昭和八年入學

下條菊五郎 東京　林達男 長野　伊福部薰 鳥取　神野悅三 滋賀　松本重二良 秋田

長尾九八郎 青森　大池清 福岡　大原久友 富山　瀧本八郎 北海道　土田鶴吉 秋田

山崎嘉四男 和歌山　橫地稔 京都選　關僧祿 福岡

畜產學科第二部

第三年目

昭和四年入學

木村英男 新潟

昭和六年入學

平野愼吉 岩手　飯尾英吉 愛媛　鵜五郎 大阪　石野英 東京　板垣啓三郎 秋田

佐藤久哉 山形　菅野孟 北海道　庄村清治 佐賀　辻守直 新潟

第二年目

昭和七年入學

布施尙一 千葉　久葉昇 愛媛　三澤穫 宮城　南里富衛 北海道　西武 北海道

野畑良作 東京　佐藤正吉 新潟

第一年目

昭和八年入學

早川晋八 岐阜　日比重元 東京　岸田益雄 北海道　小島悅吉 東京　中田功 北海道

大屋正二 島根　關毅一 岩手選　藏廣田 樺洲

第三　農學實科生徒

第三學年

相澤佳郎 北海道　段　永嘉 中華　福井重紀 北海道
伊藤　潔 山口　岩田武次 北海道　梶田梧樓 北海道　羽山　聰 北海道　池田祐助 山形
許　安文 中華　◉増田寛 埼玉　正木龜吉 北海道　鎌田二郎 北海道　小山八十八 北海道
長尾象吉 青森　小野祐太郎 北海道　小貫龍造 福島　松本　嚴 北海道　村松眞通 山梨
佐瀬一笑 北海道　佐藤正美 北海道　高島市郎 福井　大戸昌雄 山形　齊木正孝 埼玉
東谷謙三 石川　梅村遠郎 千葉　谷口　孝 北海道　遠田傳大 北海道

第二學年

阿部幹一 岩手　馬場實 茨城　今村信一 熊本　石丸美春 大阪　石戸谷雅之 青森
伊藤甚吉 宮城　木下茂吉 福井　小林武重 新潟　鴻嶺博正 山口　成田安彦 鹿兒島
長谷要雙知　長尾是保 青森　中村謙一 岩手　櫻井　清 山形　小田代謙三 北海道
小川信之 北海道　大橋芳造 京都　小野壽滿男 北海道　佐々木武夫 宮城　宮田　治 新潟
佐藤德吉 岩手　清水名七 新潟　下川原由藏 北海道　進藤正雄 東京　杉村仁造 岩手
住友　滿 德島　山本儀一 北海道

第一學年

安部正毅 北海道　福光幸彦 北海道　藤本　實 北海道　橋本佳三 北海道　井口　恂 北海道
家入生雄 熊本　稻川利男 岐阜　伊藤正輔 山口　井藤正一 岩手　金田潤一郎 新潟

蘭田武芳 福島　今野善雄 宮城　森口四郎 北海道　盛田　宏 青森　仲　芳夫 北海道
中野源治 北海道　中尾寅造 北海道　内藤孝彦 三重　西澤眞澄 福岡　宮本武三郎 千葉
大橋八郎 岩手　小野壽滿男 北海道　小貫八郎 福島　佐藤正次 北海道　島本正一 兵庫
清水龍太郎 長野　末光俊雄 愛媛　富田寛武 北海道　横内正之 北海道　後澤憲志 青森
来野尚三 山形　吉村重文 北海道　渡邊誠一 熊本

第四　林學實科生徒

第三學年

花田傳三郎 北海道　本多信夫 北海道　石黒潤平 北海道　伊澤百伸 鳥取　嶺　平五郎 北海道
宮腰正男 北海道　三浦彌一 北海道　森　正三 北海道　永井貞夫 北海道　成田　稔 北海道
西巻正夫 新潟　小畑善清 北海道　小田桐　臺 青森　佐藤嘉五郎 北海道　佐藤謙二 北海道
瀨川　清 北海道　千田修三 北海道　高木　毅 北海道　高橋信一 北海道　高見敬勝 千葉
田中五郎 北海道　寺内常靜 北海道　宇留間弘男 北海道　山本　薫 北海道　八代千秋 秋田

第二學年

藤田直四郎 青森　後町三郎 北海道　花田四郎 青森　林田恒利 長崎　伊福部　昭 鳥取
實正忠雄 北海道　龜井勉 香川　稔 北海道　小池正長 野　桐生孝三 北海道
三上光市 青森　中村知吉 北海道　鬼柳正大 北海道　齋藤正雄 北海道
佐藤義文 北海道　島田　城 北海道　清水長秀 香川　鈴木重夫 北海道　鈴見健二郎 北海道
高橋元秋 北海道　富田久太郎 山形　鈴木重夫 北海道　坪松虎雄 茨城　厥　昌 北海道

山口　武（新潟）　山村誠治（山口）　余語昌資（山形）

第一學年

荒又外作（北海道）　藤田重清（北海道）　萩原力雄（群馬）
市川康夫（北海道）　今村艮一（高知）　石岡修一（青森）
貝塚皓（神奈川）　金澤賢藏（北海道）　加藤謙三（北海道）
三上保（青森）　三田正三（福島）　三浦友三郎（青森）
大島正夫（北海道）　佐藤英（北海道）　佐藤庄一郎（山形）
田上勝敏（北海道）　田口圀雄（北海道）　高原常保（秋田）
堤正宮（岐）　内越留男（北海道）

第五　醫學部學生

第四學年

昭和五年入學

赤倉克巳（北海道）　有賀光俊（北海道）　千葉文平（宮城）
藤野武志（北海道）　福島健夫（東京）　濱凱（北海道）
林延夫（北海道）　平松彩三（靜岡）　原田正巳（秋田）
今井榮作（北海道）　笠井義男（北海道）　金子好造（北海道）
小竹英夫（北海道）　川口連（愛知）　久保和男（石川）
近藤角五郎（北海道）　是安末四郎（北海道）　本村潤（北海道）

千葉忠皎（宮城）　長谷川之道（宮城）　樋口哲男（北海道）
本田一雄（北海道）　石山麟太郎（北海道）　加來惟幸（大阪）
井本富郎（山口）　栗林正（北海道）　桑山武夫（秋田）
河野貞彦（大分）　宮坂幸夫（長野）　中島洵（北海道）
木村佐二平（栃木）　十河正典（香川）　杉山甫（北海道）
松尾忠艮（北海道）　田村愼一郎（北海道）　坪井一郎（新潟）

畜太郎（北海道）　長谷川一男（北海道）　一條貞助（福島）
川村正夫（北海道）　輕部彌生一（福井）　三田艮二（福島）

松木忠（北海道）　増田郁郎（岩城）　中瀨清衛（北海道）
小原啓三郎（山口）　杉本信夫（北海道）　杉山萬喜藏（秋田）
首藤誠（長野）　芝本靜夫（神奈川）　堺享（北海道）
清水寬（福井）　佐々木勝彦（北海道）　高橋義夫（山梨）
梅津三千（山形）　若松哲男（福島）　山田守英（石川）
吉武昌人（山口）　山本綠（新潟）　山本五郎（福島）

昭和四年入學

池田雄比古（岩城）　熊谷直之（北海道）　木谷秀治（北海道）

昭和二年入學

本間艮助（秋田）　小田切信男（北海道）　東海林勤一（北海道）
須田正一（秋田）　高平俊郎（東京）　矢崎渙（山梨）
山澤英雄（東京）

第三學年

昭和六年入學

有岡隆（北海道）　相川修（北海道）　小原菊夫（山口）
蝦田啓三（青森）　遠藤俊行（山形）　福井谷牧太郎（北海道）
濱邊久作（兵庫）　濱谷松夫（北海道）　萩野喜太郎（靜岡）
岩田義明（北海道）　井上藤七郎（群馬）　加藤英夫（北海道）
北原隆（岡山）　小池道雄（靜岡）　熊谷時男（東京）
三浦義明（北海道）　松島尉太郎（北海道）　前川弘治（北海道）
森田輝雄（福岡）　綠埜武雄（群馬）　前川巖雄（北海道）

網塚博（北海道）　番場伸一（埼玉）　遠田丈夫（山形）
藤塚富仁雄（山形）　阮德茂（臺灣）
萩野喜太郎（靜岡）　橋本成夫（靜岡）　伊藤長明（福井）
金光正次（秋田）　木藤茂夫（福井）
菊池寬（愛媛）　近藤宗一（北海道）
三ケ田彰（青森）　守屋守（北海道）
新川輝朝（北海道）　永井清（北海道）

中川義一千葉　中野征紀熊本　奥田正治北海道　杉村太郎北海道　佐々木正信北海道
榊原德太郎北海道　清水龍雄山梨　菅谷敬雄岩手　下村藤男靜岡　棚橋三郎北海道
谷口茂北海道　高橋傳北海道　外塚岩太郎北海道　土橋貞則群馬　田丸清東京
田畑武夫群馬　富樫新松北海道　田代徹北海道　宇都野龍一東京　渡邊左武郎北海道
渡邊秀三新潟　山本幸夫北海道　吉住博北海道　山本利治北海道　横尾英三東京
横内兼松北海道　山本周助北海道　柳内恒久東京

昭和五年入學

笠原嘉勝北海道　山田實北海道

昭和四年入學

小野洋二岡山　佐藤都美大分

第二學年

昭和七年入學

上妻政興山形　阿部祐吉山形　天野俊三栃木　藤田二郎北海道　降旗武臣長野
福井純東京　樋口勝夏福井　服部東次郎奈良　早坂修北海道　林秀夫新潟
橋場輝芳北海道　牛澤信一北海道　今井忠雄北海道　伊藤紀克北海道　岩淵治三郎岩手
伊藤正夫北海道　北村政彌長野　加藤三郎北海道　笠松秀二北海道　木村政夏東京
川又健吉北海道　河野通俊兵庫　松下太積山形　森下美之和歌山　水蛙龍夫鳥取
三山英二北海道　水谷繁雄靜岡　村形友治山形　森田貞美秋田　眞野潔愛知
町田達高知　持田陽一郎北海道　水上勝太郎北海道　宮澤正衛群馬　塗師善作北海道

中村芳正青森　名須川佐一北海道　中島俊一福島　仲山夏二北海道　西野効北海道
折笠雄次郎福島　鈴木勝美山梨　猿渡篤義鹿兒島　佐藤光世北海道　櫻林繁山梨
瀨戸國男北海道　鈴木弘靜岡　田邊恒義福島　高橋五郎北海道　高井英一郎群馬
高橋清藏山形　床井恒栃木　田中二郎埼玉　高見信義北海道　豐田春滿山形
田中佑北海道　打田直北海道　植木巖北海道　鷲塚三郎北海道　山田淳一石川
吉田一北海道　山田效北海道　矢口敏宏長野　吉川萬雄京都

昭和六年入學

田下福造新潟　富田寬忠北海道　栃内寬北海道

昭和五年入學

竹脇富士雄北海道　山本原二北海道

昭和四年入學

野口曉北海道

昭和二年入學

澤田伊悅秋田　杉本夏次愛知

第一學年

昭和八年入學

新井恒人長野　朝霧貞雄秋田　畑山國五郎北海道　藤田英夫北海道　藤平一光福岡
菱山豐一北海道　平松勤北海道　平石啓太郎愛媛　疋田二郎秋田　兵藤保男京都
今井正夫東京　池田庸德靜岡　伊藤義正福岡　木村彌一郎樺太　杓木正義北海道

小町正次 北海道　海保弘義 北海道　菊池欽彌 北海道
金子晃 北海道　小林正 長野　倉上政博 埼玉
神田明男 北海道　水上定一 北海道　丸田吉人 新潟
森喜一 北海道　森山武雄 青森　村上正 青森
正木利世 東京　三井二男 北海道　永井壽一 北海道
新田一雄 北海道　南部清 北海道　中山二郎 新潟
折笠彰 福島　太田豐 山形　櫻井正夫 北海道
佐瀬亙 福島　佐々木一郎 宮城　佐々木芳郎 北海道
菅原英夫 山形　下川勇 北海道　鈴木正壽 靜岡
飛澤實 秋田　竹山初男 新潟　鳥海策郎 山形
内田壽傳外喜 石川　若松不二夫 北海道　山田大秋 北海道

專攻生

法學　千葉醫學士　南部敏三 北海道
法學　醫學士　佐々木佐武郎 北海道
衛生學　醫學士　俣野純夫 鹿兒島
衛生學　新潟醫學士　島太郎 福島
生理學　醫學士　山川浩 靜岡
法學　醫學士　岡部柾雄 栃木

衛生學　醫學士　林武 鹿兒島
化學　慈惠醫學士　青景金吾 廣島

第六　工學部學生

第一部類

昭和二年入學

長尾健一 北海道　藤樫博曉 北海道

昭和五年入學

三木森雄 富山　新田健造 北海道
村林保 北海道　本田章 奈良
昭和六年入學　本間會治 北海道
足永勇 北海道　淵田敏夫 北海道　島山實 北海道
細川忠 北海道　片山幹雄 北海道　小林吉雄 北海道
古閑正孝 北海道　永井寬 北海道　中村武雄 北海道
大島練達郎 北海道　西條容七 宮城　高橋武雄 岩手
谷口勝 北海道　辻口利雄 北海道　竹村吉惠 北海道
昭和七年入學　上戸城司 北海道　和田清隆 北海道
藤田博愛 北海道　平井義明 神奈川　竹内正 北海道
川瀨正俊 北海道　岸田茂 北海道　柳内泰夫 北海道
石田義男 北海道　笠原篤三 北海道
眞島恭雄 山形　三村忠三郎 北海道　笠松時雄 北海道
宮川道彦 北海道

森田紀元 北海道　中村俊雄 埼玉　中山滋 北海道
小野早苗 北海道　小山内了介 北海道　佐藤源藏 岩手
關一雄 新潟　田中茂春 北海道　寺本久義 北海道

昭和八年入學

有江義晴 北海道　藤原政明 北海道　羽下雄二 北海道
石崎貞美 北海道　板倉正治 北海道　神山博 栃木
川上正三 北海道　菊地隆 北海道　小林嘉道 静岡
宮森虎夫 北海道　道祖土貞一 埼玉　須藤靖 北海道
辻井正雄 北海道　渡邊逸郎 北海道　山田順治 富山

第二部類

昭和四年入學

大谷津純一 青森

昭和五年入學

羽金與六郎 福島　國分諄 北海道　森田太郎 宮城
山本英一 北海道

昭和六年入學

安齋修一 北海道　細道政治 北海道　飯泉文藏 東京
中村悌三 北海道　小黒春之助 新潟　及川洋 青森

小原福二 北海道　小田島啄次 北海道
佐藤健吉 岩手　澤田克己 北海道
若桑訥 北海道　和里田新平 北海道

今井琢磨 北海道　石井興瓦 北海道
神山博 栃木　加瀬谷昭男 北海道
桑山三郎 新潟　三宅文夫 栃木
谷脇謙 高知　寺島重雄 北海道
山下源松 北海道　米本實 北海道

前川建太郎 香川　武藤盛男 宮城
佐藤富彌 福島　關口保平 富山

高橋嘉幸 東京　田中靖時 北海道　谷口廣吉 東京

昭和七年入學

萩原正雄 東京　東宣夫 鳥取　平瀬禎克（筒名文雄） 北海道
近藤正治 北海道　圓山政吉 北海道　中山銳一 茨城
栃木勝治 青森　吉田喜久次郎 兵庫　吉田利信 福島

昭和八年入學

相川鎭雄 北海道　赤池武美 北海道　藤田幸隆 北海道
長谷川誠三 富山　伊藤格郎 秋田　黒木晋也 北海道
岡野穰 東京　村岡克巳 愛知　齋藤眞人 石川
武田信男 北海道　坪井貴志男 岡山　塚田正夫 富山

第三部類

昭和二年入學

上原千秋 東京　梅田潔 東京　安田二郎 宮城

昭和三年入學

福田常四郎 石川　山下二郎 北海道　高崎繁 北海道

昭和四年入學

望月康一郎 新潟　士屋光三 神奈川　和田榮作 静岡

昭和五年入學

原佐多夫 東京　長谷川惇 東京
前原平 福岡　三田村正二郎 北海道
高橋正 北海道　久保田誠二 福岡
今井正修 北海道　澤海弘一 新潟

中村喜七郎 北海道　佐々木悦太郎 北海道
昭和六年入學
安藤政三 福島　舟生秀哉 山形
葛西義範 北海道　河田恭二 香川
村山義夫 北海道　中村孝一 北海道
小原衡平 北海道　小平貞平 栃木
高橋明 東京　立野力 北海道
昭和七年入學
藤森峰男 北海道　日高鷹助 福岡
岩崎弘 北海道　加太光邦 東京
近藤茂直 北海道　岡田初正 愛知
佐々本幹男 宮城　清水梅吉 和歌山
矢島善夫 北海道　山田初男 北海道
昭和八年入學
青木一紀 栃木　藤田一山 梨
一ノ瀬康夫 神奈川　伊藤隆介 鹿島
中村好友 北海道　能島恒二 北海道
坂口博 長野　澤田義方 新潟
田村喜之 鹿島　田中清史 山口

佐々木源一郎 北海道　武田義雄 北海道
布施三郎 北海道　井波一郎 北海道　石坂輝久 北海道
木村茂直 北海道　倉持悦藏 秋田　近藤久四郎 北海道
中島信夫 北海道　成田愼吾 北海道　仁木義 北海道
大岩三雄 三重　大矢藤四郎 北海道　佐々木克巳 新潟
和久田弘一 愛知　山田貞三 北海道
本田恒康 東京　市原秀夫 北海道　石堀善武 秋田
加藤從尙 神奈川　岸功 青森　小池安一 神奈川
大坂四郎 秋田　大島正幸 神奈川　佐々木太志 北海道
田淵一彦 福岡　田邊金藏 東京　谷山計一郎 福島
吉藤倉三 鹿島
牟澤時郎 北海道　林養一 東京　泉彦太郎 京都
菊池家貞 宮城　小立武彦 東京　村上定夫 秋田
小谷祥二 東京　佐喜男 北海道　岡部壽 京都
下村修二 北海道　新莊成太郎 東京　武田一毅 熊本
德尾政治 東京　富田繁 北海道　吉武次郎 東京

第四部類

昭和五年入學
木下彌三吉 北海道　小島平八郎 埼玉
昭和六年入學
竹間藤一 埼玉　古川一雄 福井
本多政雄 福井　井上清太郎 神奈川
兼子貞三 山形　河原林晃 北海道
槇暄 宮城　增田佛乘 北海道
梅里幹夫 秋田　吉田弘直 北海道
昭和七年入學
青山越男 愛知　藤島一夫 東京
神俊次郎 岩手　加川幸吉 宮城
三浦壽郎 青森　仲丸由正 北海道
島岡貞一 北海道　鹽見義明 兵庫
山根武郎 鳥取　安田一次 東京
昭和八年入學
藤田武郎 東京　林田政彥 京都
川上壽一 福岡　菊間茂 群馬

長谷川誠 北海道　蓮沼源三郎 福島　廣木幸藏 福島
伊藤誠 北海道　岩橋歸一 大阪　海保和夫 千葉
木村五郎 北海道　木村保 北海道　久保田啓二 北海道
森川淳 北海道　佐川秀雄 北海道　武田義明 北海道
圖所忠則 北海道

早川貞知 北海道　林邦雄 北海道　今村博 福島
河村比良夫 愛媛　木谷利之助 東京　小林直之 長野
名取雅雄 北海道　太田嘉雄 北海道　齋藤二郎 秋田
高橋正 北海道　寺江六郎 北海道　山崎永一 北海道
吉村克彥 北海道
石田光明 福井　石塚長雄 新潟　岩田敏男 北海道
木村恒矣 北海道　木下甲子男 長野　小林吾妻 北海道

皆川　昇 北海道　百井　雅雄 北海道　中島　幸展 北海道　大谷木賢二 北海道　三戸　邦雄 北海道
鹽谷　正 北海道　首藤　清 北海道　高頭　新吉 北海道　武内　耐 北海道　富樫　正一 北海道
築城　武美 大分　上田　文雄 富山　上山　健二 北海道　山崎富二松 北海道
井上　敏夫 山形　聽講生

第七　理學部學生

數學科

第四年目
昭和五年入學
芳賀　健四郎 秋田　早川　淳三 三重　三野　艮信 香川
第三年目
昭和六年入學
穗刈　四三二 新潟　入江　盛一 北海道　掛谷　大三 廣島　佐藤　德意 北海道　高橋　仁 東京
渡邊　乙巳 山梨　安井　勳 愛媛
第二年目
昭和七年入學
蔦立　行一 北海道　堀川　掬 新潟　稻垣　武 京都　石黑　忠一 富山　加藤　元雄 愛知

南　右内 和歌山　須田　貞之 神奈川　高松　秀三 富山
第一年目
昭和八年入學
日野　利十 秋田　黑崎　達 德島　大久保　武男 福岡　奧村　敬次郎 北海道　奧山　新次 千葉
酒井　政雄 京都　田中　照道 鹿兒島

物理學科

第四年目
昭和五年入學
柳田　達三郎 北海道
第三年目
昭和六年入學
阿部　三郎 北海道　藤本　芳 北海道　古市　二郎 北海道　橘倉　勝治 長野　井上　直一 新潟
伊藤　恒三 三重　宮本　藤雄 茨城　本山　盛太郎 佐賀　永屋　省三 岐阜　酒田文右衛門 新潟
佐藤　礒之介 福島　澤田　潔 京都　植山　高志 大分
第二年目
昭和七年入學
船戶川　善哉 群馬　橋本　一二 神奈川　石野　芳二 山口　小林　晃 長野　皆川　重夫 茨城
鬼丸　俊一 福岡　常深　基 鹿兒島　關谷　甚四郎 秋田　關戶　彌太郎 石川　多田　元一 香川

山崎　四郎（和歌山）

第一年目

昭和八年入學

長谷川安之助（栃木）　清川　誠一（北海道）　小池　義夫（福島）　中村　讓次（東京）　澤田　孝士（北海道）

澤本　三郎（東京）　菅井　榮松（新潟）　高杉　直幹（青森）　山岡　義人（廣島）

化學科

第三年目

昭和六年入學

藤田　吉彦（福井）　羽里源次郎（三重）　久松一兵衛（神奈川）　伊東　健夫（東京）　金森　祥一（大阪）

三宅　邦彦（東京）　渡邊　成人（愛知）　柳瀨　正光（岐阜）　橫川　英夫（靜岡）

第二年目

昭和五年入學

平澤　直一（新潟）　北川　公雄（愛媛）　久米禮太郎（高知）　中山　弘之（東京）　成田　功（青森）

成田　正二（北海道）　大岩　皐一（長野）　齋藤　恒行（靜岡）　田村　賴二（鳥取）　關場　重房（北海道）

高橋善次郎（秋田）　竹田　悅二（德島）

第一年目

昭和八年入學

福本剛一郎（兵庫）　江面　芳郎（栃木）　平野　謙吉（廣島）　堀江　格郎（北海道）　加藤　純（東京）

小林　重一（青森）　小林昇之助（愛知）　村田　平（大阪）　錦織　美喜（高知）　奥村　重雄（大阪）

大迫　明德（東京）　若山　誠治（北海道）　山脇　正人（高知）

聽講生

金子　忠藏（千葉）

地質學鑛物學科

第四年目

昭和五年入學

大橋　鐵雄（青森）　佐藤　文男（岡山）　竹田　秀藏（北海道）

第三年目

昭和六年入學

服部　孝雄（大阪）　池上　茂雄（富山）　山内　敬信（東京）

第二年目

昭和七年入學

阿部　顯（群馬）　西田　彰一（北海道）　大脇　巖（北海道）　岡　胖（宮城）　鈴木　要（北海道）

佐々木早苗（宮城）　園木　文平（北海道）　卜部　奎一（廣島）　安田　三郎（東京）

第一年目

昭和八年入學

千葉　福壽（宮城）　石橋　正夫（秋田）　大杉　徹（靜岡）

聽講生

三本杉巳代治 福島

植物學科

第四年目

昭和五年入學

明峰　俊夫 北海道　大塚憲郷 千葉

第三年目

昭和六年入學

入野田泰夫 宮城　小立正彦 東京　奥野　俊 北海道　瀬川宗吉 岩手　田中　剛 廣島

川端清籟 群馬

第二年目

昭和七年入學

廣瀬弘幸 兵庫　金森久和 北海道　松島眞次 長野　末松　格 北海道　豐福　徹 北海道

内村家内 岩手

第一年目

昭和八年入學

加藤定吉 愛知　中村義輝 福井　村岡忠孝 東京

聽講生

原利貞 秋田

動物學科

第三年目

昭和六年入學

藤原正武 北海道　林　良二 富山　廉嶋武夫 北海道　吉條久男 奈良　楠木義明 三重

新山英二郎 山口　岡田一次 兵庫　岡田　儁 兵庫　島木喬一 富山

第二年目

昭和七年入學

平崎菊太郎 富山　石渡達六郎 東京　柏木日出男 北海道　國弘　動 山口　白戸一正 青森

山崎芳夫 秋田

第一年目

昭和八年入學

藤田　康 東京　金澤潤助 秋田　河合三郎 香川　松井陽三 長野　大森順 東京

大野量平 愛媛　飯塚章 宮城

第八　豫科生徒

第三學年

英語學級　A組

阿部久也 北海道　渥美陵彦 北海道　粟澤二三男 山梨　伊達信義 東京　平賀即稔 福島
星野達三 北海道　藤田正美 北海道　池内武夫 北海道　伊藤信夫 新潟　北村武重 高知
兒玉宗敏 宮崎　小岩武 北海道　小宮書之助 福岡　前田正敏 福岡　前野正久 兵庫
增井七雄 鹿兒島　宮澤正宣 新潟　南部直富 青森　四富士太郎 北海道　佐伯千春 島根
齋藤知行 北海道　佐藤正千代 新潟　曾我雅人 神奈川　高嶋村健典 山口　角寧 北海道
鈴木直治 神奈川　高野又一 北海道　德永十四男 群馬　富田彰 埼玉　渡邊一郎 山形
渡邊將 山形　山吹一藤男 北海道　山田精一 北海道　山本秀郎 岩手　米城孝治 宮城
湯淺楠敏 大阪

英語學級　B組

阿部撰一 北海道　阿坐上信治 北海道　原田直喜 福島　波多野弘 岩手　平野孝二 京都
飯田隆 北海道　今井謙三 山形　稻垣長典 愛知　稻本武雄 北海道　井上康雄 福岡
石川正春 秋田　岩井巖 北海道　貝塚久夫 神奈川　木村茂 青森　香宗我部修 東京
三上馨一 宮城　宮下雄吉 北海道　本野正一 京都　中村三郎 北海道　中野正彦 北海道
西圭一 神奈川　西村直祐 京都　岡田重治 兵庫　大河內正明 東京　大幸正二 石川
大山恭夫 鳥取　嵯峨隆 北海道　佐久間大三 佐賀　佐々木忠 秋田　佐藤昭 東京

澁谷周平 新潟　竹浪秀明 北海道　豐山千薩 青森　和田源二郎 北海道　徐光鉉 臺灣

英語學級　C組

安達忠雄 北海道　阿出川正雄 東京　淺野秀雄 愛知　土居健一 宮城　井口眞造 新潟
入江勝 北海道　柏原敏夫 北海道　糟谷武輝 兵庫　加藤百一 愛知　國分貞雄 宮城
洪達善 朝鮮　河內山計治 山口　工藤元 北海道　管孝男 北海道　前田三郎 北海道
丸杉孝之助 鹿兒島　松野政吉 北海道　水澤魁郎 新潟　宮田泰 北海道　村瀨信雄 北海道
中村正直 宮城　中野舜司 北海道　奧田五郎 北海道　佐藤園 福島　仙田久芳 北海道
澁谷紀起 北海道　下村孝三郎 東京　高松重親 東京　卜部清 兵庫　山本沈 北海道
山崎壽 鹿兒島　柳內正二 北海道　矢田興之助 北海道　吉田豐 北海道　吉川不二夫 長野
吉宮幸彥 北海道

英語學級　D組

相庭亘光 北海道　荒井千秋 長野　遠藤佐武郎 北海道　本田徹 鹿兒島　藤原敏雄 北海道
深澤正一 北海道　福原三郎 青森　池田弘 北海道　井上享 北海道　砂金正男 北海道
鎌谷士 北海道　龜井敏郎 東京　黑澤亘雄 北海道　松木秀司 北海道　松永春雄 群馬
松下政敏 北海道　三井瑞穗 北海道　森田義育 北海道　村岡成人 東京
中村吉男 富山　並河敏 新潟　西田稻次郎 北海道　小田桐正一 北海道　小川博三 岩手
太田正二 山形　落合忠七 北海道　櫻井豐三 北海道　佐藤信之丞 北海道　佐藤肇 北海道
關崎章一 北海道　島村健次郎 東京　菅谷弘 山形　周參見賢四郎 和歌山　竹內毅 長野
橘忍 北海道　山島正一郎 京都

英語學級　E組

相上讓一 北海道　秋澤政雄 北海道　花岡浩 長野　平野吉夫 愛知　平手久之助 北海道
細沼德太郎 東京　福島正雄 北海道　古川太郎 福岡　池盛秀 鹿兒島　今井秀夫 栃木
猪股登 山梨　石黒吉治 北海道　板垣正男 山形　伊藤一正 北海道　木村晃 埼玉
北川重二郎 北海道　熊谷不二雄 青森　森田榮哉 秋田　村田正元 北海道　長井啓二 北海道
中村作太郎 山形　小笠原義顯 和歌山　尾池英夫 香川　岡新次 福井　岡本保雄 神奈川
折原偉佐夫 群馬　佐藤健六 北海道　佐藤十五郎 北海道　下河原壽男 北海道　須田誠 宮城
高木貫一 北海道　高橋政治 秋田　竹崎忠雄 福島　當銀清一 北海道　脇坂博貴 北海道
山口武雄 北海道

英語學級　F組

阿部左久也 山形　安藤昭男 北海道　畑生和雄 福岡　畑谷正實 北海道　服部正一 北海道
本間三郎 北海道　石川正男 北海道　樺島正二 東京　加勢清志 北海道　加藤茂夫 北海道
河原淑郎 石川　北村誠一 新潟　近藤清一 北海道　倉重正武 東京　黑川正一郎 北海道
前野貫久 兵庫　深山壽夫 北海道　毛利鍵一 東京　森芳夫 北海道　盛田五一 北海道
中黑成五 石川　中村小彌太 東京　中村正 北海道　西川次郎 和歌山　岡田道太郎 三重
櫻居志郎 北海道　佐藤文造 岩手　重松敏夫 北海道　繁富一雄 北海道　鹽澤清 大阪
白鳥・正紀 北海道　城座正明 北海道　末崎輝雄 北海道　鈴木憲三 宮城　東條元 千葉
津田元信 福岡　宇川彰 長野

獨語學級　A組

遠藤莊一郎 秋田　深井謙輔 埼玉　益田祐治 山口　松村猛夫 東京　岡部健吉 山形　小野彌久 福島　堺進 北海道　志村達夫 山梨　山田稔 北海道　山川普 福井
樋渡喜一 福島　金上弘 青森　中村與一郎 北海道　大浦直二郎 北海道　坂本鷹雄 佐賀　珠玖捨男 愛知　山本太喜 岐阜　外園武夫 宮崎
小泉泰一 北海道　中里和夫 山形　大脇健介 北海道　佐藤忠昭 東京　照井孝太郎 秋田　弓創德三 北海道

秋田重秋 北海道　花井新之 静岡
藤田藤雄 北海道　鎌田元得 山形
近藤祐一 山形　益田祐治 山口
仁保正次 新潟　岡部健吉 山形
越智泰登 島根　齋藤完一 栃木
芝田實 千葉　志村達夫 山梨
土田寅夫 秋田　山田稔 北海道

獨語學級　B組

阿部明 鳥取　天辰千城 北海道　羽田幸雄 東京　原岡壬吉 大分　林路彰 北海道
久永二郎 静岡　本間吉一 北海道　藤原徹太郎 岡山　池田滿穗 山形　加藤彬芳 神奈川
小林勇 山形　松山晃夫 和歌山　水落善文 和歌山　三島信二 北海道　長濱文雄 北海道
中井實 北海道　大久保進 北海道　大野四郎 茨城　大内康夫 福島　佐藤弘隆 宮城
篠原正幹 北海道　須藤久 北海道　高橋新吾 北海道　高山英美 秋田　寺木忠 北海道
鳥海正三 千葉　戸澤郡八郎 東京　浦田儀助 静岡　臼井信男 岐阜　和田康夫 東京
山本悌三 北海道　吉田正敏 北海道　吉武正司 秋田　遊座文治 茨城

第二學年

英語學組　A組

足立龍愛 鳥取　間悌三 新潟　青木弘 北海道　大刀豐 北海道　樋口眞 神奈川
平松逸二 北海道　深倉好美 北海道　飯田毅 宮城　池善英 新潟　今村一喜 廣島

井上　武（東京）　石井昌長（北海道）　石渡郁夫（神奈川）　伊藤祐壽（島取）　岩崎寬治（北海道）

加太孝男（東京）　加藤修二（秋田）　川島次夫（東京）　金　命午（朝鮮）　小玉資雄（北海道）

小山智雄（鹿兒）　小島寬（北海道）　前川靜彌（奈良）　水谷正憲（福島）　三村耕（北海道）

森　新吉（香川）　大泉正尙（北海道）　鈴木德彌（神奈川）　齋藤隆一（北海道）　佐藤錠二（宮城）

曾我俊一（岐阜）　杉穎夫（東京）　高橋信也（宮城）　武田武臣（樺太）

武內英男（北海道）　黑葛原精一郎（東京）　田下英治（北海道）　上田虎夫（大阪）　神英雄（北海道）

英語學級　B組

羽賀正（新潟）　福地文平（北海道）　井上琢司（群馬）　石橋泰一郎（岡山）

原現吉（東京）　石井彰（北海道）　岩田摧三郎（大阪）　加治眞（北海道）

一浦興一（京都）　伊藤周一（秋田）　狩野仁吉（宮城）　小林正董（北海道）

甲斐武正（宮崎）　金子長興（愛知）　新野政治（宮城）　酉村正（北海道）

鎌田壽一（鳥取）　長澤嘉松（北海道）　齋藤元一（北海道）　佐藤健次郎（岩手）

楠　隆（新潟）　奧田時哉（岡山）　杉山緣（宮城）　鈴木敏夫（千葉）

岡澤廣二（東京）　菅野盛一（東京）　田野崎圀夫（岩手）　斗ヶ澤宣久（岩手）

關根頗堯（埼玉）　田中良一（北海道）　山村利夫（京都）　山中敏夫（京都）

高橋喜夫（東京）　竹內榮一（北海道）　廣瀨可恒（兵庫）　一柳直通（樺太）

富岡治郎（秋田）　津中治（大阪）　和泉守衛（新潟）　飯塚馨（群馬）

山谷幸之助（北海道）　渡邊杉吉郎（島取）　藤本周（岡山）　藤井一夫（鳥取）

英語學級　C組

安藤四郎太（三重）　濱崎好美（鳥取）

堀川平四郎（北海道）　濱田輔一（北海道）

飯久保昌一（兵庫）　石崎七郎（愛媛）　伊東三郎（千葉）　金口量多（鹿兒島）　川浪重四郎（東京）

小島眞（鹿兒島）　小林國夫（三重）　永野宗（宮城）　中埜章吉（愛知）　中澤孝信（北海道）

小村逸夫（島根）　太田嘉四夫（岡山）　齋藤敬三（宮城）　坂本喬（青森）　佐藤宗光（北海道）

澤田滿雄（北海道）　澁江東雲（長崎）　園田治三郎（東京）　外岡毅男（神奈川）　須田虎雄（北海道）

末松和彥（北海道）　菅沼進幸（北海道）　鈴木啓介（愛知）　高橋俊行（東京）　高井久芳（新潟）

高田虎之助（東京）　田中新二（京都）　山下正亮（北海道）　安田虎一（石川）　安井三郎（岡山）

英語學級　D組

阿部一貞（北海道）　土居正典（高知）　堂垣內尙弘（北海道）　江口勝（北海道）　飯塚廣人（北海道）

飯島友夫（長野）　石橋正隆（岡山）　石田正一（北海道）　石川文雄（北海道）　伊藤計三（山形）

金森久良（北海道）　片岡文雄（北海道）　加藤越夫（山形）　木村信郎（栃木）　紀國谷芳雄（北海道）

北林保正（北海道）　小谷嘉香（北海道）　三宅健一（德島）　宮本勇（北海道）　宮田進（北海道）

門前弘道（岩手）　永井惣吉（新潟）　奈良動（東京）　四島國造（北海道）　野村秀行（東京）

大橋康次（北海道）　大久保和彥（三重）　佐々木倫太郎（北海道）　杉山正俊（愛知）

高橋靜雄（北海道）　高田豐（北海道）　殖栗誠司（新潟）　關亨（福島）　渡邊達郎（北海道）　山內喜四郎（和歌山）

吉田富穗（岩手）

英語學級　E組

荒木理（兵庫）　本多賢輔（愛知）　細谷哲郎（宮城）

深谷龍太（北海道）　堂前正（北海道）　碇山昇（神奈川）　石井芳夫（北海道）　石渡正雄（東京）

伊藤陸三（鹿兒）　五十嵐芳雄（山形）　梶田文雄（北海道）　角坂仁忠（新潟）　加藤春雄（石川）

伊藤長次（岡山）

川村勇 兵庫　貴志和男 北海道　古林正章 北海道　松本正 北海道　三谷光雄 北海道
三浦祐世 北海道　三宅節二 岡山　村田正武 北海道　小原敬助 岩手　岡村一雄 北海道
澤田市郎 石川　島庄司 北海道　島崎英一 長野　諏訪善綱 秋田　高橋淳二 北海道
谷口勇 北海道　立花文勝 兵庫　田島喜好 福井　矢部功彦 東京　藪内清三 福島
遊佐義寛 和歌山　神勁 東京

英語學級 F組

阿部英一 群馬　大樂敬知 京都　權平守司 新潟　福井博 福岡　福島久雄 北海道
平野新治 東京　飛舖洋三郎 東京　鎌田賢次 山形　加藤博俊 北海道　川島游 岡山
伊勢春雄 北海道　石井守政 神奈川　小谷幸雄 東京　宮木宗威 北海道　中山敏雄 北海道
野坂純三 北海道　小田靜夫 北海道　坂弘次郎 北海道　小笠原正三 北海道　岡本敏一 福島
大泉淳 東京　大柿諒 北海道　佐々木一郎 樺太　佐藤清一 北海道
澤田眞嘉 北海道　杉本保冶 北海道　鈴木安夫 宮城　高橋健二 東京　高野孝 茨城
田中五郎 鹿兒島　辻重信 北海道　上原肇 靜岡　渡邊光 茨城　山口勇次郎 北海道
山高克郎 愛知　由宇大作 兵庫

獨語學級 A組

阿部英一 群馬　天野義也 青森　荒木弘郎 茨城　伴次郎 北海道　合掌義二 福井
平野新治 東京　飛舖洋三郎 東京　福居重雄 北海道　飯田正衛 新潟　池田實 熊本
伊勢春雄 北海道　石井守政 神奈川　神部弘二 神奈川　笠松繁雄 北海道　岸本三郎 北海道
宮内紀之助 新潟　長島勇雄 新潟　四堀東治 北海道

野口恂 北海道　大野辰雄 福島　大島壽男 栃木　佐藤一彦 樺太　佐藤玉治 秋田
澤田哲治 秋田　島田善範 北海道　新谷政治 北海道　篠川均 富山　鹽田浩政 東京
白石祐義 宮城　杉田守忠 北海道　鈴木泰藏 秋田　高橋照信 東京　武田勝見 福島
德中祐二 石川　上田直紀 北海道　渡邊正義 千葉　柳本貞夫 北海道　屋代英也 山形

獨語學級 B組

阿部克衛 岩手　雨宮義文 山梨　青山亮 秋田　遠藤季雄 宮城　箱石昇司 岩手
濱里泰 長崎　本田迪康 東京　細越正一 北海道　石倉肇 北海道　石崎學 神奈川
岩治觴男 福井　嘉戶達也 島根　笠間尙武 神奈川　加藤輝雄 山形　小泉勝雄 秋田
近藤秀夫 愛媛　熊倉中栃木　草地正三 北海道　南浦邦知 岩手　宮田久壽 神奈川
森鼻正美 兵庫　中村龍策 山口　沖幸一 廣島　小野淳信 福島　大原融 廣島
佐久間均一 福島　佐々木高光 北海道　佐藤誠一 福島　滋賀秀正 東京　菅原義一 北海道
鈴木桂 靜岡　高橋秀雄 北海道　武山泰一 宮城　田嶼行平 福井　富永一 東京
豐田哲夫 香川　上山育郎 兵庫　山崎武夫 岐阜　橫道武雄 北海道　橫內敬一郎 北海道

第一學年

英語學級 A組

赤羽紀雄 和歌山　荒川宗一 北海道　原田宏 大分　日淺洋太郎 福岡　星泰夫 北海道
池田豐一 福島　伊藤恭五郎 秋田　菊池修二 岩手　小林義廣 北海道　今盛次 北海道
今野徹男 山形　小鹽進作 北海道　眞島勇雄 山形　湊正雄 北海道　三股一夫 北海道
三浦淳史 北海道　宮崎清 奈良　長井三四彥 北海道　長沼勇 秋田　中榮欽吾 石川

中村洋吉 北海道　中島信次 北海道　岡　昌 東京
齋藤榮 北海道　佐々木源左衛門 宮城　佐藤宏 北海道
菅沼保治 愛知　田所逢雄 秋田　武井茂夫 千葉
玉谷武夫 北海道　田中克 北海道　谷口正太郎 栃木

英語學級　B組

阿部效一 北海道　足立辰雄 鳥取　朝比奈英三 東京
林敏雄 青森　飯守三郎 和歌山　池田博 石川
石川正吉 山形　伊藤民男 北海道　柏木季雄 群馬
菊池三郎 東京　小林連一 秋田　兒島修三 東京
三浦清 東京　長嶺安則 秋田　中野富雄 京都
小野寺友二 宮城　大爺榮一 岡山　齋藤長一 北海道
笹原二郎 北海道　佐々木信夫 北海道　鈴木悅郎 鹿兒島
脇坂諦憲 北海道　渡部正三 廣島　山下正典 北海道

英語學級　C組

明峯英夫 北海道　安藤忠次 東京　青木亮 山口
星勇 福島　細川定治 北海道　藤田孝郎 東京
井藤久夫 富山　小林剛三 京都　草薙碩夫 香川
目黒直温 長崎　長澤太郎 北海道　中田直敏 栃木
小川正晃 北海道　登喜郎 三重　小野寺卯 北海道

長谷川潔 北海道　服部輝一 三重　奥山晃三 北海道
今關克巳 千葉　今任重彦 福岡　末永美隆 福岡
加藤雅量 廣島　川村眞 東京　瀧澤義郎 新潟
熊澤正三 愛媛　松森敏雄 岡山　山口甚三郎 新潟
小田昇 北海道　岡村七二郎 秋田
坂尾英一 北海道　先本勇吉 北海道
高島顯二 東京　塚本隆一 福岡
安井光太郎 島根

林實 北海道　平井季夫 奈良
深味春輝 秋田　井田豐秋 埼玉
草島喜三彌 北海道　牧野忠夫 東京
中川正義 北海道　成田朋人 宮城
坂部英夫 愛知　坂井稔 廣島

瀨戸三郎 北海道　菅野靜馬 福岡　高橋弘 東京
富永資文 香川　富塚讓次 秋田　友枝幹夫 福岡
横田長光 新潟　米坂龍男 北海道　米屋勉 北海道

英語學級　D組

穴釜正吉 北海道　唐田一郎 北海道　布施敞一郎 神奈川
伊藤吉郎 北海道　岩田榮藏 北海道　柿崎英一 青森
笠原貢男 福井　笠間伊三雄 北海道　川島宏一 北海道
小林一雄 埼玉　近藤重喜 北海道　倉上幹雄 埼玉
申村齊 北海道　根田道郎 兵庫　野口正勝 北海道
佐藤一義 宮城　關口正興 埼玉　鹿野達三 東京
玉澤廣 山口　田中行男 北海道　田瀨春三 北海道
吉本千禎 福井　遊佐志治磨 北海道

英語學級　E組

荒井格 茨城　後藤正久 山形　島山貞男 北海道
本多晨也 福島　細見憲吉 兵庫　船山榮一 山形
石原敬三 神奈川　石戶谷信 青森　伊東正信 兵庫
小森豐 福島　併口正雄 新潟　松田義久 北海道
申村衆夫 北海道　申野勇 北海道　荻原信悟 鳥取
酒澤勇二郎 兵庫　三箇清治 北海道　佐藤正二 北海道

五十嵐清 北海道　石積景玉 北海道　服部博太郎 北海道
金曾吉夫 北海道　金吉正義 北海道　平松壽 大阪
木村一郎 茨城　北川彌 愛媛　今川晃 廣島
倉澤宗男 長野　中川精一郎 新潟　石田登穗 福井
小野二郎 福島　佐々木武基 埼玉　紙谷芳明 北海道
末廣貢介 北海道　高橋清吉 岩手　古田土肇 栃木
吉田孝作 富山　吉井周雄 東京　中井信孝 島根
齋藤武 岩手
關川禮三 新潟
關口精一 北海道

芝原浩島根　澁川正嘉北海道　紫雲千鶴雄三重　末廣英二北海道　高橋俊弘北海道
吉田徹郎北海道

英語學級F組

味村照夫北海道　安生三雄栃木　青田義雄福島　坂内昌夫新潟　藤島則夫東京
藤田穎雄北海道　藤原健一北海道　猪瀬正夫茨城　石田正巳北海道　上遠野孚東京
川俣壽榮雄北海道　近藤悌藏山形　倉田宗章北海道　守部政喜北海道　永井康北海道
中村稔兵庫　仲谷泰吉北海道　岡田勝愛媛　沖田利夫北海道　大石壽雄東京
大倉武雄東京　齋藤正景東京　篠田修吉東京　篠原敬三北海道　諏訪貞雄北海道
鈴木初次群馬　高田慶北海道　武田泰政北海道　竹内靖北海道　玉村榮二東京
鳥山正雄宮城　卜部昭典廣島　柳澤三郎新潟　安井寬治北海道　吉田哲夫大阪
湯川龍二北海道

獨語學級A組

林田真治北海道　平池正北海道　平野五郎新潟　檜山登北海道　藤山大藏山形
井戶垣強北海道　飯塚義彥秋田　伊藤祐一宮城　上西清治北海道　片山真一愛知
兒玉侍郎北海道　桑原麟兒大分　松田一郎北海道　水島留雄栃木　村上眞士廣島
永井寅男北海道　奈良勝典北海道　新逸東太郎廣島　荻野辰夫群馬　長村善臣大分
長內孝北海道　島影琢磨北海道　進藤惠一北海道　白石忠雄福島　田原興三吉新潟
高久芳衛栃木　田中豐典北海道　寺尾義人東京　常葉彰神奈川　梅原誠東京
魚住二郎北海道　臼淵勇北海道　和田武雄北海道　渡邊初男北海道　矢倉安太郎北海道

山崎勝郎北海道　安田豐登廣島　城進次東京

獨語學級B組

羽田春兎千葉　長谷川汪東京　林田信男福岡　藤岡勇北海道　船川幡夫兵庫
池田洋二神奈川　掛川康次北海道　片山球磨晉　加藤久太北海道　木野隼吉東京
池田晧北海道　小松三郎東京　宮澤秀之北海道　持尾長年福岡　寥倉元北海道
長岡一雄山形　長島新東京　中井義仁北海道　南部正次北海道　荻田友雄大阪
奥平作五郎東京　小野江爲則岐阜　大鐘晶靜岡　大原遙廣島　大野公吉東京
相良丈夫奈良　齋藤利信東京　佐々木龍藏青森　佐藤龍雄北海道　清水勝美北海道
鈴木幸期靜岡　高橋德明福島　田中正之北海道　館江希秀神奈川　角田國光群馬
植竹久雄神奈川　若杉虎生新潟　渡邊正二北海道

第九　附屬土木專門部生徒

第三學年

赤池文美北海道　荒木元治北海道　荒谷正輝北海道　長谷川守北海道
本田茂福島　深澤一男福島　伊黑正次山形　伊藤正北海道　岸本一郎北海道　平野吉之助新潟
小宮山茂北海道　永井正治北海道　中村松次郎北海道　二木喜藏北海道　西野茂北海道
野口正三秋田　能登屋二男北海道　小笠原幸一北海道　小川重行岩手
大西宗孝北海道　大沼忠雄北海道　小田切善英秋田　齋藤由次郎北海道　小塚清重北海道　佐藤一郎宮城
佐藤保之北海道　關根正北海道　大塚清重北海道　若崎三千三北海道　矢葺武雄北海道
海野衛福島

吉田正元 鹿島　吉野正 新潟

第二學年

合田勝 北海道　原田敏郎 北海道　福山幹夫 北海道　石田一夫 北海道　石井郁夫 島取
伊東三郎 長野　金田政雄 北海道　柏谷昌雄 北海道　川村克實 北海道　小山勇 北海道
國門顯章 石川　榊谷規義 北海道　宮城料一 北海道　宮本芳英 北海道　宮地正人 北海道
中村定雄 北海道　中田興四郎 岩手　大賀滋樹 鹿岡　大木正雄 北海道　齋藤博 北海道
佐藤利春 北海道　島恒 岩手　坪内三千三 北海道　豐島修一 北海道　山谷冽 北海道
横山要太郎 北海道　米村武憲 鳥取　吉田三郎 茨城

第一學年

伸鉢彌志治 山形　堀謙治 北海道　星野彰 北海道　生田穰 北海道　今井芳雄 新潟
石金清美 北海道　一戸正典 北海道　伊東達雄 北海道　岩淵二郎 宮城　鎌田哲 北海道
宮川勇 新潟　宮野稔 秋田　盛藤久清 北海道　室谷正夫 北海道　仁科淳 北海道
野口典夫 北海道　大野正俊 北海道　佐藤武 北海道　鹿野三郎 北海道　島田鶴雄 北海道
尖戸仁 岩手　田畑紀八郎 北海道　竹內康和 北海道　丹龍三郎 北海道　田島敏男 北海道
山田辰信 北海道　山口龍典 新潟　山內浩 北海道

第十　附屬水產專門部生徒

漁撈科

第三學年

阿部敏雄 富山　北畠金治 島根　溝口浩一 鹿岡　西川義弘 愛媛　興津武雄 大分
大場正一 北海道　大高兼太郎 青森　坂井武嗣 新潟　重田芳二 神奈川　杉山正直 神奈川
鈴木武雄 香川　吉田陽 沖繩特　高尙志 中華

第二學年

遠藤忍 宮城　古橋武男 愛知　星野遷 東京　飯塚勝 群馬　池口山三 兵庫
今井尙信 富山　神谷忠春 北海道　增川敏郎 北海道　中川一三 大阪　乘松惟基 京都
尾崎辰次 愛知　齋藤敏郎 愛知　佐藤新一 鹿島　志村忠一 神奈川　神藤虎一 愛知
鈴木義彥 愛知　武田初男 山形　土岐英一 鹿岡　德丸潮 熊本　戶田爲一 廣島
富永伊喜松 佐賀

第一學年

青木孝允 鹿岡　土井豐治 北海道　遠藤角之助 鹿島　羽根田功一 鹿島　石川啓介 岩手
小林敏郎 新潟　佐藤與四彥 北海道　志賀滿義 鹿島　澄谷二郎 北海道　鈴木守雄 鹿島
高野正三 神奈川　時岡晋一 鹿井　鶴田克人 熊本　土屋俊夫 大阪　碓井淳 鹿岡
山下喜佐雄 和歌山　吉田慶治 鹿岡

研究生

符俊 中華

養殖科

第三學年

秋葉万次郎 茨城　衛藤信光 大分　東　周 山口
今井晴一 北海道　小寺周一 東京　升田清 北海道　平野盛生 香川　星野克己 北海道
本山禮三郎 新潟　小串次郎 三重　近江彦榮 石川　種田俊彦 樺太　三原健夫 北海道　山本眞雄 山口

第二學年

青木五郎 埼玉　江口弘 北海道　日高荒勝 福岡　飯田毅 北海道　石丸寛 新潟
市川波衛 長野　出光仁 福岡　木村翁 愛知　小林廣治 岩手　益子種次 茨城
牟田正邦 長崎　岡本晳雄 新潟　酒井定夫 北海道　櫻田一男 香川　佐藤榮 北海道
高橋和夫 千葉　高山忠美 福島　武田一雄 長野　富田弘 埼玉　八幡武 島根

第一學年

雨宮武夫 山形　稻葉忠明 福井　伊藤健治郎 秋田　川井義久 富山　川村輝夏 北海道
高坂覺男 長野　前田三郎 兵庫　村上英雄 山形　中山忠衛 富山　小野寺弘 宮城
李壬道 朝鮮　佐藤入郎 愛知　佐藤修 福島　佐藤隆平 岩手　竹田政雄 新潟
武田重秀 山形　武井保 群馬　渡邊強治 大分　山平喜一郎 秋田　吉田保一 福島
特張乃高 中華

製造科

第三學年

阿部力雄 宮城　榎本光一 福岡　廣瀨武雄 北海道　今西原康一郎 愛知　川面洋司 三重
今京平 東京　藏幸隆 北海道　草野壬子雄 福島　益子四郎 栃木　中川三雄 北海道
中澤威 北海道　西脇中玉郎 高知　新谷泰造 北海道　鈴木七郎 宮城　竹谷孫橘 北海道
二和島入郎 石川　箭島保 山口　吉田實 北海道　吉田長太郎 北海道

第二學年

土井秀夫 大阪　石田孝志 福岡　伊關榮 福島　岩垂守 長野　木坂健次 石川
岸川清夫 佐賀　城所一民 愛知　小林五十雄 北海道　小林敏之助 愛知　小山左馬太 北海道
紺野重忠 福島　水野清 福島　望月徹 北海道　中山伊佐美 新潟　四東成昌 北海道
佐藤清 北海道　設樂正男 北海道　竹花毅 岩手　垂井正藏 兵庫　吉田正一 兵庫

第一學年

青木慧士 新潟　荒木功 香川　綾部正信 宮崎　林茂 岐阜　福島誠 福島
石黑信義 北海道　岩垂亨 長野　兒玉久 山口　石川靜宏 秋田　今寬藏 北海道
能登谷富雄 青森　佐藤光司 北海道　島六郎 福島　鈴木實 北海道　高谷善夫 北海道
竹內昭 北海道　武澤健 北海道　玉置琢磨 北海道　谷藤四郎 北海道　吉田伍郎 熊本
特焦才賢 中華

○學生生徒諸表

學生生徒現在數

種別	大學院學生	三年目又ハ三學年	二年目又ハ二學年	一年目又ハ一學年	選科生	聽講生又ハ特別生	計
農學部 農學科		二八	二三	二三	三		七七
農業經濟學科	一	一五	一六	一五			四七
農業生物學科	一	六	七	五	二		二一
農藝化學科	五	二四	二一	二五	一		七六
林學科		二一	八	一三			四二
畜產學科第一部		一五	一三	一二	二		四二
畜產學科第二部	一	一〇	七	七	一	一	二七
小計	八	一九	九五	一〇〇	九	一	三三
農學實科		二七	二六	三三			八六
林學實科		二五	二八	三三			八五

種別	大學院學生	昭和二年入學	昭和三年入學	昭和四年入學	四學年	三學年	二學年	一學年	專攻生	計
醫學部	八	三	一							
	八	六〇	六五	六九	六九	八				二九〇

種別	大學院學生	昭和二年入學	昭和三年入學	昭和四年入學	昭和五年入學	昭和六年入學	昭和七年入學	昭和八年入學	聽講生	計
工學部 第一部類					五	一五	二五	二五	二五	八一
第二部類				一	一六	一五	一三	二〇	二五	五五
第三部類		一	二	一	四	二四	二三	二五	二四	八〇
第四部類					二	二三	二四	二四	二四	七三
小計	二	一	二	二	一七	八七	八五	九四	一	二九〇

種別	大學院學生	三年目	二年目	一年目	聽講生	計
理學部 數學科	一	三	七	八	七	二六
物理學科		一	一三	一一	九	三四
化學科	二		九	一三	一	三七
地質學鑛物學科		三	三	九	一	一九
植物學科		二	六	六	一	一八
動物學科			九	六	七	二二

種別	三學年	二學年	一學年	研究生	特別生	計
學級	二一七	二三一	二三七			六七五
科	六九	八〇	七六			二二五
計	二八六	三一一	三〇三			九〇〇
附屬土木專門部	三三	二八	二八			八八
附屬水產專門部 漁撈科	一七	三一	一三	一	一	五二
養殖科	二〇	二〇	一六		一	五七
製造科	二〇	二〇	一九		一	六〇
小計	五七	六一	四七	一	三	一六九
合計						二、三一五

學生生徒年齡調

種別	年目又ハ學年	最大	最小	平均
大學院		年 月 四二・一〇	年 月 二三・〇二	年 月 二八・〇二

種別	年目	最大	最小	平均
農學部 農學科	第一年目	二八・〇六	二三・〇二	二四・〇五
	第二年目	二七・〇五	二〇・〇五	二二・一一
	第三年目	三〇・〇九	二一・〇五	二四・〇二
林學科	第一年目	二八・〇五	二一・〇五	二三・〇八
	第二年目	二五・〇五	二一・〇五	二三・〇九
	第三年目	二四・〇〇	一九・一一	二三・〇八
農藝化學科	第一年目	二四・〇五	二一・〇五	二三・〇六
	第二年目	二四・一〇	一九・一一	二三・〇五
	第三年目	二七・〇八	二一・〇五	二三・〇六
農業生物學科	第一年目	二四・〇五	二〇・〇三	二三・〇三
	第二年目	二七・〇三	二一・〇五	二四・〇六
	第三年目	二四・〇四	二〇・〇五	二三・〇六
農業經濟學科	第一年目	二六・〇三	二〇・〇三	二一・一〇
	第二年目			
	第三年目			

	畜産學科第一部	第三年目	二六・〇九	二一・〇五	二四・〇一
	畜産學科第一部	第二年目	二四・〇四	二〇・〇三	二三・〇一
	畜産學科第一部	第一年目	二四・一一	一九・一〇	二一・〇八
	畜産學科第二部	第三年目	二五・一〇	二一・〇四	二三・〇四
	畜産學科第二部	第二年目	二四・〇四	二〇・〇五	二三・〇〇
	畜産學科第二部	第一年目	二一・一一	二〇・〇五	二一・〇五
	農學實科	第三學年	二六・〇〇	一九・〇五	二三・〇一
	農學實科	第二學年	二四・〇三	一八・〇五	二〇・〇一
	農學實科	第一學年	二一・〇五	一七・〇四	一八・〇〇
	林學實科	第三學年	二三・一一	一九・〇七	二一・〇二
	林學實科	第二學年	二三・〇七	一八・〇五	二〇・〇一
	林學實科	第一學年	二一・〇〇	一七・〇五	一八・〇五
醫學部		第四學年	三二・〇九	二三・〇四	二五・〇四
醫學部		第三學年	二九・〇三	二一・〇四	二三・一一
醫學部		第二學年	二八・一一	二〇・〇二	二二・〇七

醫學部		第一學年	二五・〇二	一九・〇二	二一・〇五
工學部	第一部類	第七年	二七・一一	—	—
工學部	第一部類	第四年	二七・〇〇	二三・〇〇	二五・〇八
工學部	第一部類	第三年	二七・〇一	二一・〇三	二三・〇二
工學部	第一部類	第二年	二九・〇六	二一・〇二	二三・一一
工學部	第一部類	第一年	二三・〇七	二〇・〇三	二一・〇七
工學部	第二部類	第五年	二六・〇一	—	—
工學部	第二部類	第四年	三二・〇四	二三・一〇	二六・〇二
工學部	第二部類	第三年	三〇・〇五	二三・一〇	二五・〇一
工學部	第二部類	第二年	二六・〇一	二二・〇二	二二・一〇
工學部	第二部類	第一年	三三・〇二	二〇・〇四	二三・〇二
工學部	第三部類	第七年	二七・〇五	—	—
工學部	第三部類	第六年	二八・〇四	二七・〇九	二八・〇〇
工學部	第三部類	第五年	二七・一一	—	—
工學部	第三部類	第四年	二六・〇三	二四・〇七	二五・〇五

工學部		第三年	二六・〇七	二一・〇九	二五・〇七
		第二年	二八・〇七	二一・〇四	二三・〇九
		第一年	二六・一〇	二〇・〇五	二三・〇三
	第四部類	第四年	二六・〇四	二六・〇六	二六・〇五
		第三年	二五・〇一	二一・〇三	二四・〇九
		第二年	二七・〇一	二一・〇二	二三・一一
		第一年	二五・〇八	一九・一一	二〇・〇七
	數學科	四年目	二三・〇九	二三・〇七	二三・〇三
		三年目	二七・〇四	二四・〇八	二一・〇九
		二年目	三〇・〇八	二三・〇一	二四・〇六
		一年目	二三・〇二	一九・一〇	二一・〇五
	物理學科	四年目	二八・一一	二八・一一	二八・一一
		三年目	二六・〇三	二一・〇四	二三・〇九
		二年目	三五・〇七	二一・〇一	二四・〇八
		一年目	二五・一〇	一九・〇八	二二・〇五

理學部	化學科	三年目	二七・〇六	二一・〇〇	二二・一一
		二年目	三〇・〇七	二〇・〇二	二四・一一
		一年目	三二・〇三	二〇・〇三	二三・〇五
	地質學鑛物學科	四年目	二八・〇四	二四・〇四	二五・〇八
		三年目	三三・〇七	二三・〇二	二三・〇四
		二年目	二六・〇二	二一・〇三	二四・〇二
		一年目	二七・〇五	二〇・〇六	二三・〇〇
	植物學科	四年目	二九・〇四	二三・〇二	二六・〇三
		三年目	二九・〇〇	二三・一一	二五・一一
		二年目	二〇・〇九	二四・〇二	二二・〇〇
		一年目	二四・〇九	二〇・〇二	二二・〇六
	動物學科	三年目	二五・〇五	二一・〇二	二三・〇二
		二年目	二八・〇〇	二三・〇二	二三・〇九
		一年目	二五・〇七	二一・〇八	二三・〇五
		第三學年	二四・〇四	一八・〇三	二〇・〇二

豫科 第二學年	豫科 第一學年	附屬土木專門部 第三學年	附屬土木專門部 第二學年	附屬土木專門部 第一學年	水產專門部 漁撈科 第三學年	水產專門部 漁撈科 第二學年	水產專門部 漁撈科 第一學年	水產專門部 養殖科 第三學年	水產專門部 養殖科 第二學年	水產專門部 養殖科 第一學年	水產專門部 製造科 第三學年	水產專門部 製造科 第二學年	水產專門部 製造科 第一學年
二三・〇四	一七・〇五	一九・〇五	二三・〇六	二九・〇六	二四・〇二	二四・〇一	二〇・一〇	二二・一〇	二一・〇五	一八・一〇	二一・一〇	二〇・一〇	一七・一一
二一・〇三	一六・〇五	一八・〇三	一九・〇二	二一・〇〇	一九・一一	一八・〇四	一七・〇三	一九・〇三	一七・〇四	一九・〇四	二一・〇二	一九・〇三	一七・一一
一九・〇三	一七・〇二	一七・〇〇	一九・〇四	二〇・〇四	二一・一〇	二〇・〇六	一九・〇一	二一・〇二	一九・〇三	一九・〇四	二一・〇二	一九・〇三	一九・〇五

學生生徒道府縣別

部科別 / 道府縣	大學院	農學部 農學科	農學部 農業經濟學科	農學部 農業生物學科	農學部 農藝化學科	農學部 林學科	農學部 畜產學科	農學部 農學實科	農學部 林學實科	醫學部 學生	工學部 專攻生	工學部 第一部類	工學部 第二部類	工學部 第三部類	工學部 第四部類	理學部 數學科	理學部 物理學科	理學部 化學科	理學部 地質學及礦物學科	理學部 植物學科	理學部 動物學科	豫科	附屬土木部	附屬水產部	計
北海道	五	一六	一九	五	一五	一四	一三	三三	四八	一二六	二	六二	二一	三三	二九	四	六	三	五	五	三	二四六	二六	三九	九二三
青森縣		一	一				一	一	八	五		一	一	一	一		一	二	一		一	一三	一八	四	四三
岩手縣			一					二	六	三		三			一				二		一	一八	四	四	四三
宮城縣		一	二			三	二	三	二	三		一	三	二	二			三	一	一	一	二九	二	四	六四
秋田縣		二			三	六	三		三	一〇			一	一	一	二	一	一	一	一	一	二八	四	三	七三
山形縣	一	一	二	一	一		二	四	三	一五		一		一	一			一	一	一		二八	二	三	六八
福島縣		一	一		二		二	三	一	八	一		三	二	三			二	一			二六	四	一四	七三
茨城縣				一	一			一	一	二				一	二			一				九		二	二五
栃木縣		一					二			三	一	二		二	一			二	二			九		一	二四
群馬縣										七												一〇		二	二八

埼玉縣				一	一			二		四		二			二							九		二	二三
千葉縣		三			三	一	一	二	一	二				二	一	一		一		一		一〇		一	三〇
東京府		一三	一	三	七	二	二	一	一	一五			八	二	四	一	二	五	二	二	三	七七		三	一七三
神奈川縣					二	一			一	一		一	一	四	一	一	一	一				一二		四	四一
新潟縣	一	五	一		六	一	六	四	三	八		二	二	三	一	二	三	一				三五	五	八	九七
富山縣		一	一		一	〇	一					二	三		一	三			一		三	一三		四	二三
石川縣		一	三					一		四				一			一					九	一	三	二五
福井縣					二			二		五	一				三			一		一		一二		二	二九
山梨縣		一			一	一		一		五		一		一		一						五		一	一八
長野縣		三	一		五	二	三	一	三	七				一	二		三	一		一	一	九	一	五	四七
岐阜縣					一		一	一		三							一	一			一	六		一	一六
靜岡縣	一	三	二		四	一				七		一	一	二					一			一八	一	二	四四
愛知縣		二			一	一		一		三			一	一	一	二		二		一		一四		一〇	四〇
三重縣		二	一		一	一		一		一				一		一	一	一			一	九		二	二三
滋賀縣		一					二								二			一				五			一〇

京都府		三		一			二	一		二				二	一	二	一					一二		一	二七
大阪府		四		二	二	一	二	一	一						一	一		三	一			八		三	三〇
兵庫縣		一	二		一	一	一	一		二			一		一			一		一	二	一九		五	四〇
奈良縣				一						二		一									一	四			九
和歌山縣		二				一	一			二				一		一	一					九		一	一九
鳥取縣				一	一		一	二	二	一			一		一			一				四	二		一七
島根縣						一	二															七		二	一四
岡山縣		一	一	一						二			一						一			七			一四
廣島縣			二								一			三		一	一	一	一			一五		一	二六
山口縣					二			三	一	四				一			一				二	六		四	二四
德島縣								一		一							一		一			四			八
香川縣	一								三				一	一		一	一				一	五		四	一八
愛媛縣						一	三	一		二											一	四		一	一三
高知縣					一				一	一		一							三			二		一	一〇
福岡縣		二			二	一	二	一		三			二	二	一	一	一			一		一四		七	四〇

	佐賀縣	長崎縣	熊本縣	大分縣	宮崎縣	鹿兒島縣	沖繩縣	朝鮮	臺灣	樺太	中華民國及滿洲國	合計
九								一			一	二
七六	一			二				三		一	一	八
四七						二		一		一		五
二〇				一	一						一	五
七三	一			二								三
四三			一									一
六九								二			二	五
八六						一					二	三
八五		一			一							二
二七四				三		一			一	一		六
八			一			二			一			四
八一						二						二
五											一	一
八〇			一									一
七三				二								二
二五						一						一
三四				一		一						二
三五								一				一
一九												一
一八												一
三三				一		一						二
九〇〇			一	四	二	三		二	一	五		一七
八八												一〇
一六九				三	一		一	一		一	四	一一
二二八六	八	五	一〇	一七	五	一三	一	一〇	二	九	一九	一一三

○卒業生姓名　（◉印死亡）

農學士

第一期（明治十三年七月卒業）

◉茄川重秀東京　佐藤昌介北海道　大島正健北海道　小野兼基北海道　◉黒岩四方之進北海道
◉渡瀨寅次郎東京　◉內田瀞北海道　◉佐藤勇北海道　◉田內捨六高知　◉伊藤一隆北海道
◉出田晴太郎大分　◉中島信之石川　柳本通義北海道

第二期（明治十四年七月卒業）

◉內村鑑三群馬　宮部金吾北海道　◉高木玉太郎東京　南鷹次郎北海道　◉足立元太郎北海道
新渡戸稻造岩手　◉廣井勇北海道　◉藤田九三郎東京　◉岩崎行親東京　町村金彌北海道

第三期（明治十五年七月卒業）

◉槻野四男吉新潟　◉齋藤祥三郎新潟　高岡直吉島根　◉原田成貞茨城　小島喜作靜岡
◉大津和多理宮城　◉赤壁二郎石川　◉椙山清利千葉　久島重義東京　◉佐久間信恭靜岡
◉中根明北海道　◉伊吹鎗造京都　尾泉貞太郎秋田　堀宗一北海道　◉武藤亥三郎盛岡
◉調所恒德東京　◉諏訪鹿三北海道　鵜崎久米一長野

第四期（明治十七年七月卒業）

◉細川文五郎岡山　◉福原鐵之輔山口　◉菊地熊太郎岩手　頭本元貞島取　◉佐瀨辰三郎北海道
◉渡瀨庄三郎靜岡　中根壽北海道　◉手島十郎京都　◉志賀重昂愛知　◉岡文二宮城

◉松永武雄愛知　◉結城祥吾福島
早川鐵治岡山　◉山下敬太郎兵庫

第五期（明治十八年七月卒業）

◉安岡雋次郎高知　小寺甲子二兵庫　◉野澤俊次郎鹿兒島
◉本土源次郎長崎　◉山口莊三兵庫
◉今外三郎青森　安田英吉島取　◉下島幸吉福島　◉大町信宮城
◉長谷川豐太郎東京　槻忠一郎新潟　◉小野三郎福井

第六期（明治二十年七月卒業）

谷清遠島根　渡邊勇太郎大分　◉伊達直温北海道
和田健三長野　柳内儀之進北海道　◉友高善嗣福井　◉石橋期東京
◉水野喜太郎北海道　◉中川太郎山口

第七期（明治二十一年七月卒業）

平野象一石川　藤村信吉北海道　清水由松福井　寺尾熊三兵庫　三輪一福岡
爾角熊雄熊本　◉石川貞治岡山　莊島熊六佐賀　内村達三郎東京　堀正太郎島取
◉關口長一郎群馬　◉廣瀨八三郎大分　◉四川忠太郎東京　岡元輔宮城　木村繁四郎青森
◉池田或吉鹿兒島　◉牟田武一郎佐賀

第八期（明治二十二年七月卒業）

◉足立五郎作靜岡　橋本左五郎北海道　◉瀨尾鍋吉北海道　◉目黒末之丞宮城　赤羽雄一長野
◉榊原仲愛知　◉秋山長俊北海道　長崎常北海道　藤田經信東京　◉中村鐵太郎島根
◉今村猛雄北海道　◉横山壯次郎北海道　◉長屋平太郎北海道　井倉辛喜知岐阜　高林甲子郎山口
◉和田太吉福井　藤根吉春愛手

第九期（明治二十四年七月卒業）

清水郁藏山口　鐸木近吉福島　◉星野和太郎北海道　◉宮崎太郎北海道
吉村喜一郎北海道　◉荒井寅治北海道　◉池内德孝愛媛

第十期（明治二十五年七月卒業）

村越銑之輔北海道　◉角田啓司北海道　小倉延足北海道　田口於菟吉東京
小田切榮三郎北海道　◉河原丑輔山口　◉安田彥北海道　◉池田貫道佐賀

第十一期（明治二十六年七月卒業）

大島金太郎北海道　出田新大分　松澤辰三郎北海道　菊地擇北海道　鹿討豐太郎北海道
莊司力松北海道　河南休男東京　沼田正直東京　小川二郎北海道　◉伊藤廣幾北海道
谷井恭吉北海道　◉加藤忠治千葉　須田金之助山形　近藤仙吉郎新潟　柏井德一福岡

第十二期（明治二十七年七月卒業）

山田幸太郎北海道　◉黒澤信良岩手　尾見五郎北海道　川上謙三郎新潟　小川三策岐阜
伊東一二東京　末田新松北海道

第十三期（明治二十八年七月卒業）

高岡熊雄北海道　◉高橋良直北海道　千石興太郎北海道　◉坂井菊松北海道　齋藤和福井
黒澤長平宮城　◉石井小太郎岩手　松村松年北海道　萱場三郎北海道　山口萬男東京
四谷清次郎北海道

第十四期（明治二十九年七月卒業）

平塚直治北海道　栃內壬五郎北海道　清水元太郎愛知　湯淺中夫北海道　◉大脇正諄北海道